序文

多賀城市内には特別史跡多賀城跡附寺跡をはじめ、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数所在 し、それらは市域の約3割にも及んでおります。これら貴重な「文化遺産」を後世に伝え ていくことは我々の重要な責務であります。

近年は、西部地区を中心に宅地造成工事や個人住宅建築工事などによる発掘調査件数が 増加傾向にありますが、当教育委員会としても開発事業との円滑な調整を図りつつ、国民 共有の歴史的財産である埋蔵文化財を適切に保護し、活用に努めているところです。

本書は、平成31年度から令和2年度にわたり受託事業として実施した山王遺跡第214次調査の成果を収録したものです。今回の調査では古墳時代、奈良・平安時代の遺構や遺物が発見されました。平安時代では、多賀城の南面に広がるまち並みの基幹道路である東西大路と平行する東西道路跡が発見され、当時の方格地割を検討する上で貴重な資料を得ることができました。また、何度も耕作が繰り返されたと考えられる畑の跡、そして、畑地から掘立柱建物が立ち並ぶまちの風景へと変化していく変遷も確認することができました。

広大な遺跡範囲に対し、調査面積はわずかですが、これらひとつひとつの成果を積み重ねていくことが、本市の新たな歴史の解明につながるものと確信しております。

最後になりましたが、発掘調査に際し、御理解と御協力をいただきました地権者の皆様 をはじめ関係各位に対し、心より感謝申し上げ挨拶といたします。

令和4年3月

多賀城市教育委員会 教育長 麻生川 敦

例 言

- 1 本書は、令和元年から令和2年の受託事業で実施した山王遺跡第214次調査の成果をまとめたものである。
- 2 遺構の名称は、各遺跡とも第1次調査からの通し番号である。
- 3 平成14年4月1日の測量法の改正に従い、本書では経緯度の基準を世界測地系で表示している。また、本書で報告している調査では、平成23年3月11日の東日本大震災以降に測量した座標を用いているが、震災以前の座標値と整合させるために、再測量の成果に基づき、震災以前に行った調査については東に約3m、南に約1mの補正をかけている。
- 4 挿図中の高さは、標高値を示している。
- 5 土色は、『新版標準土色帖』(小山・竹原:1996)を参考にした。
- 6 自然科学分析は、(株)パレオ・ラボに委託して樹種同定を行った。
- 7 報告書作成にあたって、以下の方からご指導・ご助言を賜った(敬称略)。 荒井格(仙台市教育委員会)、佐藤信(東京大学名誉教授)、長岡龍作(東北大学)、 平川南(人間文化研究機構)
- 8 執筆は職員の協議・検討のもと I・Ⅱを桑折肇、Ⅲを赤澤靖章が担当した。編集は赤澤が行った。遺物の写真撮影、図版作成等は赤澤・桑折・高橋伶奈と遺物整理員が行った。
- 9 調査に関する諸記録及び出土遺物は、すべて多賀城市教育委員会が保管している。

調查要項

- 1 調 査 主 体 多賀城市教育委員会 教育長 麻生川敦
- 2 調 査 担 当 多賀城市埋蔵文化財調査センター 所 長 伊藤文昭
- 3 調査担当者 多賀城市埋蔵文化財調査センター

副主幹 千葉孝弥 赤澤靖章

技 師 小原駿平

調査員 佐藤則之 桑折肇 金子かおる

- 4 調査協力者 株式会社みつば
- 5 調査従事者 平成31年度

伊藤茂 奥田美雪 菅野大 佐々木啓太 佐々木正則 佐藤長次 佐藤由紀子 菅原正義 武田進 竹本裕昭 土佐実 長瀬真貴子 半谷正明 幕田裕子 山田信治

令和2年度

阿部清次 阿部文紀 伊藤幸夫 内田節子 内田正樹 宇津志清明 岡澤一清 奥山妙子 工藤純子 斎藤隆行 佐藤俊博 鈴木道徳 鈴木真由美 竹本裕昭 土佐実 畑山愼次 村田文雄 山本耕文 横田律男 米倉幸恵

6 整理従事者 有路尚子 石垣玲子 浦山紀以子 奥田美雪 菊池あかね 佐々木直美 佐々木宣子 佐藤ゆかり 高橋明子 千葉貴久江 千葉都美 長瀬真貴子 秦千尋 堀川紀子 宮城ひとみ

凡例

1 本書で使用した遺構の略称は、次のとおりである。

SA:掘立柱塀跡 SB:掘立柱建物跡 SD:溝跡 SE:井戸跡 SK:土坑

ピット (P): 柱穴及び小穴 SX: その他の遺構

- 2 遺物観察表内の計測値はすべてcmである。また、土器の調整は、回転ヘラケズリを回転ケズリ、手持 ちヘラケズリを手持ケズリと省略している。
- 3 奈良·平安時代の土器の分類記号は『市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ』(多 賀城市教育委員会 2003)に従った。詳細は下記のとおりである。

(1) 土師器坏

A類:ロクロ調整を行わないもの

B類:ロクロ調整を行ったもの

B I 類:ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされたもの

В Ⅱ類:ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされたもの

BⅢ類:ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

BIV類:ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

BV類:ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

BI・BII類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切りによるものをcとして細分する

(2) 土師器甕

A類:ロクロ調整を行わないもの B類:ロクロ調整を行ったもの

(3) 須恵器坏

I類:ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされたもの

Ⅱ類:ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされたもの

Ⅲ類:ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

Ⅳ類:ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

V類:ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

- $I \cdot II$ 類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切りによるものをcとして細分する。
- 4 本文中で用いている「灰白色火山灰」とは、東北地方に広く降下した広域火山灰である。その降下年代に関しては、915年とする説(町田洋「火山灰とテフラ」日本第四紀学会編『日本第四紀地図』1987年。阿子島功・壇原徹「東北地方、10 C 頃の降下火山灰について」『中川久夫教授退官記念地質学論文集』、1991年)と、907年から934年の間とする説(宮城県多賀城跡調査研究所『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1997』、1998年)に見解が分かれている。近年、915年説を評価するものも見られる(小口雅史「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題―十和田 a と白頭山(長白山)を中心に一」、笹山晴生編『日本律令制の展開』吉川弘文館、2003年)。本書では、これらの研究成果をもとに、10世紀前葉に降下したものと理解する。

目 次

I	遺跡	遺跡の地理的・歴史的環境 \cdots 1		
Π	調査	調査に至る経緯と経過3		
Ш	調査	調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	1	基本層	雪序······	. 7
	2	発見遺	貴構と遺物	24
		(1)	整地層	24
		(2)	道路跡	24
		(3)	溝跡·····	25
		(4)	掘立柱建物跡	46
		(5)	掘立柱塀跡	51
		(6)	井戸跡	66
		(7)	土坑	81
		(8)	畑跡	96
		(9)	遺構外出土遺物	.11
	3	まとめ	5	.18
		(1)	山王遺跡第123次調査の検討	18
		(2)	東西道路跡と区画溝跡の変遷	.19
		(3)	方格地割	.22
		(4)	畑跡	.22
		(5)	掘立柱建物跡・掘立柱塀跡	
		(6)	S D3110区画溝跡····· 1	
		(7)	S D3113区画溝跡······ 1	.24
		(8)	S K3085土坑······ 1	.24
		(9)	平仮名と推測される墨書土器	
		(10)	蓮弁状木製品	.26
		(11)	総括······· 1	27

Ⅰ 遺跡の地理的・歴史的環境

多賀城市の地形は、中央部を北西から南東方向に貫流する砂押川を境に、東側の丘陵部と西側の沖積地に二分される。丘陵部は、松島・塩釜方面から延びる標高40~70mの低丘陵であり、南西に向かって枝状に派生している。沖積地と接する付近では、谷状の地形を形成しており、緩やかではあるが起伏に富んだ様相をみせる。沖積地は、仙台平野の北東部に相当する。仙台市岩切方面から東に向かう県道泉・塩釜線沿いには、標高5~6mの微高地が延びており、その北側には低湿地が広がっている。一方、南側には

大小の微高地や低湿地、旧河道などがあり、海岸に近い場所で は浜堤列も確認できる。

市内には、40を超える遺跡が所在している。西側の沖積地から丘陵部の西端にかけては、新田・山王・市川橋・高崎・西沢遺跡など市内でも有数の規模をもつ遺跡が隣接して分布している。これらの遺跡で発見された遺構や遺物には、陸奥国府が置かれた多賀城と密接に関わるものが多く認められ、この時期に限ってみれば一連の遺跡群と捉えることができる。一方、南東部には海岸線沿いの浜堤上に八幡沖遺跡、浜堤から丘陵にかけては大代貝塚や大代横穴墓群、柏木遺跡などが所在している。

山王遺跡は、標高3~4mの微高地に立地し、その範囲は東西約2km、南北約1kmである。これまで弥生時代中期頃の水田



第1図 多賀城市位置図

跡や古墳時代前期〜後期の集落跡、古代の方格地割、中世の屋敷跡などが発見されている。このうち、古代の方格地割は南北大路と東西大路の二つの幹線道路を基準とし、東西・南北の直線道路によっておよそ 1町四方の区画を造成したものである。これによって形成されたまち並みからは、上級役人の邸宅や中・下級役人の住まいである建物跡や井戸跡などが多数発見されている。

第2図 調査地の位置と周辺の遺跡

Ⅱ 調査に至る経緯と経過

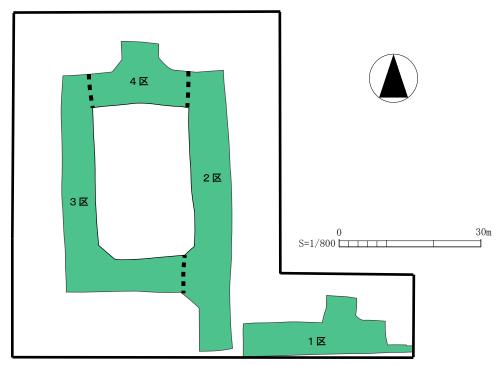
本件は、山王字山王四区地内における宅地造成工事に伴う本発掘調査である。平成31年3月27日、地権者より当該地区における宅地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについての協議書が提出された。計画では約4,600㎡の敷地内での宅地造成17区画及び幅6mの道路建築を行うものである。道路部分で1mの掘削、上水道管埋設部分で幅50cm、深さ最大1.7mの掘削を行う。東側隣接地で実施された第186次調査(平成29年)において、旧水田耕作土から約30cmの深さで遺構を確認しているため、計画面積も広く、埋蔵文化財への影響が懸念された。このため、工法変更による遺跡を保存する協議を行ったが、提出された工法で工事を実施することになり、道路部分については発掘調査を行うことになった。7月5日より地権者と本発掘調査に係わる調査期間及び費用について打ち合わせを行い、7月17日に本件に係る発掘調査委託契約書を締結した。

調査は1区から令和元年11月1日より実施した。重機により表土を除去した後、プレハブ、簡易トイレの設置など調査に係る環境整備を行った。6日より作業員を投入して調査区東半部の精査を開始した。22日までの間に、光波測量を行い、調査区に任意の基準点を設定し、平面図・断面図の作成を随時行った。12月20日までに全ての記録を記録を取り終えて、機材の引上げを行った。その後、調査区の埋戻しを行い、1区の調査は一旦終了した。

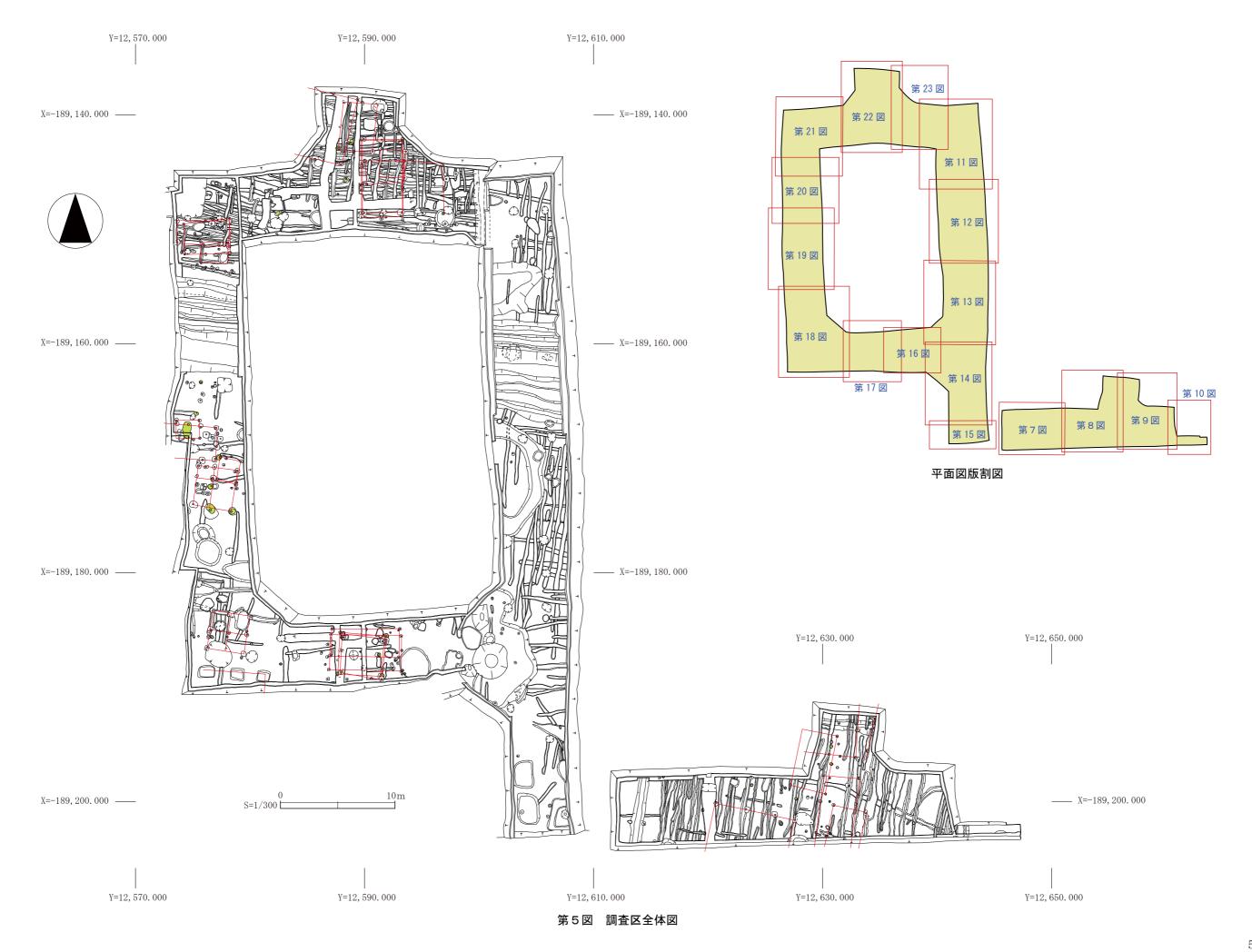
2回目の調査は令和2年4月20日より実施した。重機による1区の擁壁工区の土砂の撤去及び水汲みを施工業者に依頼した。21日より作業員を投入して環境整備と擁壁工区の精査作業を行った。精査の結果、遺構は確認出来なかったため、24日に写真記録及び光波測量を行い、擁壁工区の調査は終了した。同時進行で2区の南側から重機による掘削を行い、溝跡と土坑、井戸跡などを発見した。28日より遺構の掘り下げを行った。5月7日から2区の北半分の掘削を行い、11日から遺構検出作業を行った。15日に図面作成のための基準点を調査区内に設定し、平面図・断面図の作成を随時行った。6月29日からは遺構の掘り下げ、図面記録と並行して重機による3区の掘削を開始し、3区中央部に2区で確認した道路跡の延長部分を確認した。7月13日に3区の光波測量による2区同様の基準点の設定を行い、平面図・断面図の作成を随時行った。7月30日には2区での全ての記録が完了し、重機による埋戻しを行い、31日には埋戻しが完了した。8月28日から重機による4区の掘削を開始した。9月3日から3区の作業と並行して、4区での作業を開始し、16日から検出作業を行った。18日に3区の完掘写真と4区の遺構検出の写真記録を終え、その後、光波測量を行い、4区内にも図面作成のための基準点を設定し、平面図・断面図の作成を随時行った。10月15日から16日にかけて3区の埋戻しを行った。11月6日までに4区のすべての記録を取り終えて、機材撤収の作業を行い10日には、すべての機材を引上げた。翌日11日に施工業者に現地引き渡しを行い、本件に係る現地調査の一切を終了した。



第3図 計画地位置図



第4図 造成計画地と調査区位置図



5 · 6

Ⅲ 調査成果

1 基本層序

今回の調査で確認した層序は、以下のとおりである(第6・26・31図)。

I層:現代の盛土(I1層)と山王旧市営住宅建設(昭和40年代)以前の水田耕作土(I2層。黒褐色(7.5YR3/1)粘土)である。厚さは $I1層が80 \sim 100cm$ 、I2層が20cmである。

Ⅱ層: 黒色 (10YR1.7/1) 粘土。方格地割廃絶後の堆積層で、1区や2区北部~4区東端部、道路跡上層などで確認した。厚さは4cmである。

Ⅲ1層: 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト。灰白色火山灰ブロックを含み (二次堆積)、1区~2区南部、2区 北部~4区東端部などで確認した。厚さは10~15cmである。

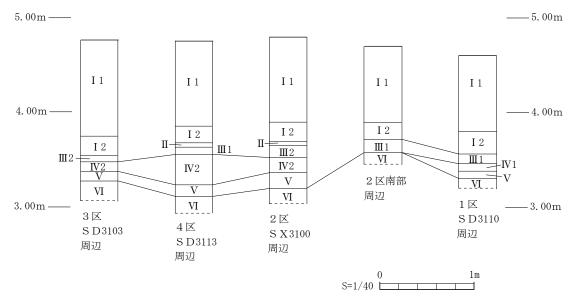
Ⅲ2層: 黒褐色 (10YR3/2) シルト。 2 区中央部~3 区中央部で確認し、道路跡などの遺構検出面となる。 厚さは7 cmである。

Ⅳ1層: S X 3099整地層。「2 発見遺構と遺物 (1)整地層」に記載した。

IV2層: 浅黄色 (2.5 Y7/3) シルト、灰黄褐色 (10 YR4/2) シルト。下層土ブロックを含む地点もある。 1 区~2 区南部を除く調査区で確認した。遺構検出面である。厚さは $16 \sim 32 \, \mathrm{cm}$ である。

V層: 黒褐色 (7.5YR3/2・2.5Y3/2) 粘土。 1 区東北部、 2 区北部~中央部、 3・4 区で確認した。 3 区 南西部で遺構検出面となる。 1 区で古墳時代前期の土器が出土した。厚さは 7~ 16cmである。

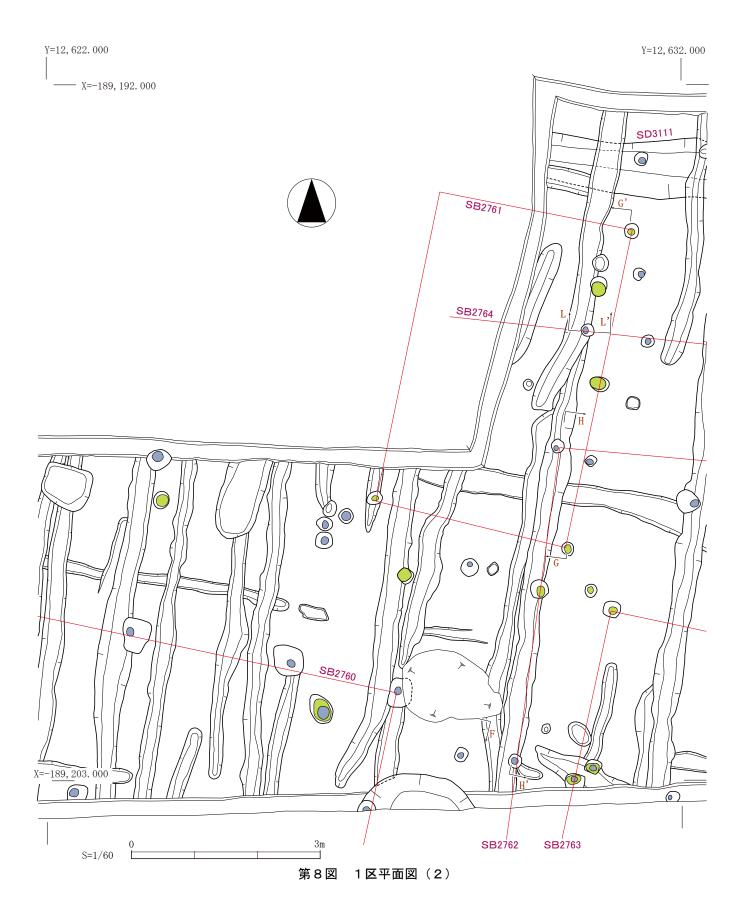
VI層: にぶい黄褐色 (10YR7/2) 砂質シルト、灰黄色 (2.5Y7/2) シルト。すべての調査区で確認した。 1区 (北東部を除く)、 2区南部で遺構検出面となる。

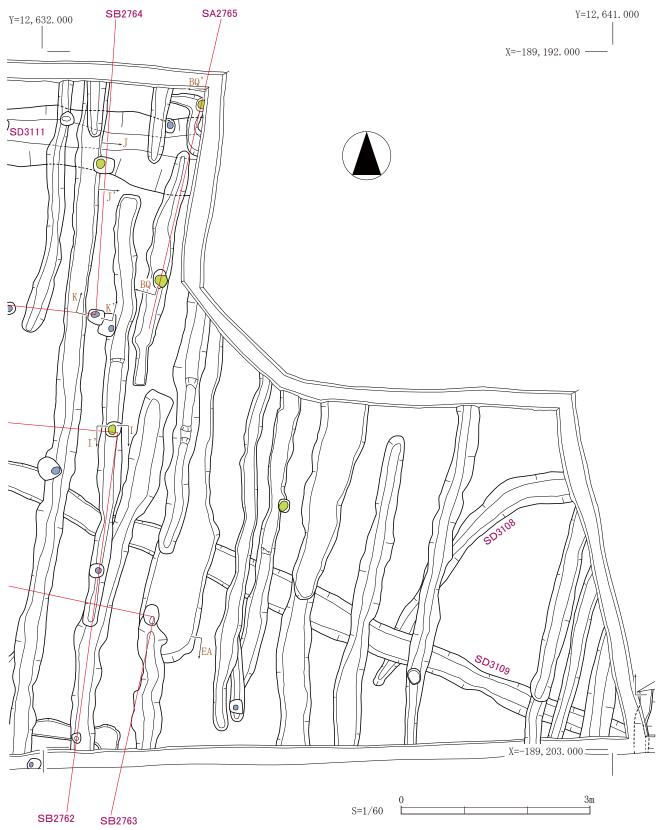


第6図 層序模式図

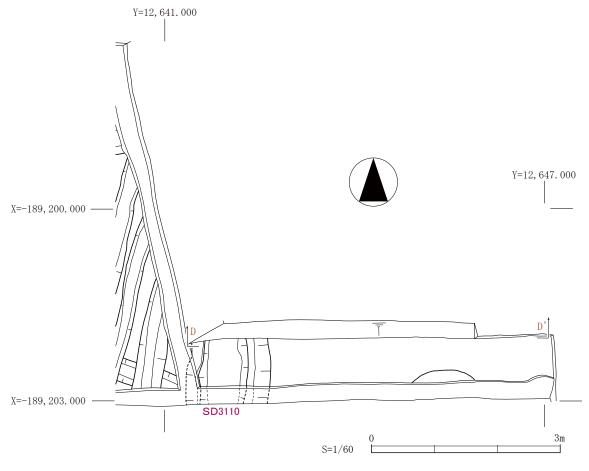


第7図 1区平面図(1)

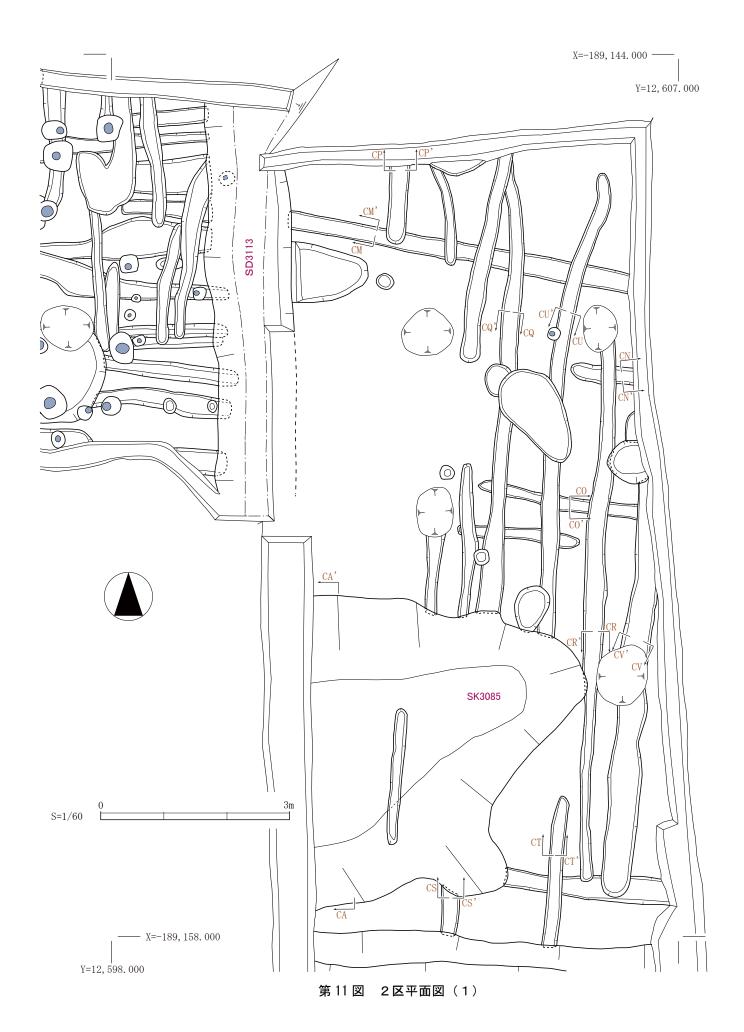


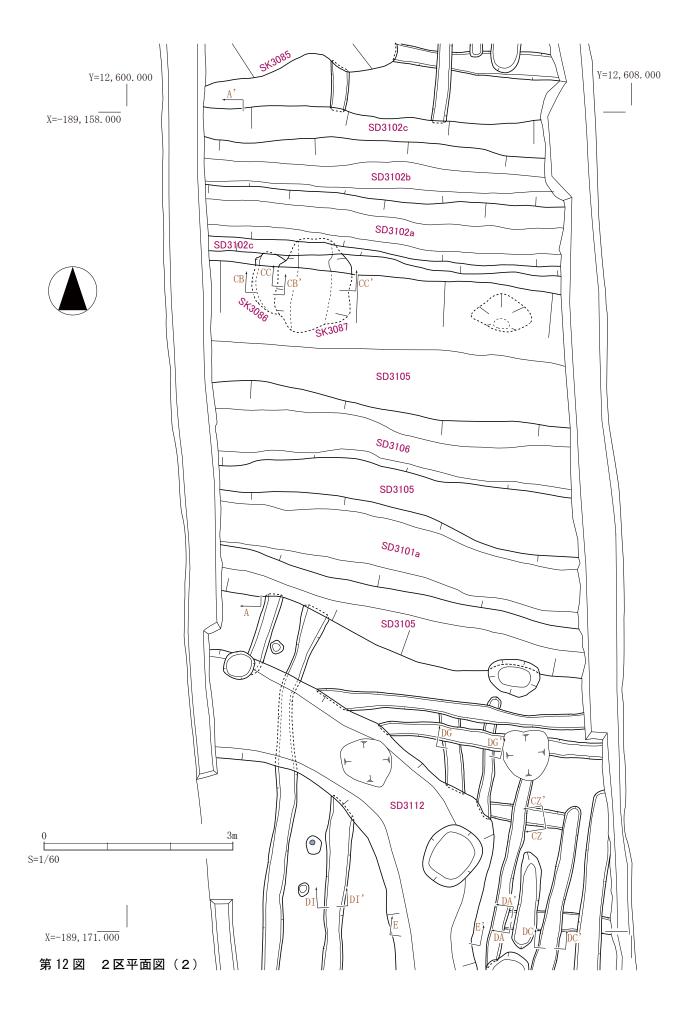


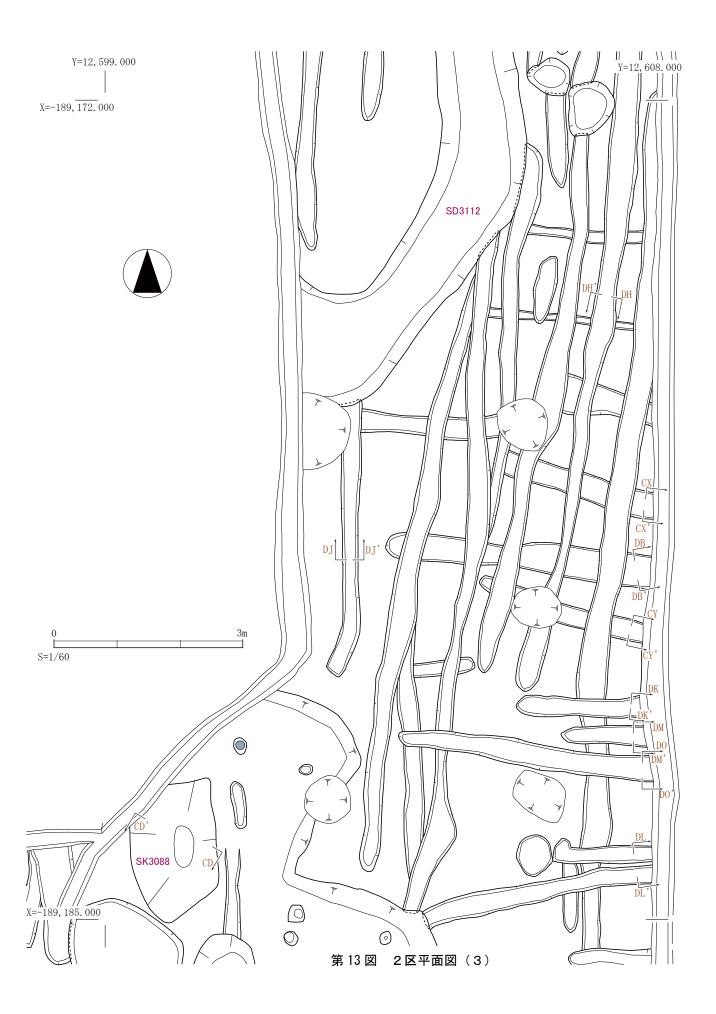
第9図 1区平面図(3)

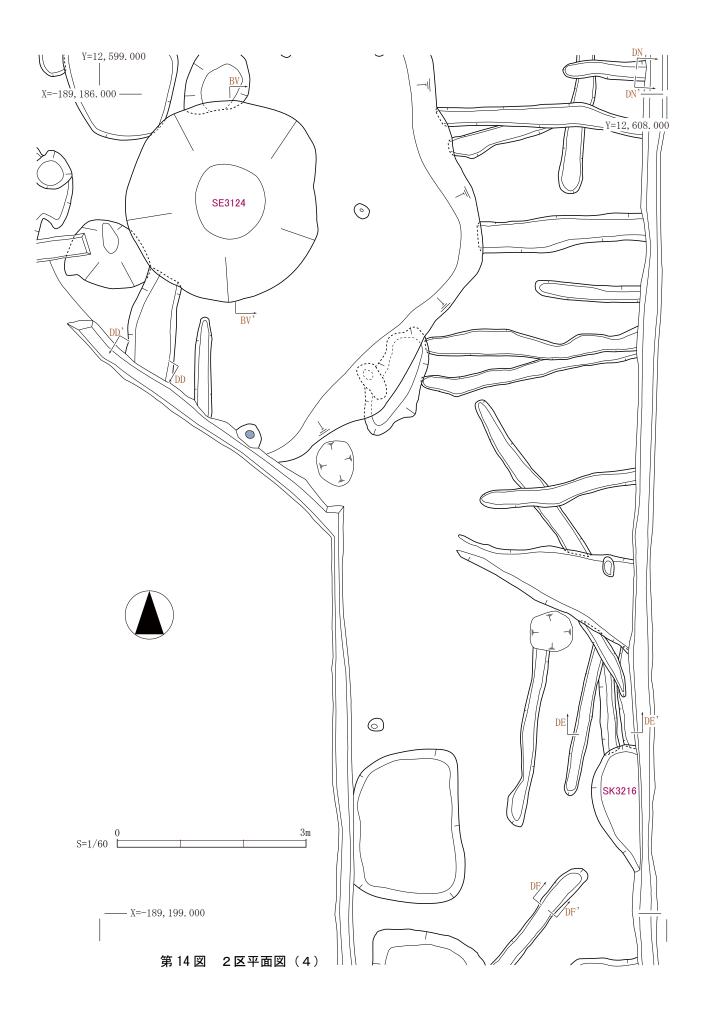


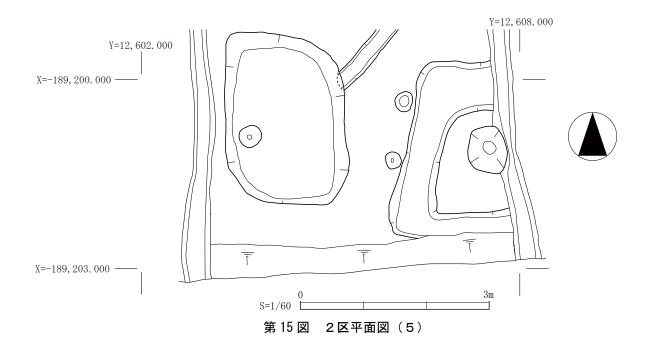
第10図 1区平面図(4)

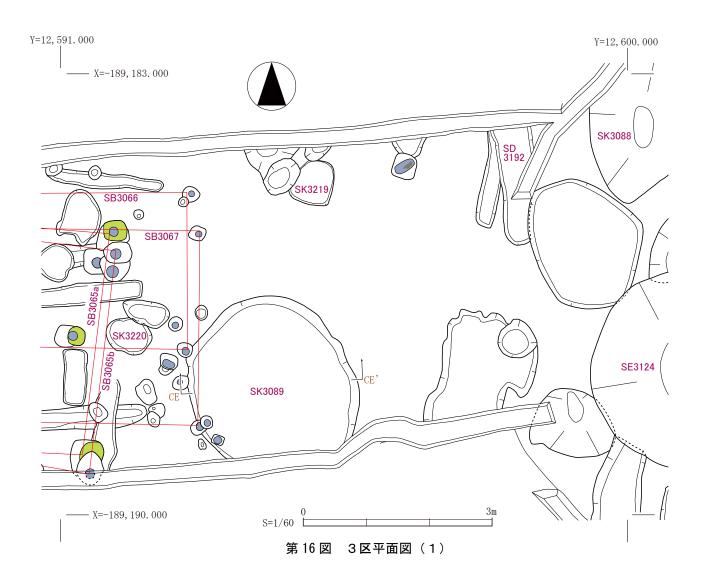


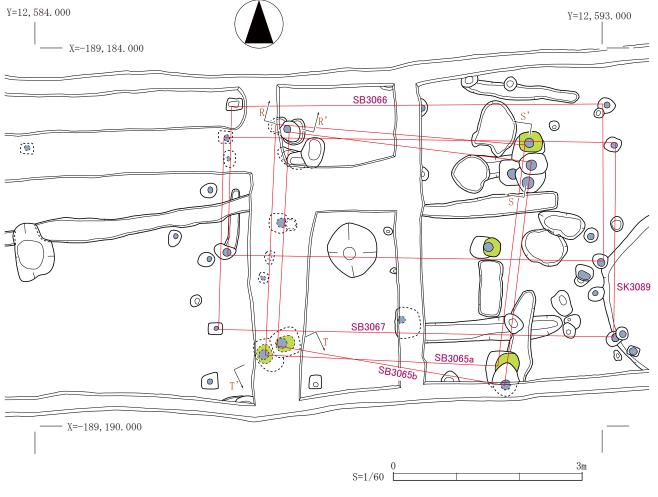




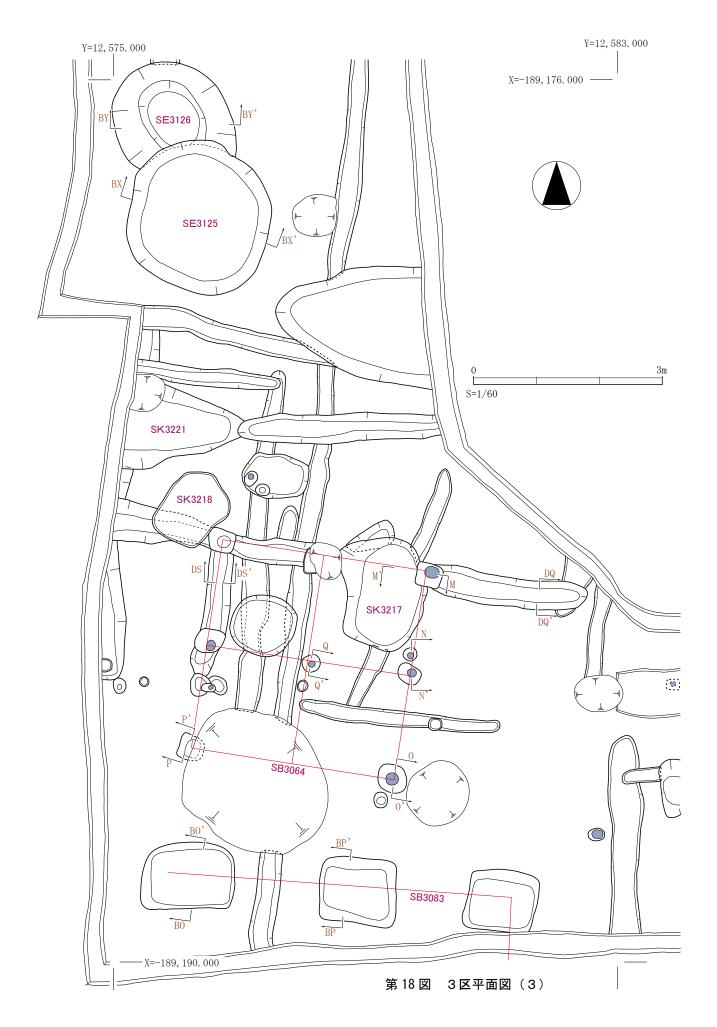


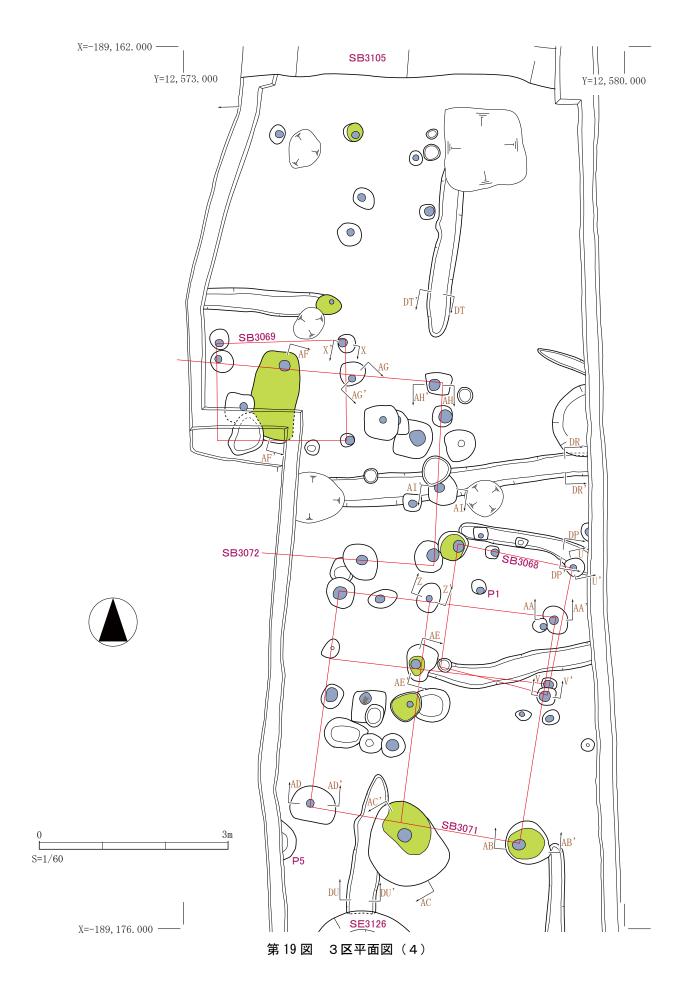


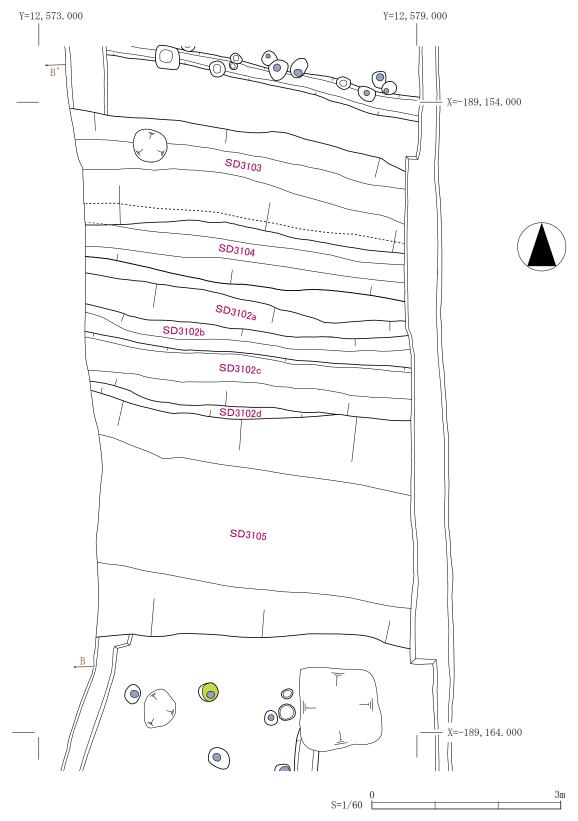




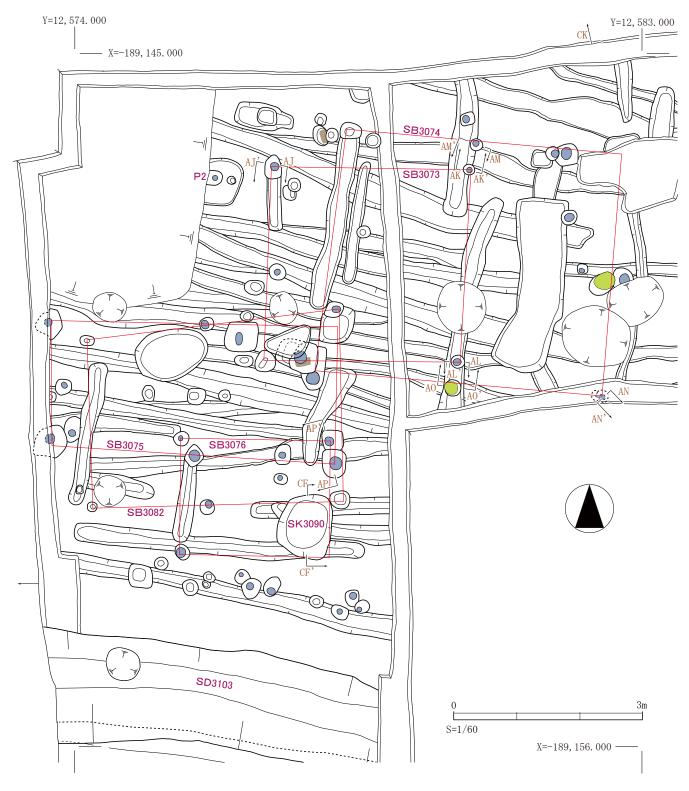
第17図 3区平面図(2)







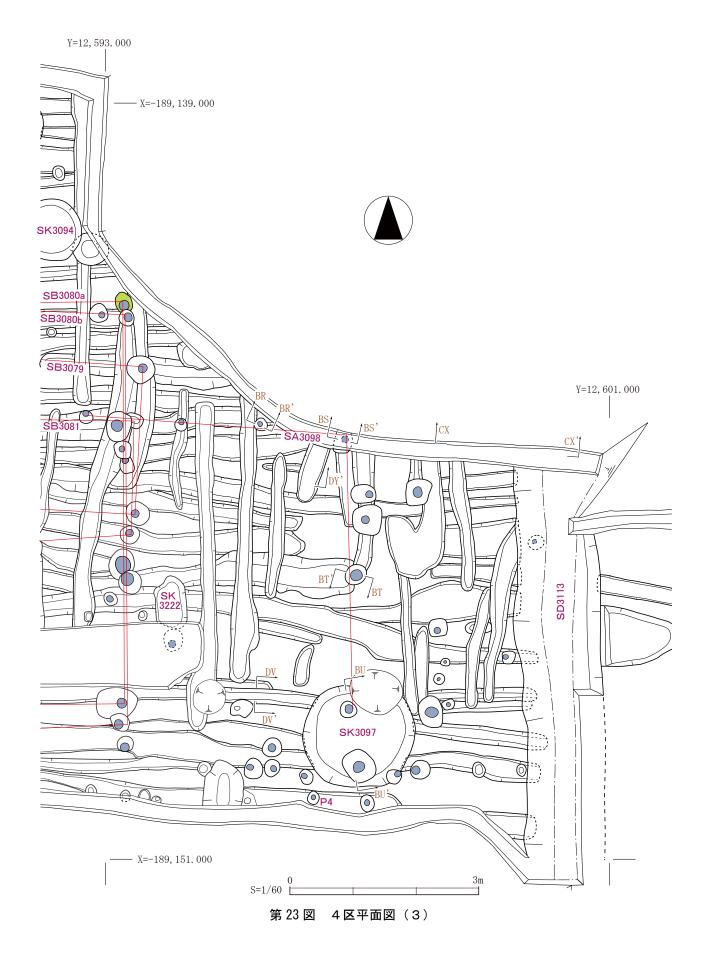
第20図 3区平面図(5)



第21図 3区平面図(6)・4区平面図(1)



第22図 4区平面図(2)



2 発見遺構と遺物

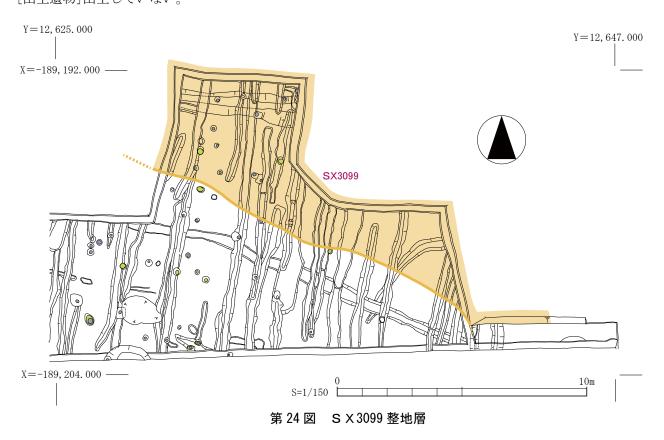
(1) 整地層

1区から整地層1面を検出した。

【SX3099整地層】(第24·31(SD3110)図)

[重複] S D 3110・3111溝跡、 S B 2761・2762・2764掘立柱建物跡、 S A 2765掘立柱塀跡等より古い。 S D 3108溝跡より新しい。

[規模・埋土] 東西16.4m以上、南北9.5m以上、厚さ5~13cmである。埋土は、にぶい黄色 (2.5 Y6/4) 細砂で、黄灰色シルトブロックを少量含む。下層のV層(自然堆積)の分布と同じ範囲に堆積している。 [出土遺物]出土していない。



(2)道路跡

2・3区で東西道路跡1条を検出した。

【S X 3100東西道路跡】 (第12・20・25 ~ 30・85・86図、写真図版 5 ・ 6)

[重複]SD3105・3106区画溝跡、SK3086・3087土坑、SX3116・3118畑跡より新しい。

[変遷] S D 3101 南側溝跡は 2・3 区で 2 時期、 S D 3102 北側溝跡は 2 区で 3 時期、 3 区で 4 時期確認した。 道路跡の変遷は、古い順から A 期 → B 期 → C 期 → D 期となる。

[規模・路面]検出長は34.00m、路幅(側溝心々計測)は、C期で2区が5.58~6.28m、3区が2.53~2.80mである。D期で2区が5.00~5.68m、3区が2.42~2.59mである。方向はE-5°-Sである。路面構築土は確認されなかった。路面堆積土は2層確認した。2層(第25図No.18)は灰白色火山灰が自然堆積し、3区SD3102bでも同様の状況からB期に伴うものと考える。遺物は出土していない。1層(第

25図No.17)はD期の3区SD3101dに切られていることから、D期よりも古いC期に伴うものと考える。 出土遺物は、土師器高台付坏 (BV)・甕 (A・B)、須恵器坏 (V) (第33図1)・蓋 (第33図2・3)・甕・瓶、須恵系土器坏が出土した。

[S D3101南側溝] 2区: (S D3101c) 3101dに壊されている。上幅 $1.43\sim1.60$ m、下幅 $0.65\sim0.80$ m、深さ0.50mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(B)・甕(A・B)、須恵器坏・甕が出土した。(S D3101d) 上幅 $2.48\sim1.68$ m、下幅 $0.45\sim0.62$ m、深さ0.36mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(BV)(第33図 $4\cdot5$)、丸瓦(第33区6)、2層から須恵器坏・甕が出土した。

3区:(S D3101c) 3101dに壊されている。上幅1.20~1.30m、下幅0.34~0.47m、深さ0.76mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器甕・瓶、2層から土師器坏(BV)・甕(A)(第32図6・7)、須恵器坏(Ⅲ)(第32図4)・(Ic)(第32図5)・蓋・甕(第32図8)・瓶、平瓦が出土した。(S D3101d) 上幅1.53~1.60m、下幅0.18~0.30m、深さ0.42mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器甕、平瓦、2層から土師器坏(BV)・甕(A・B)、須恵器甕・瓶、3層から土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕が出土した。

[SD3102北側溝] 2区: (SD3102b) 3102c・dに壊されている。上幅 $0.82 \sim 0.97$ m、下幅 $0.40 \sim 0.44$ m、深さ0.43mである。埋土は2層で、人為堆積である。出土遺物は、須恵器甕が出土した。(SD3102c) 3102dに壊されている。上幅 $0.81 \sim 1.00$ m、下幅 $0.20 \sim 0.30$ m、深さ0.43mである。埋土は2層で、自然堆積である。出土遺物は、2層から土師器片、須恵器坏(I)(第32図2)・(V)(第32図3) が出土した。(SD3102d) 上幅 $2.18 \sim 2.47$ m、下幅 $0.82 \sim 1.03$ m、深さ0.44mである。埋土は5層で、自然堆積である。出土遺物は、1層から土師器甕(A・B)、須恵器坏(IIa)・甕、2層から須恵器甕、3層から土師器坏(B)、須恵器甕が出土した。その他、 $a \sim b$ (層位不明)から土師器坏(BV)(第33図7)・甕(B)(第33図8)、須恵器坏(I)(第33図9)・蓋(第33図11)・瓶(第33図 $10 \cdot 12$)が出土した。

3区: (SD3102a) 3102b・cに壊されている。上幅0.25 ~ 0.57m、深さ0.28mである。埋土は1層で、自然堆積である。遺物は出土していない。(SD3102b) 3102cに壊されている。上幅0.44 ~ 0.59m、下幅0.15 ~ 0.30m、深さ0.47mである。埋土は3層で、自然堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。出土遺物は、1層から土師器坏(B)・甕(B)、須恵器甕(第32図1)・瓶、平瓦が出土した。(SD3102c) 3102bに壊されている。上幅1.36 ~ 1.61m、下幅0.40 ~ 0.52m、深さ0.63mである。埋土は3層で、自然堆積である。出土遺物は、土師器坏(BII・BV)・甕(B)、須恵器甕が出土した。(SD3102d) 上幅1.85 ~ 2.10m、下幅0.43 ~ 0.60m、深さ0.58mである。埋土は6層で、自然堆積である。出土遺物は、1層は土師器坏(B)・甕(B)、須恵器坪・甕・瓶、平瓦、2層から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器甕・瓶、3層から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器郷・瓶、3層から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器郷・漁が出土した。

(3) 溝跡

溝跡は14条検出した。

【SD3103区画溝跡】(第20・30・86図、写真図版 6)

3区のSX3100東西道路跡の北側で検出された。道路跡と平行した位置関係にある。

[重複]SD3104区画溝跡より新しい。

[規模・埋土]検出長5.82m、上幅1.31 \sim 2.08m、下幅0.40 \sim 0.52m、深さ0.29 \sim 0.43mである。方向は $E-10^\circ-S$ である。埋土は4層で、自然堆積である。

[遺物] 1層から土師器坏 (BI) (第37図 2)・(BV)・甕 (A・B)、須恵器坏 (V)・高台付坏 (I) (第 37図 2)・甕、2層から土師器甕 (A)、須恵器甕、二彩または三彩と推定される瓶類 (第37図 1) が出土した。

【SD3104区画溝跡】(第20・30・86図、写真図版 6)

3区のSX3100東西道路跡の北側で検出された。SD3103区画溝跡と同様に道路跡と平行した位置関係にある。

[重複]SD3103区画溝跡より古い。

[規模・埋土]検出長5.82m、上幅0.81 \sim 1.01m、下幅0.27 \sim 0.37m、深さ0.32 \sim 0.40mである。方向はE-8° -Sである。埋土は3層で、自然堆積である。

[遺物] 1層から土師器坏 (BV)・蓋・甕 (A)・(B) (第37図5・7)、須恵器坏 (Ⅱ・Ⅱb)・(V) (第37図6)・蓋・甕、平瓦・丸瓦 (第37図8)、土玉 (第37図9) が出土した。 2層から土師器坏 (BV) (第37図4) が出土した。

【SD3105区画溝跡】(第12・20・25・26・28・30・86図、写真図版5)

SX3100東西道路跡のSD3101南側溝跡下で検出された。南側溝跡と同じ方向である。

[重複]SX3100東西道路跡(SD3101・3102)より古い。SD3106区画溝跡より新しい。

[規模・埋土]検出長34.00m、上幅3.45 \sim 6.12m、下幅1.70 \sim 4.32m、深さ0.52 \sim 0.60mである。方向は $E-8^\circ-S$ である。埋土は2区が2層、3区が3層で、自然堆積である。

[遺物] 2 区は 1 層から土師器坏 (B V) (第36図1)・高台付坏・甕 (A・B)、須恵器坏 (Ⅱ・Ⅲ・V)・高台付坏 (I c)・蓋・甕・瓶、平瓦、2層からは土師器坏 (B I・B V)・高台付坏 (第36図2)・蓋・甕 (A)・(B) (第36図3・4)、須恵器坏 (I・I c)・(Ⅱ) (第36図5)・(V) (第36図6)・高台付坏 (第36図7)・甕 (第36図10・11)・瓶 (第36図8・9)、平瓦が出土した。 3 区は 1 層からは土師器坏 (A) (第35図1)・高坏 (第35図2)・甕 (A・B)、須恵器坏 (第35図5)・(Ⅱ a) (第35図3)・(V) (第35図4・6)・鉢 (第35図7)・甕・瓶 (第35図8・9)、平瓦が出土した。 2 層からは土師器坏 (B) (第34図10)、須恵器坏 (Ⅱ) (第34図11)・(Ⅲ・V)・高台付坏 (I)・双耳坏 (第34図12)・蓋 (第34図13)・甕・瓶・平瓶 (第34図14)、平瓦が出土した。 3 層から土師器坏 (B)・甕 (A・B)、須恵器坏 (I) (第34図4)・(Ⅱ) (第34図3・6・7)・(Ⅱb) (第34図5)・(V)・蓋 (第34図8)・甕・瓶、ミニチュア土器 (第34図9) が出土した。その他、底面から須恵器坏 (第34図1)・蓋 (第34図2) が出土した。

【SD3106区画溝跡】(第12・25・28・86図、写真図版 5)

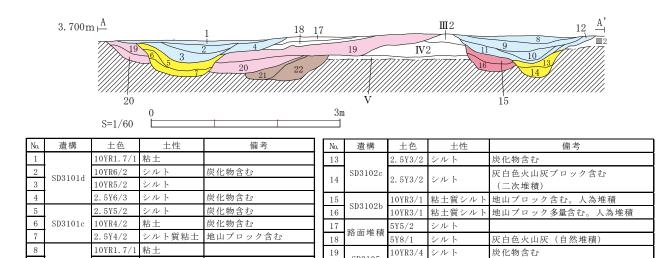
2区のSD3105区画溝跡下で検出された。SD3101南側溝跡・SD3105区画溝跡と同じ方向である。 [重複]SD3105区画溝跡より古い。

[規模・埋土]検出長5.63m、上幅0.85~1.32m、下幅0.45~0.66m、深さ0.42mである。方向はE-7°-Sである。埋土は2層で、人為堆積である。

[遺物] 1層から土師器甕 (A・B)、須恵器坏が出土した。

【SD3107溝跡】(第7・31図、写真図版6)

1区の西部で検出された。



第 25 図 2区東西道路跡他断面図

20

21

9

10

11

12

SD3102d

10YR3/3

10YR3/2

10YR3/1

2.574/3

シルト

シルト

粘土質シルト

粘土質シルト

小礫含む

炭化物含む

炭化物含む

小礫含む

SD3105

SD3106

10YR4/4

5Y4/2

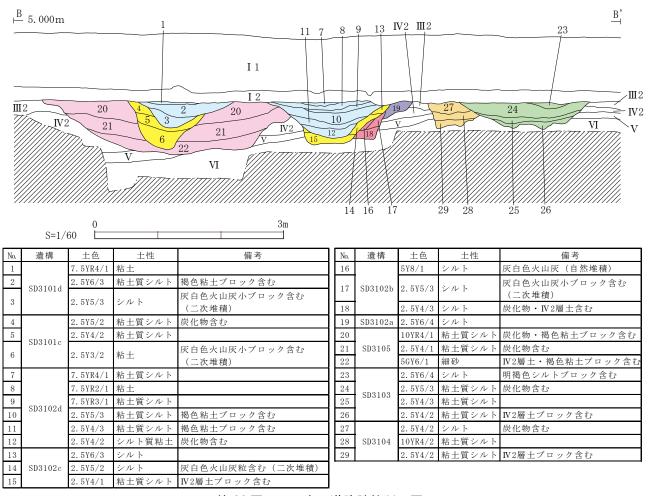
シルト

シルト

地山ブロック含む

地山ブロック多量含む。

地山ブロック多量含む。人為堆積



第26図 3区東西道路跡他断面図

[重複] 2基のピットより古い。東西方向の小溝跡1条より新しい。

[規模・埋土]検出長6.00m、上幅0.83 \sim 1.10m、下幅0.35 \sim 0.43m、深さ0.35 \sim 0.41mである。方向はN-8°-Eである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物]土師器坏(A)(第38図1)・甕(A)、須恵器坏・甕・瓶、平瓦が出土した。

【SD3108溝跡】(第9図)

1区の東部で検出された。

[重複] S X 3099整地層・S D 3109溝跡・S X 3114畑跡より古い。

[規模・埋土]検出長4.77m、上幅0.25 \sim 0.52m、下幅0.08 \sim 0.35m、深さ0.04 \sim 0.10mである。方向はN-25°-E \sim E \sim E \sim E \sim I \sim N である。断面形は浅い皿形である。埋土は1層(2.5 Y 4 /3 砂質シルト)で、自然堆積である。

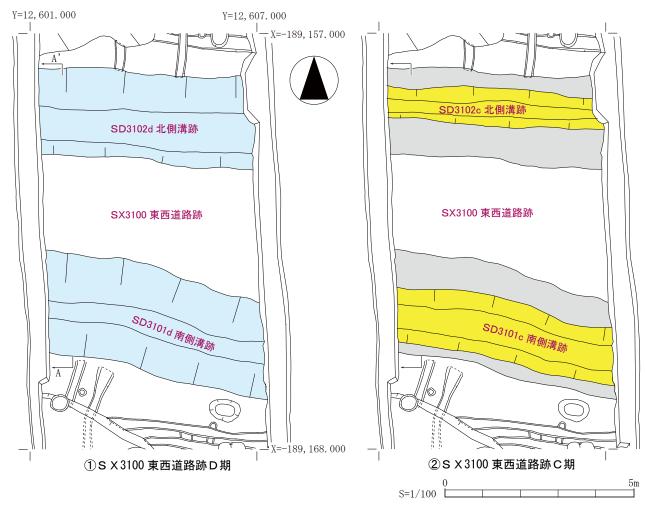
[遺物]出土していない。

【SD3109溝跡】(第8・9図、写真図版6)

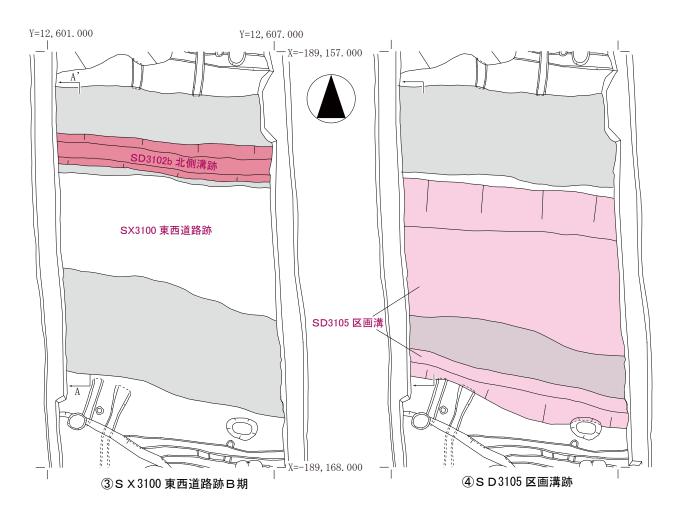
1区の中央部~東部で検出された。

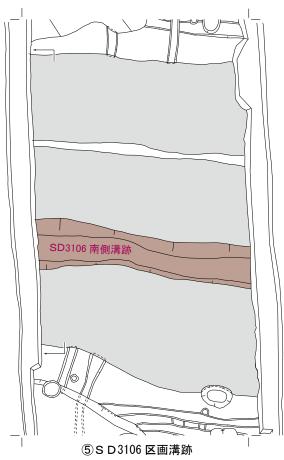
[重複]SB2761・2762掘立柱建物跡、SX3114畑跡より古い。SD3108溝跡より新しい。

[規模・埋土]検出長14.30m、上幅0.30 ~ 0.63m、下幅0.15 ~ 0.45m、深さ0.07 ~ 0.11mである。方向



第27図 東西道路跡・区画溝変遷図 2区(1)







第28図 東西道路跡・区画溝変遷図 2区(2)

は $E-19^{\circ}$ -S である。断面形は浅い皿形である。埋土は1 層(2.5 Y 6/4 砂質シルト)で、自然堆積である。 [遺物]出土していない。

【SD3110区画溝跡】(第10・31図)

1区の東部で検出された。本調査区の北方向で実施された山王遺跡第187~191次調査(多賀城市教育委員会:2018)で検出された区画溝跡の延長部の可能性がある。1度の掘り直しが認められ、2時期の変遷が考えられる。

[重複] S X 3099整地層より新しい。

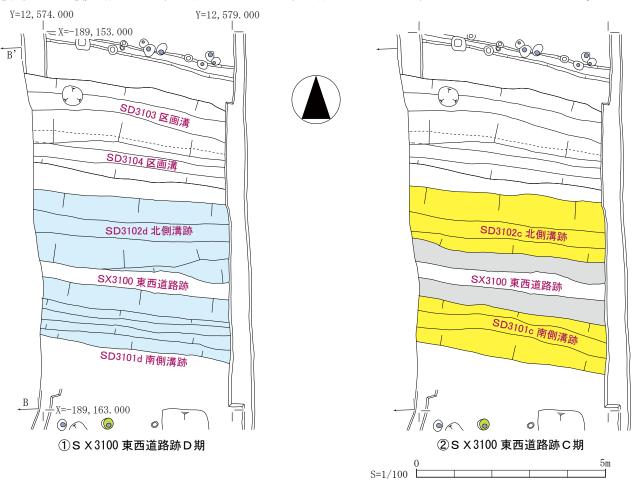
[規模・埋土] 古い時期のSD3110a区画溝跡の検出長1.05m、上幅0.76m、下幅0.46m、深さ0.32mである。 方向はN-1°-Eである。埋土は1層で、自然堆積である。新しい時期のSD3110b区画溝跡の検出長 1.05m、上幅1.33m、下幅0.88m、深さ0.43mである。方向はE-1°-Eである。埋土は3層で、自然 堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。

[遺物] 1層から土師器甕(B)、須恵器坏・甕が出土した。

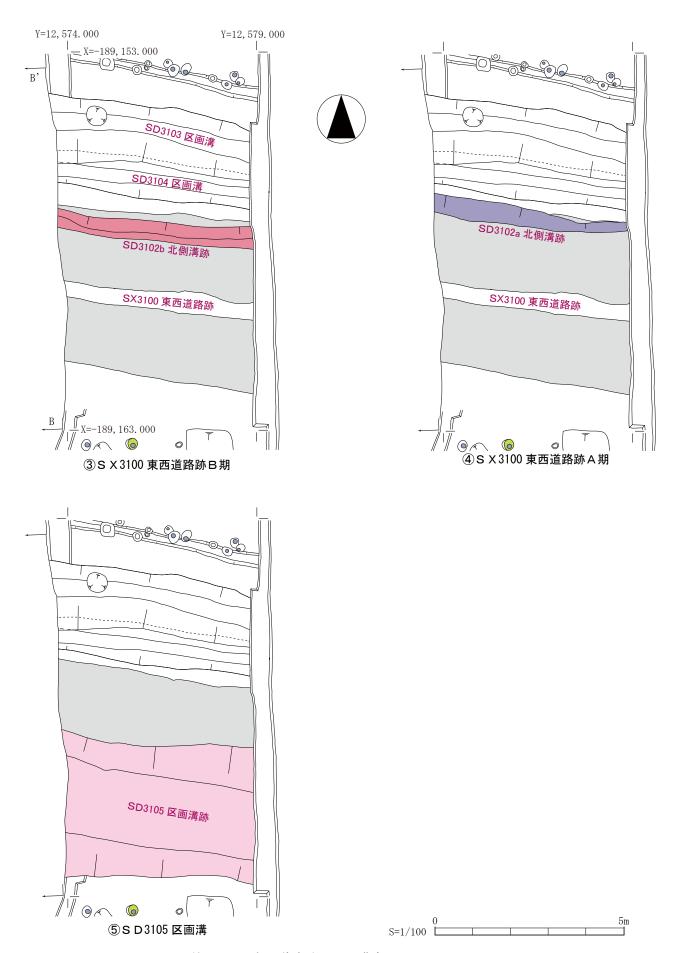
【SD3111溝跡】(第8・9図)

1区の北部で検出された。

[重複] S B 2764掘立柱建物跡・S A 2765掘立柱塀跡・S X 3114畑跡より古い。S X 3099整地層より新しい。 [規模・埋土]検出長4.91m、上幅0.76~1.20m、下幅0.25~0.40m、深さ0.25~0.40mである。方向



第29図 東西道路跡・区画溝変遷図 3区(1)



第30図 東西道路跡·区画溝変遷図 3区(2)

は $E-5^{\circ}-S$ である。断面形は浅い皿形である。埋土は1層(5Y5/2 砂質シルト)で、自然堆積である。 [遺物]出土していない。

【SD3112溝跡】(第12·13·31図、写真図版 6)

2区の中央部で検出された。

[重複] 2基の土坑より古い。SX3117~3119畑跡より新しい。

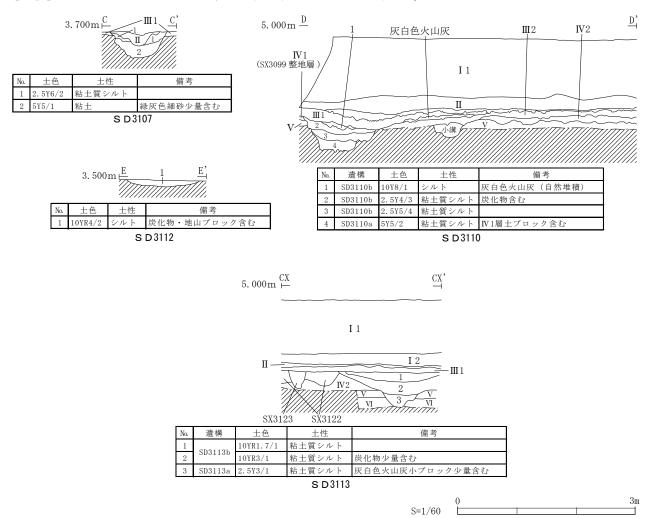
[規模・埋土] 歪んだ円形状に巡り、南北外径10.43m、南北内径6.92m、上幅1.10 \sim 1.90m、下幅0.60 \sim 1.40m、深さ0.05 \sim 0.14mである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物] 土師器坏 (B) (第38図 6・7)・(B II) (第38図 5)・(B V)・甕 (A・B)、須恵器坏 (第38図 9)・(V) (第38図 8)・蓋・高台付坏・甕・瓶が出土した。

【SD3113区画溝跡】(第23・31図、写真図版 6)

2 区北部・4 区東部で検出された。溝跡はほぼ真北方向に延び、溝跡を境に東側と西側で遺構の様相が 異なる。1 度の掘り直しが認められ、2 時期の変遷が考えられる。

[重複] S X 3115・3122・3123畑跡、その他土坑・ピットより新しい。



第31図 溝跡断面図

[規模・埋土]古い時期のSD3113a区画溝跡は北壁直下部分のみ掘り下げた。検出長6.50m、上幅0.61m、 下幅0.16m、深さ0.22mである。方向はN-1° -Wである。埋土は1層、自然堆積で、灰白色火山灰ブ ロックを含む。新しい時期のSD3113b区画溝跡は検出長6.50m、上幅1.25~1.70m、下幅0.55~1.00m、 深さ0.38mである。方向はE-1° -Wである。埋土は2層で、自然堆積である。

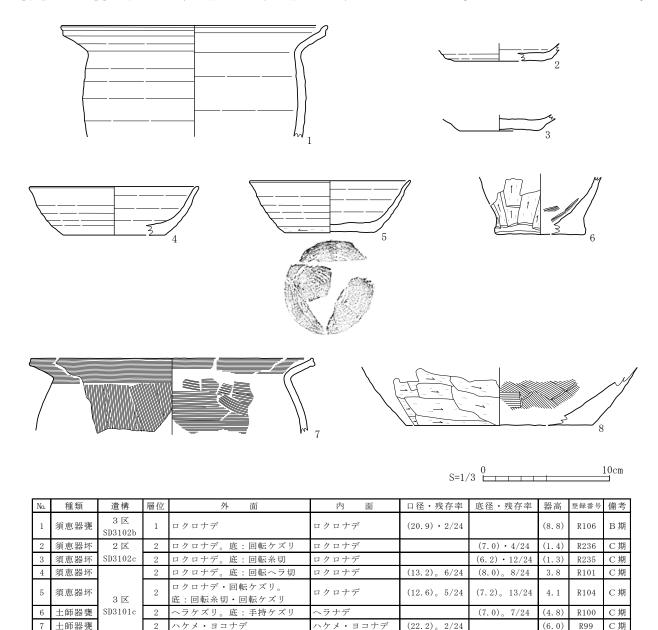
[遺物] 1層から土師器坏 (B)・甕 (B)、須恵器坏 (V)・甕、平瓦が出土した。

【SD3192溝跡】(第16図)

3区の東部で検出された。

「重複〕接する土坑より古い。SX3121畑跡より新しい。

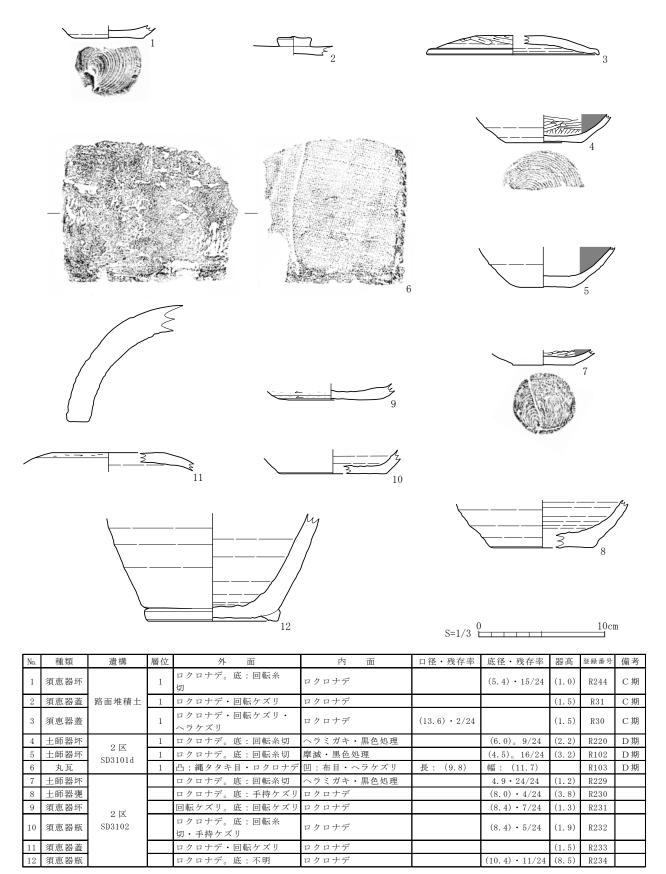
[規模・埋土]検出長1.84m、上幅0.62m、下幅0.52m、深さ0.10mである。方向はN-8°-Wである。



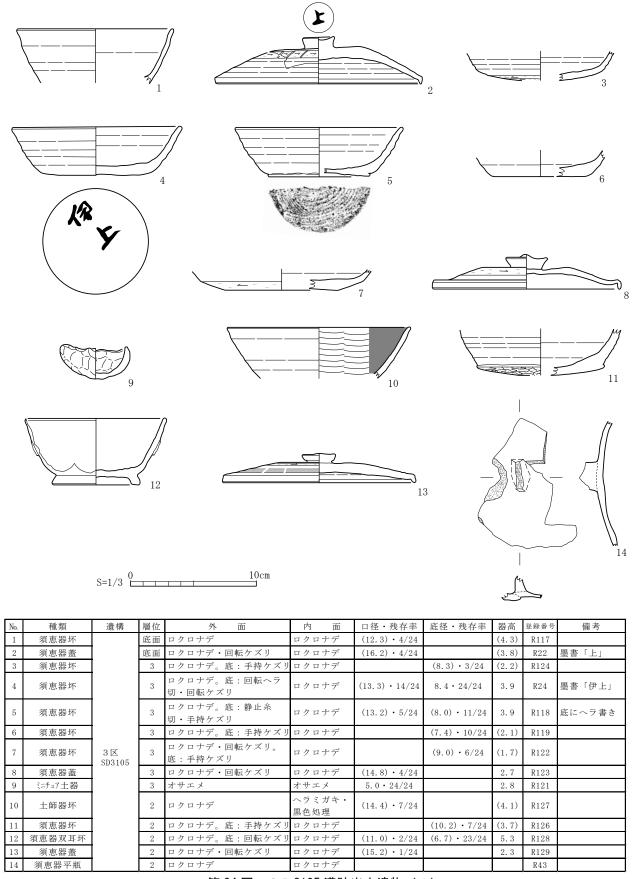
ヘラナデ 第32図 SX3100東西道路跡出土遺物(1)

ヘラケズリ。底:手持ケズリ

須恵器甕

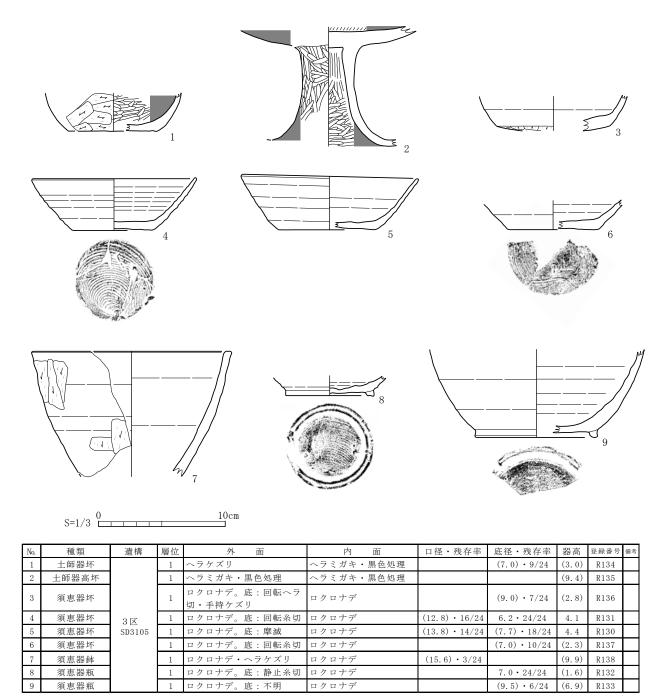


第33図 SX3100東西道路跡出土遺物(2)

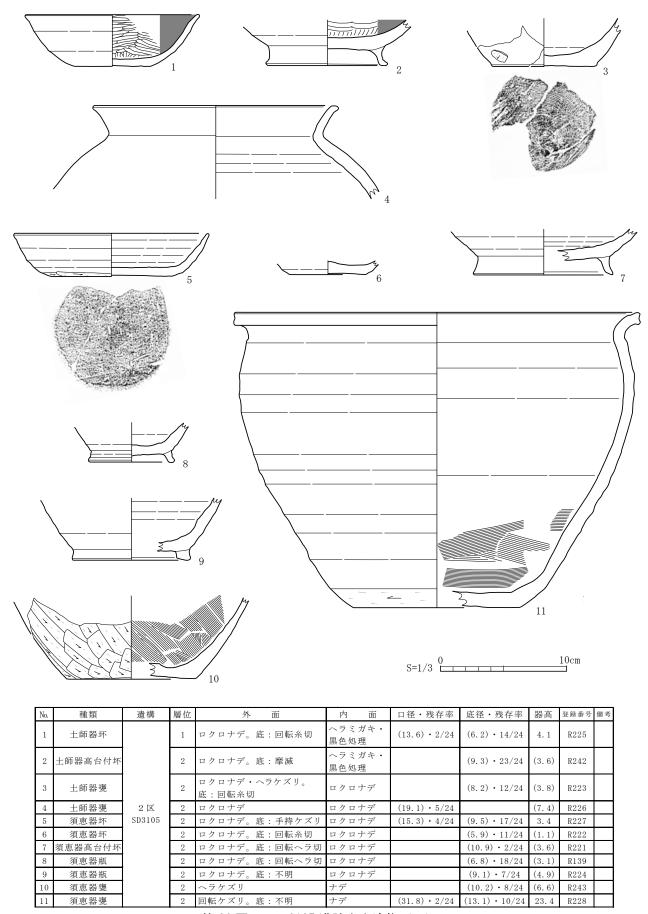


第34図 SD3105 溝跡出土遺物(1)

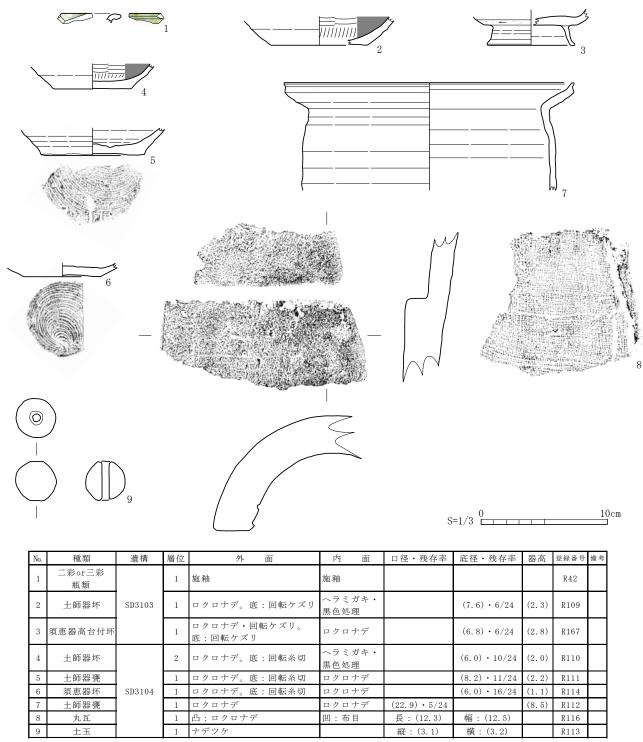
断面形は浅い皿形である。埋土は1層(10YR2/2 シルト)で、自然堆積である。 [遺物]土師器甕(A)(第38図2・4)、羽口(第38図3)が出土した。



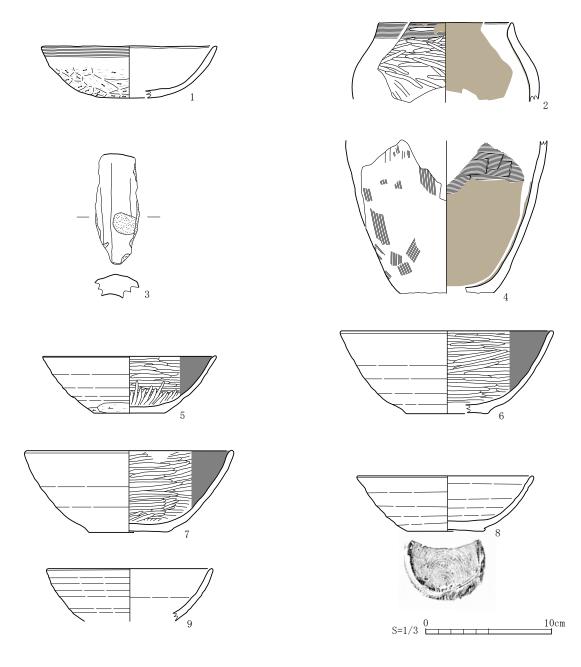
第 35 図 SD3105 溝跡出土遺物(2)



第36図 SD3105 溝跡出土遺物(3)



第 37 図 S D 3103 · 3104 溝跡出土遺物



No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	SD3107	2	ヨコナデ・ヘラケズリ。 底:手持ケズリ	摩滅	(13.9) · 8/24	(5.0) • 8/24	4.2	R256	
2	土師器甕		2	ョコナデ・ヘラミガキ。 漆付着	不明。漆付着	(10.6) · 3/25		(6.3)	R263	
3	羽口	SD3192	2	オサエメ		長:(8.7)	幅:(3.5)		R98	
4	土師器甕		2	ハケメ	ヘラナデ。漆付着		(12.1) · 7/24	(12. 1)	R41	
5	土師器坏		1	ロクロナデ・手持ケズ リ。底:手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.8) · 3/24	(5.8) • 22/24	4.5	R1	
6	土師器坏		1	ロクロナデ。底:摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(16.8) · 4/24	(6.4) · 10/24	6. 6	R2	
7	土師器坏	SD3112	1	ロクロナデ。底:摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(16.4) • 11/24	(6. 3) · 13/24	6. 5	R3	
8	須恵器坏		1	ロクロナデ。 底:回転糸切	ロクロナデ	(13.9) · 15/24	(6. 1) · 17/24	4. 4	R4	
9	須恵器坏		1	ロクロナデ	ロクロナデ	(13.1) • 4/24		(4.2)	R237	

第38図 SD3107·3192·3112 溝跡出土遺物



写真図版 1



写真図版 2



写真図版3





2区SX3100東西道路跡検出(東から)



2区S X 3100 東西道路跡、S D 3105・3106 区画溝跡完掘 (東から)



2区S X 3100 東西道路跡、S D 3105・3106 区画溝跡断面 (東から)



3区S X 3100 東西道路跡、S D 3103・3104 区画溝跡検出(東から)



3区SX3100東西道路跡D期(東から)



3区SX3100東西道路跡C期(東から)



3区SX3100東西道路跡、SD3103·3104·3105区画溝跡完掘 (東から)



3区S X 3100 東西道路跡、S D 3103・3104・3105 区画溝跡断面 (東から)

写真図版 5



3区北半部完掘(南東から)



3区SD3103区画溝跡完掘(東から)



3区SD3103・3104区画溝跡完掘(東から)



1区SD3107区画溝跡断面(北から)



1区SD3109区画溝跡検出(北東から)



2区SD3112溝跡完掘(東から)





4区SD3113区画溝跡断面(南から)

写真図版6

(4) 掘立柱建物跡

27棟の掘立柱建物跡を検出した。

【SB2760掘立柱建物跡】(第7・8・39・42図、写真図版8)

1区西部で検出した桁行3間、梁行2間以上の東西棟掘立柱建物跡である。

「重複] S X 3114 畑跡より新しい。

[規模] 桁行は西から2.71m・2.60m・1.76m、総長7.07mである。梁行は東妻で1.96m、西妻で検出長は3.62mである。方向は北側柱列で $E-13^\circ-S$ である。

[柱穴]一辺0.36 \sim 0.53mの隅丸方形で、深さ0.33 \sim 0.90mである。掘方埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。

[柱痕跡]直径0.12~0.16mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB2761掘立柱建物跡】(第8・39・42図、写真図版8)

1区中央部で検出した桁行2間、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

「重複] S X 3114 畑跡より新しい。

[規模] 桁行は東側柱列で北から2.45m・2.67m、総長5.12mである。梁行は南妻で3.17m(総長)である。方向は東側柱列で $N-12^\circ$ -Eである。

[柱穴]直径0.18 \sim 0.27mの円形で、深さ0.16 \sim 0.34mである。柱抜取穴を確認し、埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。

[柱痕跡]確認されなかった。

[遺物]出土していない。

【SB2762掘立柱建物跡】(第8・9・39・42図、写真図版8)

1区中央部で検出した桁行3間以上、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複] S X 3114 畑跡より新しい。

[規模] 桁行は西側柱列で北から2.28m・2.72m、総長5.00mである。梁行は北妻で3.10m(総長)である。 方向は東側柱列で $N-12^\circ$ -Eである。

[柱穴]一辺0.15~0.30mの隅丸方形で、深さ0.14~0.26mである。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径 $0.07 \sim 0.15$ mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB2763掘立柱建物跡】(第8・9・39図、写真図版8)

1区中央部で検出した桁行2間以上、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複] S X 3114 畑跡より新しい。

[規模] 桁行は西側柱列で2.73mである。梁行は北妻で2.91m(総長)である。方向は西側柱列で $N-13^\circ$ -Eである。

[柱穴]一辺 $0.25 \sim 0.31$ mの隅丸方形や長径0.32mの楕円形で、深さ $0.05 \sim 0.15$ mである。掘方埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径0.10mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB2764掘立柱建物跡】(第8・9・39・42・43図、写真図版8)

1区中央部で検出した東西2間以上、南北2間以上の掘立柱建物跡である。

[重複]SD3111溝跡・SX3114畑跡より新しい。

[規模]東西柱列で2.37mである。南北柱列で2.39mである。方向は東側柱列でN-2° -Eである。

[柱穴] 一辺0.20 \sim 0.33mの隅丸方形で、深さ0.17 \sim 0.37mである。掘方埋土に灰白色火山灰ブロックを含む。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径0.11~0.15mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB3064掘立柱建物跡】(第18・40・43図、写真図版8)

3区南西部で検出した桁行2間、梁行2間の東西棟総柱建物跡である。

「重複]SK3218土坑より古い。SK3217土坑・SX3120・3121畑跡より新しい。

[規模] 桁行は北柱列で西から1.54・1.80m、総長3.34mである。梁行は東妻で北から1.63・1.70m、総長3.33mである。方向は北側柱列で $E-8^\circ-S$ である。

[柱穴]一辺 $0.30 \sim 0.46$ mの隅丸方形で、深さ $0.19 \sim 0.36$ mである。

[柱痕跡]直径0.11~0.22mの円形である。

[遺物]掘方埋土から土師器坏(B)・甕(A)、須恵器甕が出土した。柱痕跡から土師器坏(B)・甕(B)が出土した。柱抜取穴から土師器坏(BV)(第50図1)、須恵器坏が出土した。埋土から須恵器坏(V)(第50図2)が出土した。

【SB3065掘立柱建物跡】(第17・40・43・44図)

3 区東部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。建て替えが認められ2時期ある。 「重複] S X 3120・3121畑跡より新しい。

[規模]古い時期のSB3065a掘立柱建物跡の桁行は南柱列で3.63m(総長)である。梁行は東妻で3.50m(総長)である。方向は北側柱列でE-7° -Sである。新しい時期のSB3065b掘立柱建物跡の桁行は南柱列で3.65m(総長)である。梁行は東妻で3.55m(総長)である。方向は北側柱列でE-3° -Sである。[柱穴]SB3065aは一辺0.33 \sim 0.45mの隅丸方形や長径0.50mの楕円形で、深さ0.31 \sim 0.43mである。柱抜取穴を確認した。SB3065bは一辺0.40 \sim 0.50mの隅丸方形や長径0.30mの楕円形で、深さ0.26 \sim 0.61mである。柱抜取穴を確認した。

「柱痕跡] S B 3065a は直径0.12 ~ 0.16mの円形である。 S B 3065b は直径0.15mの円形である。

[遺物] S B 3065aの埋土から土師器甕が出土した。 S B 3065bの柱痕跡から土師器甕、埋土から土師器甕 (B) が出土した。

【SB3066掘立柱建物跡】(第17·40図)

3区東部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複] S K3089土坑より新しい。

[規模] 桁行は北柱列で西から2.98・2.95m、総長5.93mである。梁行は東妻で2.50m(総長)である。方向は北側柱列で $E-1^\circ-S$ である。

[柱穴]一辺 $0.20 \sim 0.30$ mの隅丸方形で、深さ $0.16 \sim 0.34$ mである。

[柱痕跡]直径0.10~0.13mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB3067掘立柱建物跡】(第17・40図)

3区東部で検出した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。

「重複]SK3089土坑より新しい。

[規模] 桁行は南柱列で西から2.95・3.42m、総長6.37mである。梁行は東妻で北から1.26・1.78m、総長3.04mである。方向は南側柱列で $E-1^\circ-S$ である。

[柱穴]一辺0.18~0.48mの方形や隅丸方形、長径約0.25mの楕円形で、深さ0.14~0.29mである。

[柱痕跡]直径0.07~0.12mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB3068掘立柱建物跡】(第19·40·44図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行1間、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複]SB3071・3072掘立柱建物跡、SX3120畑跡より新しい。

[規模]桁行は東柱列で2.07m(総長)である。梁行は北妻で1.85m(総長)である。方向は東側柱列でN -12° -Eである。

[柱穴]一辺0.30 ~ 0.45mの隅丸方形や直径0.23mの不整円形で、深さ0.19 ~ 0.24mである。柱抜取穴を 確認した。

[柱痕跡]直径0.11~0.17mの円形である。

[遺物]埋土から土師器甕(A)が出土した。

【SB3069掘立柱建物跡】(第19・40・44図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複]ない。

[規模]桁行は北柱列で1.95m(総長)である。梁行は東妻で1.55m(総長)である。方向は北側柱列でE-1°-Nである。

[柱穴]直径0.21~0.32mの不整円形で、深さ0.18~0.30mである。

[柱痕跡]直径0.13~0.15mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB3071掘立柱建物跡】(第19・40・44・45図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行2間、梁行2間の南北棟総柱建物跡である。

[重複]SX3120・3121畑跡より新しい。

[規模] 桁行は東柱列で北から1.03・2.59m、総長3.62mである。梁行は北妻で西から1.43・2.00m、総長3.43mである。方向は東側柱列でN-9°-Eである。

[柱穴]一辺0.24~0.73mの隅丸方形で、深さ0.16~0.34mである。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径0.12~0.21mの円形である。

[遺物]埋土から土師器坏(BⅡ)(第50図3)・甕が出土した。

【SB3072掘立柱建物跡】(第19·40·45図、写真図版8)

3区中央部で検出した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複]SB3068掘立柱建物跡、ピットより古い。SX3120畑跡より新しい。

[規模] 桁行は北柱列で西から1.06・1.10・1.30m、検出長3.46mである。梁行は東妻で北から1.62・1.07m、総長2.69mである。方向は北側柱列で $E-6^\circ-S$ である。

[柱穴] 一辺0.34 \sim 0.85mの隅丸方形や直径0.36の円形で、深さ0.20 \sim 0.32mである。柱抜取穴を確認した。 [柱痕跡] 直径0.11 \sim 0.20mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB3073掘立柱建物跡】(第21·41·45図、写真図版8)

3区北部・4区西部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

「重複] S X 3122・3123畑跡より新しい。

[規模] 桁行は北柱列で3.12m(総長)である。梁行は東妻で3.05m(総長)である。方向は北側柱列でE $-1^\circ-S$ である。

[柱穴]直径0.18 \sim 0.32mの不整円形や一辺0.26 \sim 0.37mの隅丸方形で、深さ0.22 \sim 0.28mである。

[柱痕跡]直径0.09~0.13mの円形である。

[遺物]埋土から土師器坏(B)・甕(A・B)が出土した。

【SB3074掘立柱建物跡】(第21・41・45・46図、写真図版8)

3区北部・4区西部で検出した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複]SX3122・3123畑跡より新しい。

[規模] 桁行は南柱列で西から2.20・2.41m、総長4.61mである。梁行は東妻で北から1.98・1.85m、総長3.83mである。方向は南側柱列で $E-4^\circ-S$ である。

[柱穴] 一辺0.25 ~ 0.35mの隅丸方形や直径0.20 ~ 0.25mの円形で、深さ0.14 ~ 0.50mである。

[柱痕跡]直径0.10~0.20mの円形である。

[遺物]埋土から土師器甕(B)、須恵器坏(第50図4)・蓋が出土した。

【SB3075掘立柱建物跡】(第21・41・46図、写真図版8)

3区北部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複] SB3082掘立柱建物跡より古い。 SB3076掘立柱建物跡、 $SX3122 \cdot 3123$ 畑跡、土坑より新しい。 [規模] 桁行は南柱列で西から2.30 · 2.25 m、総長4.55 mである。梁行は西妻で1.88 m (総長) である。方向は南側柱列でE-4° -Sである。

[柱穴]一辺0.26~0.60mの隅丸方形で、深さ0.28~0.50mである。

[柱痕跡]直径0.13~0.18mの円形である。

[遺物]柱痕跡から土師器甕(B)・須恵器甕が出土した。埋土から土師器坏(B)・甕(A・B)、須恵器坏・蓋・甕が出土した。

【SB3076掘立柱建物跡】(第21·41·46図、写真図版 8)

3区北部で検出した桁行1間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

[重複]SB3075掘立柱建物跡より古い。SX3122畑跡より新しい。

[規模] 桁行は北柱列で2.35m(総長)である。梁行は西妻で1.81m(総長)である。方向は北側柱列でE -2° - S である。

[柱穴]直径0.25mの不整円形や一辺0.33mの隅丸方形で、深さ0.25~0.39mである。

[柱痕跡]直径0.07~0.15mの円形である。

[遺物]埋土から土師器坏(B)・甕(A)、須恵器坏が出土した。

【SB3077掘立柱建物跡】(第22·41·46図、写真図版 8)

4区中央部で検出した桁行3間、梁行2間以上の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複]SK3096土坑、SX3122・3123畑跡より新しい。

[規模]桁行は東柱列で北から1.96・1.92・1.96m、総長5.84mである。梁行は南妻で2.29m (検出長) である。 方向は東側柱列で $N-15^{\circ}-E$ である。

「柱穴]直径0.31 ~ 0.36mの円形や長径0.36mの楕円形で、深さ0.44 ~ 0.55mである。

[柱痕跡]直径0.12~0.14mの円形である。

[遺物]埋土から土師器甕(B)、須恵器甕が出土した。

【SB3078掘立柱建物跡】(第22・41・46・47図、写真図版8)

4区中央部で検出した桁行2間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複] S X 3122・3123畑跡より新しい。

[規模] 桁行は東柱列で北から2.25・1.90m、総長4.15mである。梁行は北妻で西から1.59・1.36m、総長2.95mである。方向は西側柱列でN-6°-Eである。

[柱穴] 一辺0.30 \sim 0.40mの隅丸方形や直径0.21 \sim 0.31mの不整円形で、深さ0.28 \sim 0.51mである。柱 抜取穴を確認した。

[柱痕跡]直径0.08~0.21mの円形である。

[遺物]埋土から土師器甕(A)・(B)(第50図5)が出土した。

【SB3079掘立柱建物跡】(第22·41·47図、写真図版8)

4区中央部で検出した桁行1間、梁行1間の南北棟掘立柱建物跡である。

[重複]SX3122・3123畑跡より新しい。

[規模] 桁行は東柱列で2.40m(総長)である。梁行は北妻で2.15m(総長)である。方向は東側柱列でN-3° -Eである。

[柱穴]直径0.35~0.45mの不整円形で、深さ0.17~0.28mである。

[柱痕跡]直径0.13~0.16mの円形である。

「遺物〕埋土から土師器坏(B)・甕(A・B)、須恵器坏・甕が出土した。

【SB3080掘立柱建物跡】(第22・41・47・48図、写真図版8)

4 区中央部で検出した桁行 3 間、梁行 2 間の南北棟掘立柱建物跡である。建て替えが認められ 2 時期ある。

[重複]SB3081掘立柱建物跡、SX3120・3121畑跡より新しい。

[規模] 古い時期のSB3080a掘立柱建物跡の桁行は東柱列で北から2.28・1.84・2.20m、総長は6.32mである。梁行は北妻で3.38m(総長)である。方向は西側柱列で $N-1^\circ-E$ である。新しい時期のSB3065b掘立柱建物跡の桁行は東柱列で北から1.73・2.43・2.32m、総長は6.48mである。梁行は北妻で西から1.80・1.88m、総長3.68mである。方向は西側柱列で $N-1^\circ-E$ である。

[柱穴]S B 3080aは一辺0. $26 \sim 0.42$ mの隅丸方形や長径約0. $33 \sim 0.48$ mの楕円形で、深さ0. $19 \sim 0.42$ m である。S B 3080bは一辺0. $25 \sim 0.55$ mの隅丸方形や長径0. 25mの楕円形で、深さ0. $13 \sim 0.33$ mである。 [柱痕跡] S B 3080aは直径0. $09 \sim 0.24$ mの円形である。S B 3065bは直径0. $25 \sim 0.37$ mの円形である。

[遺物] S B 3080aの埋土から土師器甕 (B) (第50図7)、須恵器坏 (Ⅱa) (第50図6)・甕、羽口(第50図8) が出土した。S B 3065bの埋土から土師器坏 (B)・甕 (A)、須恵器甕が出土した。

【SB3081掘立柱建物跡】(第22·41·48図、写真図版 8)

4区中央部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

「重複]SB3080掘立柱建物跡より古い。SX3122・3123畑跡より新しい。

[規模] 桁行は南柱列で西から1.64・1.56m、総長3.20mである。梁行は西妻で2.10m (総長) である。方向は北側柱列で $E-1^\circ-S$ である。柱抜取穴を確認した。

「柱穴] 一辺0.21 ~ 0.30mの隅丸方形や直径0.37mの不整円形で、深さ0.14 ~ 0.30mである。

[柱痕跡]直径0.10~0.14mの円形である。

[遺物]出土していない。

【SB3082掘立柱建物跡】(第21·41図、写真図版8)

3区北部で検出した桁行2間、梁行1間の東西棟掘立柱建物跡である。

「重複] S X 3122畑跡より新しい。

[規模] 桁行は北柱列で西から1.89・2.11m、総長4.00mである。梁行は東妻で3.02m (総長) である。方向は南側柱列でE-1° -Nである。

[柱穴]一辺 $0.16 \sim 0.32$ mの隅丸方形で、深さ $0.15 \sim 0.43$ mである。

[柱痕跡]直径0.11~0.14mの円形である。

[遺物]埋土から土師器坏(B)(第50図9)・甕(A・B)、須恵器坏が出土した。

【SB3083掘立柱建物跡】(第18・40・48図、写真図版 8)

3区南西部で3個の柱穴を検出し、掘立柱建物跡と考えられる。建て替えが認められ2時期ある。 [重複]ない。

[規模]古い時期のSB3083a掘立柱建物跡の柱間は西から2.68・2.30mで、総長4.98mである。方向はE-5° -Sである。新しい時期のSB3083b掘立柱建物跡の規模は確認されなかった。

[柱穴] S B 3083a は長辺1. $10 \sim 1.50$ m、短辺1. 00 m の長方形・隅丸長方形で、深さ0. $64 \sim 0.74$ m である。 S B 3083b は半截により確認され、一辺0. $60 \sim 0.86$ m、深さ0. $53 \sim 0.63$ m である。柱抜取穴を確認し、埋土に多量の炭化物・焼土を含む。

[柱痕跡]確認されなかった。

[遺物] S B 3083aの埋土から土師器壺 (第50図10) が出土した。S B 3083bの柱抜取穴から土師器坏 (A)、 須恵器蓋が出土した。埋土から土師器が出土した。

(5) 掘立柱塀跡

2条の掘立柱塀跡を検出した。

【SA2765掘立柱塀跡】(第9・39・49図、写真図版8)

1区中央部で検出した南北2間以上の掘立柱塀跡である。

[重複] S X 3114 畑跡より新しい。

[規模]柱間は2.87mである。方向は $N-14^{\circ}-E$ である。

[柱穴]長径0.24~0.31mの楕円形で、深さ0.18~0.21mである。柱抜取穴を確認した。

[柱痕跡]確認されなかった。

[遺物]出土していない。

【SA3098掘立柱塀跡】(第23・41・49図、写真図版8)

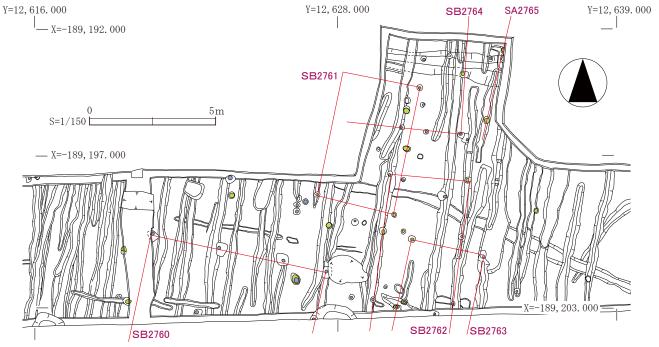
4区東部で検出した東西3間、南北2間以上の掘立柱塀跡である。

[重複]SK3097土坑、SX3122・3123畑跡より新しい。

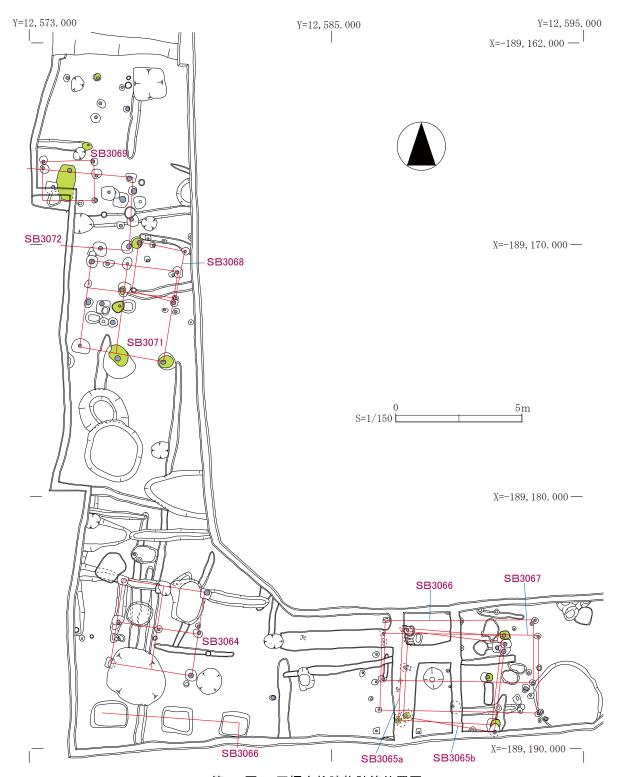
[規模]柱間は東西方向で西から1.53・1.26・1.37m、総長4.16mである。方向は $E-6^\circ-S$ である。南北方向で北から2.17・2.13m、検出長4.30mである。方向は $N-1^\circ-W$ である。

[柱穴] 直径0. 19 \sim 0. 30mの不整円形や一辺0. 28 \sim 0. 35mの隅丸方形で、深さ0. 19 \sim 0. 50mである。 [柱痕跡] 直径0. 08 \sim 0. 17mの円形である。

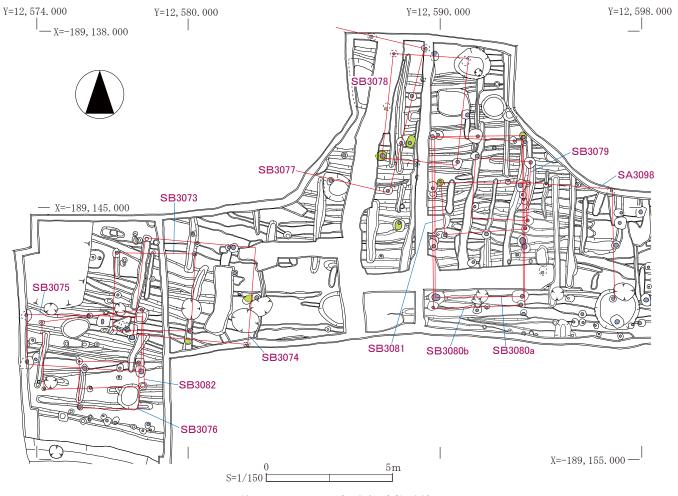
[遺物]埋土から土師器甕(B)、須恵器坏が出土した。



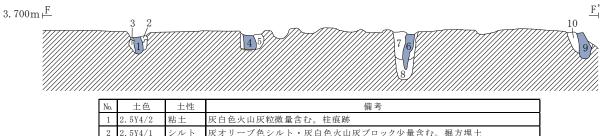
第39図 1区掘立柱建物跡等位置図



第 40 図 3区掘立柱建物跡等位置図

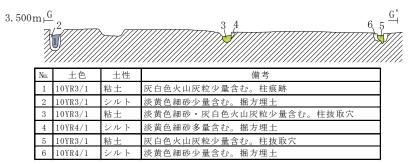


第 41 図 3・4区掘立柱建物跡等位置図



No.	土色	土性	備考
1	2.5 Y4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
2	2.5Y4/1	シルト	灰オリーブ色シルト・灰白色火山灰ブロック少量含む。掘方埋土
3	2.5 Y4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。掘方埋土
4	2.5 Y4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
5	2.5Y4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。底面に礎板。掘方埋土
6	2.5 Y 4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
7	2.5 Y 4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。掘方埋土
8	5G4/1	粗砂	灰白色火山灰ブロック少量含む。黒褐色粘土粒微量含む。掘方埋土
9	2.5 Y 4/2	粘土	灰白色火山灰粒微量含む。柱痕跡
10	2.5 Y 4/1	シルト	淡黄色細砂・灰白色火山灰ブロック多量含む。掘方埋土

S B 2760



S B 2761



SB2762 (1)



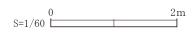
3.500m <u>J</u>	2 <u>J'</u>

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	シルト	淡黄色細砂・炭化物少量含む。柱抜取穴
2	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂多量含む。掘方埋土

	No.	土色	土性		備考	
1	1	10YR5/1	シルト	淡黄色細砂少量含む。	柱抜取穴	
	2	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂多量含む。	炭化物微量含む。掘方埋土	

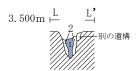
SB2762 (2)

SB2764 (1)





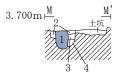
No.	土色 土性		備考		
1	10YR3/1 粘土		柱痕跡		
2	5Y8/3	細砂	褐灰色粘土多量含む。掘方埋土		



SB2764 (2)

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/1	粘土	柱痕跡
2	10YR4/1	シルト	淡黄色細砂斑状に含む。灰白色火山灰粒少量含む。掘方埋土

SB2764 (3)



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	シルト	地山小ブロック少量含む。柱痕跡
2	10YR2/2	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土
3	10YR3/1	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土
4	10YR3/1	砂	黒色土ブロック少量含む。掘方埋土

3.700m 0 0 0 1 3 ±器

 No.
 土色
 土性
 偏考

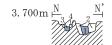
 1
 2.5 Y3/1
 シルト
 地山ブロック多量含む。炭化物微量含む。柱痕跡

 2
 5 Y2/2
 シルト
 柱痕跡

 3
 2.5 Y2/1
 シルト
 地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3064 (1)

SB3064 (3)



No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3064	10YR2/2	シルト	地山小ブロック少量含む。柱痕跡
2	303004	10YR3/2	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土
3	ピット	10YR4/1	粘土	柱痕跡
4	ヒット	2.5Y3/2	シルト	地山小ブロック少量含む。掘方埋土



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	シルト	地山ブロック多量含む。柱痕跡
2	10YR3/2	シルト	地山小ブロック・炭化物粒少量含む。掘方埋土
3	2.5 Y 2/1	シルト	黒色土少量含む。掘方埋土

SB3064 (2)

SB3064 (4)



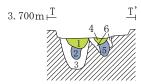
No.	土色	土性	備考
1	5Y2/1	粘土	地山ブロック少量含む。柱痕跡
2	10Y4/1	砂	黒色土ブロック少量含む。柱痕跡
3	2.5 Y 2/1	シルト	黒色土少量含む。掘方埋土
4	10Y4/1	砂	黒色土ブロック多量含む。掘方埋土



				1
No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3065b	10YR2/2	粘土	柱痕跡
2	3530000	10YR3/1	シルト	酸化鉄含む。掘方埋土
3	SB3065a	10YR3/3	シルト	掘方埋土
Λ	F° w h	10VR3/1	シルト	掘 方 押 十

SB3064 (5)

SB3065 (1)

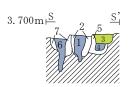


No.	遺構	土色	土性	備考
1		10YR3/2	シルト	灰オリーブ色砂多量含む。柱抜取穴
2	SB3065b	2.5 Y 3/1	砂質シルト	灰オリーブ色砂多量含む。柱痕跡
3		10YR3/2	シルト	灰オリーブ色砂・酸化鉄多量含む。掘方埋土
4		10YR3/2	シルト	炭化物多量含む。柱抜取穴
5	SB3065a	10YR3/2	シルト	黄灰色砂含む。柱痕跡
6		2.5Y3/3	砂質シルト	黄灰色土多量含む。掘方埋土

SB3065 (3)

S=1/60 2m

第43図 掘立柱建物跡断面図(2)

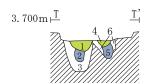


No.	遺構	土色	土性	備考	
1	SB3065b	2.5Y4/2	シルト	柱痕跡	
2	3030030	2.5Y3/2	シルト	灰褐色土含む。掘方埋土	
3		10YR2/3	シルト	炭化物・酸化鉄含む。柱抜取穴	
4	SB3065a	10YR2/2	粘土	柱痕跡	
5		10YR3/3	シルト	灰褐色土含む。掘方埋土	
6	ピット	10YR3/2	シルト	灰褐色土・炭化物・酸化鉄含む。柱痕跡	
7	レット	10YR3/3	シルト	明黄褐土多量含む。掘方埋土	
	SB3065 (2)				



No.	土色	土性	備考
1	7.5YR4/2	シルト	地山ブロック・炭化物・焼土含む。柱痕跡
2	7.5YR4/2	シルト	地山ブロック・炭化物・焼土含む。掘方埋土

SB3068 (1)



No.	遺構	土色	土性	備考
1		10YR3/2	シルト	灰オリーブ色砂多量含む。柱抜取穴
2	SB3065b	2.5Y3/1	砂質シルト	灰オリーブ色砂多量含む。柱痕跡
3		10YR3/2	シルト	灰オリーブ色砂・酸化鉄多量含む。掘方埋土
4		10YR3/2	シルト	炭化物多量含む。柱抜取穴
5	SB3065a	10YR3/2	シルト	黄灰色砂含む。柱痕跡
6		2.5 Y 3/3	砂質シルト	黄灰色土多量含む。掘方埋土
	SB3065 (3)			

No.	土色	土性	備考
1	5Y3/2	シルト	柱痕跡
2	5Y4/3	シルト	掘方埋土
3	5Y4/3	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

SB3068 (2)



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3	シルト	酸化鉄含む。柱痕跡
2	10YR3/3	シルト	炭化物・酸化鉄含む。掘方埋土
3	2.5 Y 4/3	粘土	酸化鉄含む。掘方埋土

SB3069 (1)



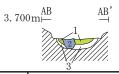
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	シルト	柱痕跡
2	10YR3/3	シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

SB3071 (1)



No.	土色	土性	備考	
1	10YR4/2	シルト	地山ブロック含む。村	主痕跡
2	10YR3/3	シルト	地山ブロック含む。掘	1方埋土

SB3071 (2)



			<u> </u>
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/4	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
2	10YR4/3	シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
3	10YR5/4	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3071 (3)

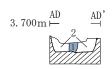
3. 700 m ^{AC}	AC'
3 1	

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2	シルト	地山ブロック・炭化物・焼土含む。柱抜取穴
2	10YR3/2	シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
3	2.5 Y 4/1	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土
4	2.5 4/1	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

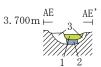
SB3071 (4)



第44図 掘立柱建物跡断面図(3)



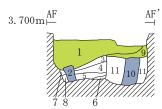
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	シルト	酸化鉄含む。柱痕跡
2	10YR2/2	シルト	掘方埋土



No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/2	シルト	灰褐色砂・酸化鉄含む。柱抜取穴
2	10YR3/2	シルト	酸化鉄含む。柱痕跡
3	7.5YR3/2	シルト	オリーブ褐色シルトブロック・酸化鉄含む。掘方埋土

SB3071 (5)





No.	遺構	土色	土性	備考
1		10YR3/1	シルト	地山ブロック・小礫・砂含む。柱抜取穴
2		10YR2/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
3		5Y5/3	砂	掘方埋土
4	CD0070	5Y2/2	粘土質シルト	掘方埋土
5	SB3072	5Y5/3	砂	掘方埋土
6		5Y2/2	粘土質シルト	掘方埋土
7		2.5Y5/3	シルト	掘方埋土
8		10YR3/1	粘土質シルト	掘方埋土
9		10YR4/2	シルト質砂	柱抜取穴
10	ピット	2.5Y3/2	シルト質砂	柱痕跡
11		10YR3/1	粘土質シルト	暗青灰色砂ブロック含む。掘方埋土



No.	土色	土性	備考
1	2.5 45/3	シルト	柱痕跡
2	2.5 Y 4/2	シルト	掘方埋土
3	10YR4/1	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

SB3072 (2)



No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/2	シルト	柱痕跡
2	2.5 Y 4/2	シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

SB3072 (1)

SB3072 (3)



No.	土色	土性	備考
1	10YR3/3	シルト	黄褐色シルト・酸化鉄含む。柱痕跡
2	10YR3/2	シルト	灰黄色シルトブロック・酸化鉄含む。掘方埋土

 $3.700 \,\mathrm{m} \stackrel{\mathrm{AJ}}{\vdash} \stackrel{\mathrm{AJ'}}{\dashv}$

No.	土色	土性	備考
1	5Y2/1	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	5Y3/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3072 (4)

SB3073 (1)



	No.	土色	土性	備考
	1	10YR2/2	シルト質粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡
I	2	10YR3/1	粘土	柱痕跡
Г	3	10YR3/2	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土
	4	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土

3. 700 m AL AL'

I	No.	土色	土性	備考
	1	2.5Y3/1	粘土	地山小ブロック少量含む。柱痕跡
	2	2.5Y3/1	粘土	地山小ブロック少量含む。掘方埋土

SB3073 (2)

SB3073 (3)



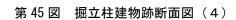
No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1	粘土	炭化物少量含む。柱痕跡
2	10YR3/2	粘土	掘方埋土

SB3074 (1)

3. 300 m AN AN'

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	粘土	炭化物含む。柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

SB3074 (2)

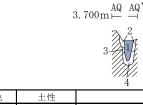






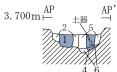
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	粘土	地山小ブロック含む。柱抜取穴
2	10YR3/2	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3074 (3)



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土
3	10YR3/1	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
4	10YR3/1	砂質シルト	掘方埋土

SB3077 (1)



				± 0
No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3075	10YR3/1	シルト	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	203019	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。炭化物少量含む。掘方埋土
3		10YR3/1	シルト	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
4	CD2076	5Y4/1	粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡
5	SB3076	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。炭化物少量含む。掘方埋土
6	Ī	2.5Y3/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3075 · 3076



No.	土色	土性	備考
1	2.5 Y 3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
2	2.5Y3/2	シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土
3	5Y5/2	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3077 (2)



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	10YR3/1	粘土	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土
3	10YR4/1	シルト	地山ブロック多量含む。炭化物含む。掘方埋土

SB3077 (3)



			4
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	5GY4/1	粘土質シルト	掘方埋土
3	10YR2/1	粘土	炭化物少量含む。掘方埋土
4	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

SB3077 (4)



No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
2	5GY4/1	粘土質シルト	掘方埋土
3	10YR2/1	粘土	炭化物少量含む。掘方埋土
4	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

3. 500 m AV AV

 No.
 土色
 土性

 1
 10YR2/1
 粘土
 炭化物多量含む。柱积

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	炭化物多量含む。柱痕跡
2	10YR2/1	粘土質シルト	砂礫多量に含む。地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

SB3078 (1)

3. 300 m ⊢₂ AX'

No.	土色	土性	備考
1	10YR2/1	粘土	柱痕跡
2	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

SB3078 (2)

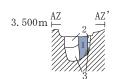


No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1	粘土	柱材残存。柱痕跡
2	10YR1.7/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3078 (3)



第 46 図 掘立柱建物跡断面図 (5)



No.	土色	土性	備考
1	2.5 \ 3 / 1	粘土	柱材残存。柱痕跡
2	2.5 \ 3 / 3	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
2	10YR3/3	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

SB3078 (4)



No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
2	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
3	2.5 Y 4/2	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3078 (5)



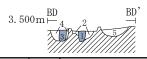
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	シルト	炭化物多量含む。柱痕跡
2	7.5YR3/1	シルト	炭化物含む。掘方埋土

SB3079 (1)



No.	土色	土性	備考
1	5Y3/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
2	5Y4/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

SB3079 (2)



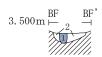
No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3079	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。柱痕跡
2	SB3079	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土
3	SB3081	10YR2/1	粘土	炭化物少量含む。柱痕跡
4	203081	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土
5	SX3122G	2.5Y2/1	粘土	地山ブロック多量含む。

SB3079 (3) · SB3081 (1)



No.	遺構	土色	土性	備考
1		7.5Y2/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
2	SB3080 b	5Y3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
3	1	5Y3/2	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
4	SB3080a	2.5Y3/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
5	2B30808	2.5Y4/2	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

SB3080 (1)



ĺ	No.	遺構	土色	土性	備考
	1	CD00001	10YR1.7/1	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。柱痕跡
	2	SB3080 b	10YR2/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土



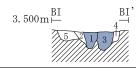
SB3080 (2)

3. 500 m ^{BH} ⊢

No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3080 b	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
2	2B3080 D	10YR4/2	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
3		7.5YR3/1	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
4	SB3080a	5Y3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
5		5Y4/2	粘土質シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3080 (3)

No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3080 b	2.5Y3/1	粘土質シルト	柱痕跡
2	2D2000 D	2.5 Y4/2	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
3	SB3080a	2.5Y3/1	粘土質シルト	柱材残存。柱痕跡
4	SDSUSUA	2.5 Y 3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
5	le° l	2.5Y3/1	粘土質シルト	柱痕跡
6	ピット	2.5 Y4/2	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土



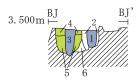
SB3080 (4)

No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3080 b	10YR2/2	シルト	炭化物含む。柱痕跡
2	2D2000 D	10YR4/2	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土
3	SB3080a	2.5Y4/2	シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
4	SDSUSUA	2.5 43/2	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
5	SX3122G	2.5 Y 4/3	シルト	地山ブロック含む。

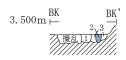
S=1/60 D

SB3080 (5)

第47図 掘立柱建物跡断面図(6)



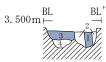
No.	遺構	土色	土性	備考
1	CD20001	2.5 Y 4/2	シルト	炭化物含む。柱痕跡
2	SB3080 b	2.5 4 5 7 5 7 3	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
3		10YR4/1	粘土質シルト	炭化物含む。柱痕跡
4	SB3080a	2.5 45/3	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
5	эрэлола	10YR4/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱抜取穴
5		5Y4/3	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土



ı	No.	遺構	土色	土性	備考
ı	1	ピット	10YR2/1	シルト	
ı	2	anaaaa 1	10YR3/1	シルト	柱痕跡
ı	3	SB3080 b	10YR4/1	シルト	掘方埋土

SB3080 (7)

SB3080 (6)



No.	遺構	土色	土性	備考
1	CD2000 L	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。柱痕跡
2	SB3080 b	10YR4/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土
3	CDOOOO	2.5 Y 3/2	シルト	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
4	SB3080a	7.5Y3/2	シルト	地山ブロック多量含む。掘方埋土

SB3080 (8)

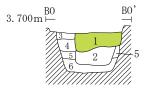


No.	土色	土性	備考
1	10YR3/1	粘土	地山ブロック・炭化物含む。柱痕跡
2	10YR3/1	シルト	地山ブロック・炭化物微量含む。掘方埋土
3	10YR3/2	シルト	地山ブロック・炭化物微量含む。掘方埋土

No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2	シルト	地山ブロック含む。柱抜取穴
2	10YR3/1	シルト	柱痕跡
3	10YR4/1	シルト	地山ブロック含む。掘方埋土

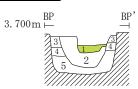
SB3081 (2)

SB3081 (3)



No.	遺構	土色	土性	備考
1	SB3083 b	10YR2/2	シルト	地山小ブロック・炭化物・焼土粒多量含む。柱抜取穴
2	2D2002 D	10YR3/1	砂	IV2層土・V層土多量含む。掘方埋土
3		2.5Y2/1	砂	地山ブロック多量含む。掘方埋土
4	CDOOOO	10YR4/1	砂	IV2層土・V層土・VI層土多量含む。掘方埋土
5	SB3083a	10YR4/1	砂	IV3層土・V層土多量含む。掘方埋土
6		10YR4/1	砂	IV4層土・V層土多量含む。掘方埋土

SB3083 (1)



No.	遺構	土色	土性	備考
1	CD00001	10YR4/1	シルト	地山小ブロック・炭化物・焼土粒多量含む。柱抜取穴
2	SB3083 b	2.5Y3/1	粘土	地山ブロック多量含む。掘方埋土
3		2.5Y3/1	シルト	地山小ブロック多量含む。掘方埋土
4	SB3083a	2.5 Y 4/1	粗砂	地山砂多量含む。掘方埋土
5		5Y2/1	砂	地山砂・粘土ブロック多量含む。掘方埋土

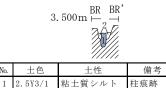
S=1/60 2m

SB3083 (2)

第 48 図 掘立柱建物跡断面図 (7)



S A 2765



		(1)	
i	土性	備考	
/1	业ト上 fff こ/ n . l	地山ブロッカ・岸ル畑会も。 お痘味	Τ

粘土質シルト 地山ブロック・炭化物含む。掘方埋土

2.5Y4/1 粘土質シルト 掘方埋土

S A 3098 (1)

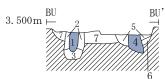
SA3098 (2)

3. $500 \text{m} \overset{\text{BS}}{\vdash} \overset{\text{BS'}}{\rightarrow}$



No.	土色	土性		備考		
1	10YR2/2	粘土	地山小ブロック多量含む。	炭化物少量含む。	しまりなし。	柱痕跡
2	10YR2/2	粘土	地山小ブロック多量含む。	炭化物少量含む。	掘方埋土	

SA3098 (3)

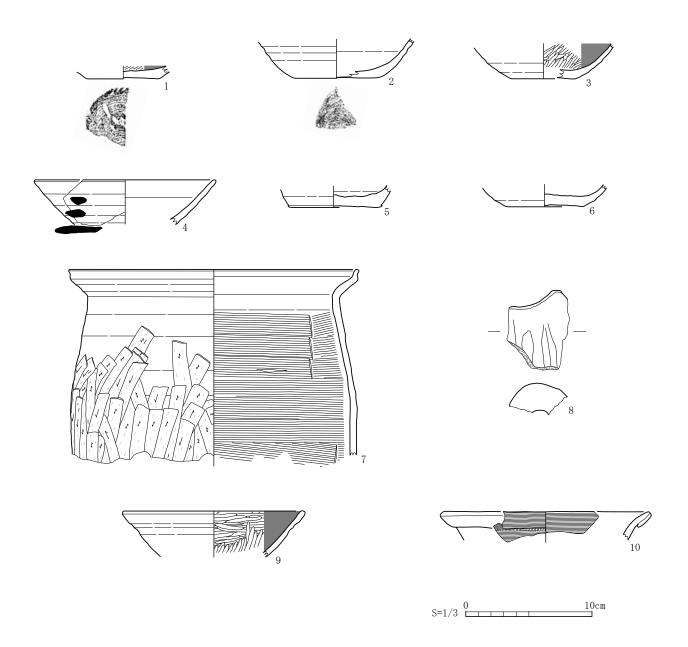


				υ
No.	遺構	土色	土性	備考
1		10YR3/1	粘土	酸化鉄多量含む。炭化物少量含む。しまりなし。柱痕跡
2	SA3098	10YR3/1	粘土	地山ブロック・炭化物少量含む。掘方埋土
3		10YR2/1	粘土	掘方埋土
4		10YR3/1	粘土	灰白色火山灰ブロックを少量含む(二次堆積)。柱痕跡
5	ピット	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック・炭化物少量含む。掘方埋土
6		10YR3/1	粘土質シルト	砂礫少量含む。掘方埋土
7	SK3097	10YR4/3	粘土質シルト	地山ブロック少量含む。

SA3098 (4) · SK3097

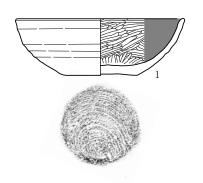


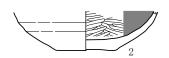
第 49 図 塀跡等断面図

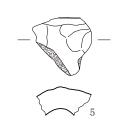


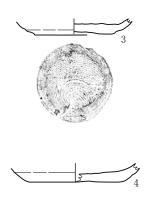
17	for you	Nels, July	E 4.	h 7	+ -	- A +++	内包 水子虫	매士	210 ACI 107, EX	/#: +z.
No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	SB3064	抜取	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(5.8) • 7/24	(1.0)	R57	
2	須恵器坏	303004		ロクロナデ。底:回転糸切	ロクロナデ		(6.7) • 5/24	(3.1)	R58	
3	土師器坏	SB3071		ロクロナデ。底: 手持ケズ リ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(5.2) • 4/25	(2.8)	R80	N3E1
4	須恵器坏	SB3074		ロクロナデ	ロクロナデ	(14.2) · 3/24		(3.5)	R53	墨書「三」 N2E3
5	土師器甕	SB3078		ロクロナデ。底:回転糸切	ロクロナデ		7.2 · 24/24	(1.7)	R161	N3E3
6	須恵器坏			ロクロナデ。底:回転ヘラ 切・手持ケズリ	ロクロナデ		6.1 · 24/24	(1.8)	R163	N1E3
7	土師器甕	SB3080a		ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・ 回転ヘラナデ	(22.8) • 6/24		(15.6)	R162	N1E3
8	羽口			ナデツケ		長:(6.2)	幅:(4.8)		R165	N4E1
9	土師器坏	SB3082		ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14. 2) · 11/24		(3.7)	R81	N2E1
10	土師器壺	SB3083a		ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコ ナデ	(16.3) · 2/24		(2.3)	R56	·

第50図 掘立柱建物跡出土遺物









S=1/3 0 10cm

No.	種類	遺構	層位	外 直	<u> </u>	内	面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	P5		ロクロナデ。庭 転糸切		ヘラミカ 黒色処理		(13. 2) · 11/24	6.2 • 24/24	4. 5	R88	3区 第19図
2	土師器坏	P1		ロクロナデ。庭 転糸切		ヘラミカ 黒色処理			4.8 • 24/24	(3. 2)	R158	3区 第19図
3	須恵器坏	P2		ロクロナデ。庭 転糸切・手持ク		ロクロナ	ーデ		6. 2 · 24/24	(1.2)	R157	3区 第21図
4	須恵器坏	Р3		ロクロナデ。庭 転糸切・手持ク		ロクロナ	-デ		(7.6) • 6/24	(1.5)	R159	4区 第22図
5	羽口	P4		オサエメ				長:(4.6)	幅: (4.6)		R160	4区 第23図

第51図 柱穴出土遺物



第 50 図 2



第 50 図 3



第50図4



第 50 図 7



第 50 図 9



第 50 図 10



第 51 図 2



第51図5



写真図版7



1区SB2760掘立柱建物跡(南西から)





1区SB2761~2764掘立柱建物跡、SA2765掘立柱塀(南から)



3区SB3083掘立柱建物跡(南から)



3区SB3064掘立柱建物跡(北から)



3区SB3068・3069・3071・3072 掘立柱建物跡(東から)



3・4区SB3073~3076・3082掘立柱建物跡(北から)



4区SB3077~3081掘立柱建物跡、SA3098掘立柱塀跡(北から)

写真図版8

(6) 井戸跡

3基の井戸跡を検出した。

【SE3124井戸跡】(第14·53図、写真図版13)

2区南部で検出した素掘りの井戸跡である。

[重複]SX3118畑跡、接する土坑より新しい。

[規模・埋土]直径3.10mの円形で、深さは0.92mである。埋土は5層で、自然堆積である。2層に灰白色 火山灰が自然堆積している。

[遺物]1層から土師器坏(B)(第55図6)・(BⅡ)(第55図7)が出土した。3層から土師器坏(B)(第55図1)・(BV)(第55図2)・甕(B)、須恵器坏(I)・(Ⅱ)(第55図3)・高台付坏・甕・瓶(第55図4・5)が出土した。4層から土師器坏(BI・BIc)・(BV)(第54図1~5)・甕(A・B)、須恵器坏(Ia)(第54図7)・(V)(第54図6)・蓋・甕(第54図9)・瓶(第54図8)が出土した。6層から土師器坏(B)、須恵器坏・甕が出土した。7層から須恵器甕が出土した。

【SE3125井戸跡】(第18・52・53図、写真図版13)

3区南西部で検出した井戸枠のある井戸跡である。

[重複] S E 3126井戸跡より新しい。

[掘方]一辺2.22mの隅丸方形で、深さは約1.20mである。

[井戸枠] 4本の隅柱(丸木)と幅が不揃いな縦板、横桟による構造である。隅柱にはほぞ穴が作られており、横桟とほぞ継ぎされている。内法は東西・南北とも0.65mである。井戸底面で集水施設は確認されなかった。 [抜取穴]直径1.28mの不整円形で、深さは0.42mである。埋土は3層で、自然堆積である。2層に灰白色火山灰が自然堆積している。

[遺物]抜取穴から土師器坏(B)(第57図 5・9)・(BV)(第57図 4・6・7)・甕(B)、須恵器坏(V)(第57図 8)・甕・瓶・円面硯(第57図10)が出土した。井戸内から土師器坏(BV)(第57図 2・3)・須恵器坏(Ⅱ)・蓋、木製品(第58図~第60図)が出土した。掘方埋土から土師器坏(B)(第56図 1)・(B I b)・(B II)(第56図 2)・(B II c)(第56図 3・4)・(B V)(第56図 5~10)・甕(A)・(B)(第56図12)、須恵器坏(I)・(II a)(第56図11)・(V)・甕・円面硯、平瓦・丸瓦(第57図 1)が出土した。

木製品の樹種同定は、(株) パレオ・ラボに委託して行った。第60図~第62図の9点を分析し、結果はすべてカヤであった。カヤはイチイ科の常緑針葉樹で、自然分布域は東北以西の本州、四国、九州になる。

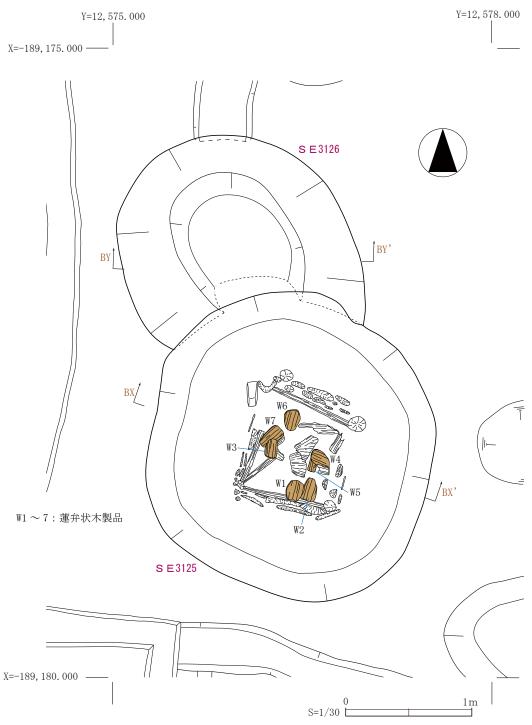
【SE3126井戸跡】(第18・52・53図、写真図版13)

3区南西部で検出した素掘りの井戸跡である。

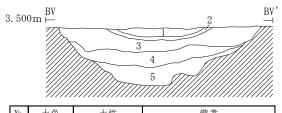
[重複] S E 3125井戸跡より古い。

[規模・埋土]長径2.05m (検出長)、短径1.82mの楕円形で、深さは0.95mである。埋土は4層で、1層は人為堆積、下層は自然堆積である。

[遺物] 1層から土師器甕(A)、須恵系土器坏が出土した。3層から土師器甕(A)、須恵器坏(I)・甕・瓶が出土した。

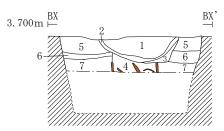


第 52 図 S E 3125・3126 井戸跡



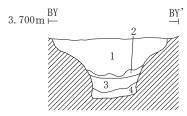
No.	土色	土性	備考
1	2.5 4/1	粘土質シルト	炭化物少量含む
2	5Y8/1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)
3	2.5 43/1	粘土質シルト	砂礫多量含む
4	10YR3/1	粘土	
5	2.5 4/1	シルト	黒褐色粘土ブロック含む

S E 3124



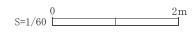
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/1	シルト	炭化物・酸化鉄多量含む。井戸枠抜取穴
2	5Y8/1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)。井戸枠抜取穴
3	10YR3/1	シルト	井戸枠抜取穴
4	10YR3/1	粘土	井戸枠内堆積土
5	10YR3/1	シルト	砂礫多量含む。掘方埋土
6	10YR3/1	粘土質シルト	地山ブロック含む。掘方埋土
7	10YR3/1	シルト質粘土	地山ブロック含む。掘方埋土

S E 3125

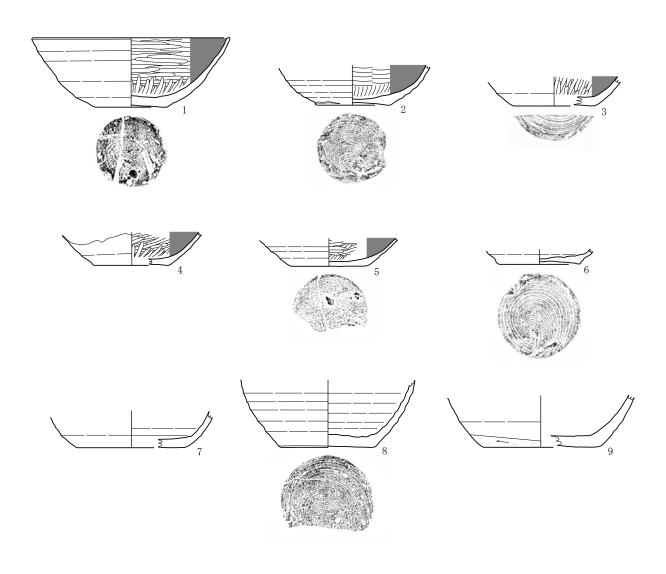


No.	土色	土性	備考
1	2.5 45/2	粘土質シルト	IV2層土多量含む。人為堆積
2	2.5 Y 4/1	シルト質粘土	
3	5Y3/1	粘土質シルト	砂含む。
4	7.573/1	シルト質粘土	砂会む。

S E 3126



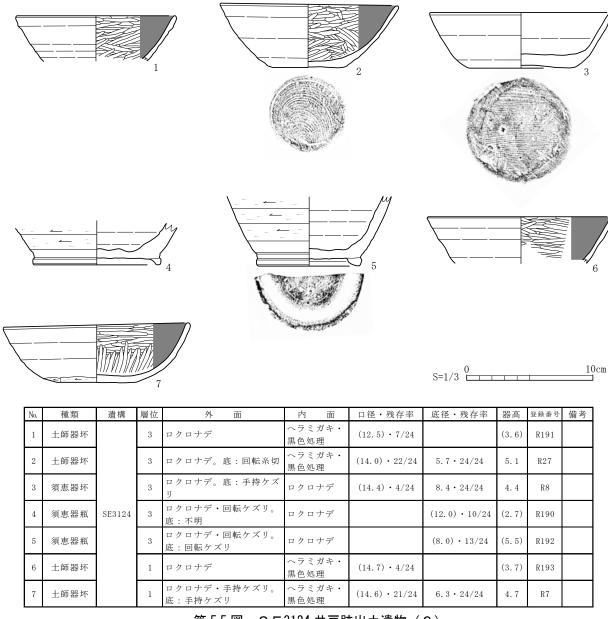
第53図 井戸跡断面図



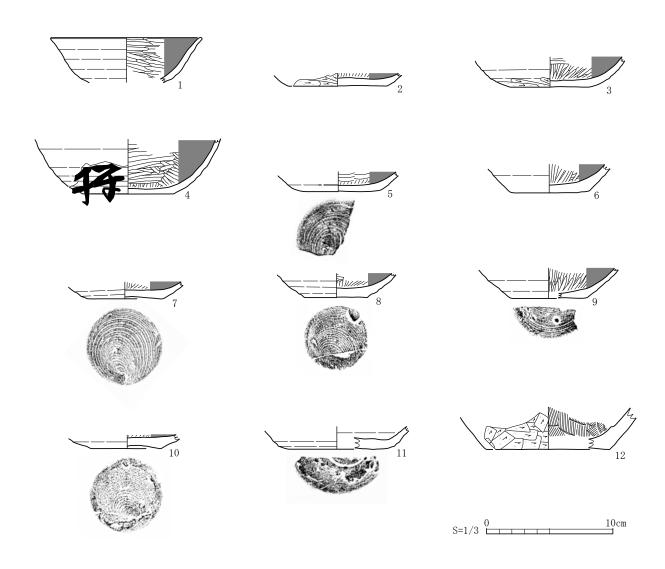
				S=1	/3			10cm	
ы		rka	refer	口仅. 成方家	应仅, 难 方 宓	민 급	74 43 平 旦.	/# 本	

No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(15. 6) · 1/24	5.7 · 24/24	5.5	R181	
2	土師器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.7 · 24/24	(3.2)	R182	
3	土師器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.4) • 10/24	(2.3)	R183	
4	土師器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.0) • 9/24	(2.6)	R187	
5	土師器坏	SE3124	4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6. 1) · 10/24	(2. 2)	R188	
6	須恵器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ロクロナデ		6.4 · 24/24	(1. 2)	R184	
7	須恵器坏		4	ロクロナデ。底:回転ヘラ 切・回転ケズリ	ロクロナデ		(8.5) • 5/24	(2.9)	R185	
8	須恵器瓶		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ロクロナデ		(7.4) • 17/24	(5.3)	R186	
9	須恵器甕		4	ロクロナデ・回転ケズリ。 底:手持ケズリ	ロクロナデ		(9. 2) • 8/24	(4. 1)	R189	

第54図 SE3124井戸跡出土遺物(1)

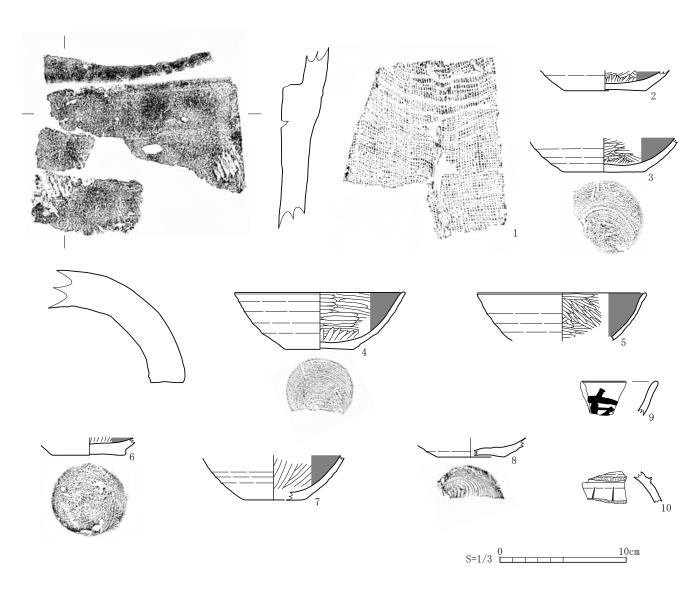


第55図 SE3124井戸跡出土遺物(2)



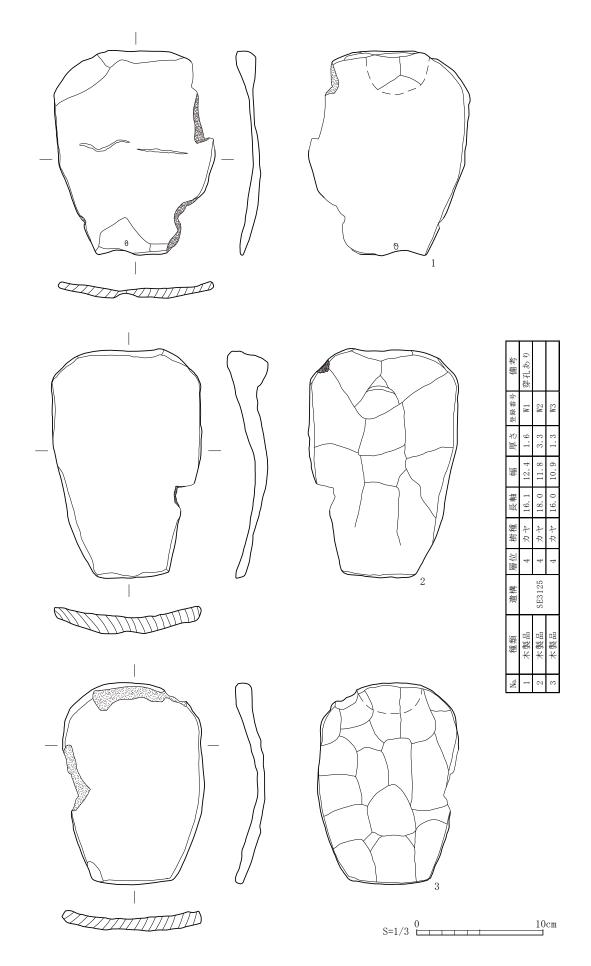
No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏		掘方	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(11.8) • 4/24		(3.6)	R72	
2	土師器坏		掘方	手持ケズリ。底:手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.8) • 6/24	(1.0)	R69	
3	土師器坏		掘方	ロクロナデ・手持ケズリ。 底:回転糸切・手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6. 2) · 11/24	(2.4)	R77	
4	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底:回転糸切・ 手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7. 2) · 19/24	(4.3)	R45	墨書 「持」カ
5	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.5) · 7/24	(1.6)	R66	
6	土師器坏	SE3125	掘方	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6. 2) · 12/24	(2.3)	R70	
7	土師器坏	SE3125	掘方	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		6.0 · 24/24	(1.4)	R68	
8	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.1 · 24/24	(1.9)	R74	
9	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(5.9) • 9/24	(2.4)	R73	
10	土師器坏		掘方	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.5 · 24/24	(1.1)	R75	
11	須恵器坏		掘方	ロクロナデ。底:回転ヘラ 切・手持ケズリ	ロクロナデ		(8.0) · 9/24	(1.8)	R71	
12	土師器甕		掘方	ヘラケズリ。底:手持ケズリ	ヘラナデ		(9.8) · 5/24	(3.3)	R65	

第56図 SE3125 井戸跡出土遺物(1)

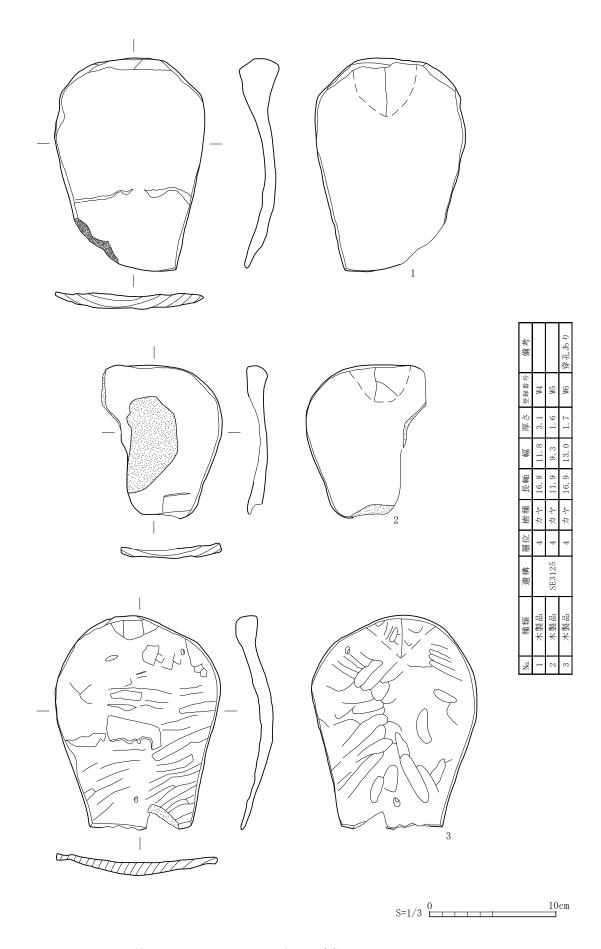


No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	丸瓦		掘方	凸面:縄タタキ目・ロクロナ デ	凹面:布目	長: (14.9)	幅: (12.0)		R67	
2	土師器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.4) · 13/24	(1.6)	R64	
3	土師器坏		4	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.4) · 16/24	(2.7)	R262	
4	土師器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.3) · 4/24	(5.4) · 17/24	4.5	R59	
5	土師器坏	SE3125	1	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.3) · 4/24		(308)	R261	
6	土師器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.9 · 24/24	(1.4)	R62	
7	土師器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(4.6) · 6/24	(3.5)	R63	
8	須恵器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ロクロナデ		(5.3) • 10/24	(1.5)	R60	
9	土師器坏		1	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理			(2.8)	R44	墨書 「南」
10	須恵器 円面硯		1	ロクロナデ・沈線	ロクロナデ			(2.5)	R61	

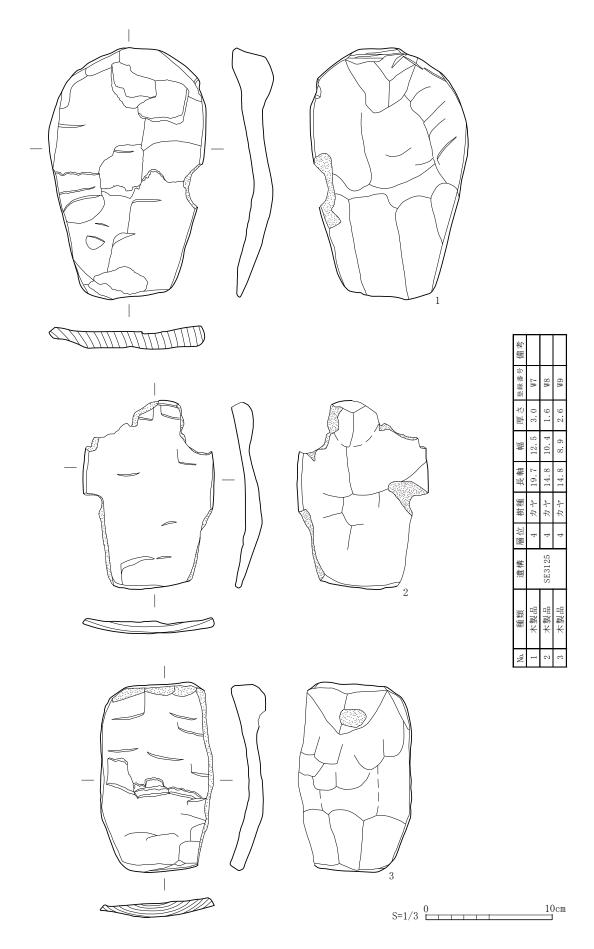
第57図 S E 3125 井戸跡出土遺物 (2)



第 58 図 S E 3125 井戸跡出土遺物 (3)



第 59 図 S E 3125 井戸跡出土遺物 (4)



第 60 図 S E 3125 井戸跡出土遺物 (5)



写真図版 9









写真図版 10









写真図版 11



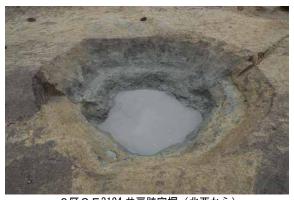
第60図1



第 60 図 2



写真図版 12



2区SE3124井戸跡完掘(北西から)



2区SE3124井戸跡断面(西から)



3区SE3125井戸跡断面(南から)



3区SE3125井戸跡蓮弁状木製品出土状況(北西から)



3区SE3125井戸跡(東から)



3区SE3125井戸跡(東から)



3区SE3126井戸跡完掘(南から)



3区SE3126井戸跡断面(南から)

写真図版 13

(7) 土坑

63基の土坑を検出し、そのうち14基について説明する。

【SK3084土坑】(第7·61図)

1区西部で検出した土坑である。

[重複] S X 3114 畑跡より新しい。

[規模・埋土] 東西1.30m (検出長)、南北0.54m (検出長) で、深さは0.20mである。埋土は2層で、自然堆積である。

[遺物] 1層から土師器甕 (B)、須恵器坏 (Ⅱ) (第63図1)・(Ⅱa) (第63図2)・(V)・甕、須恵系土器坏が出土した。

【SK3085土坑】(第11·61図、写真図版18)

2区北部で検出した土坑である。

[重複]土坑の中央に溝跡1条を確認し、それより古い。SX3115・3116畑跡、接する土坑より新しい。 [規模・埋土]東西5.10m(検出長)、南北5.42m(検出長)で、深さは1.08mである。埋土は8層で、自然堆積である。2層に灰白色火山灰が自然堆積している。

[遺物] 1層から土師器坏(B)・甕(第65図11)・(A・B)、須恵器坏(Ⅱ・V)・蓋・甕、平瓦が出土した。 2層から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器坏(V)が出土した。 3層から土師器坏(BⅡc)(第65図5)・(BV)(第65図4・6・7)・甕(A)・(B)(第65図10)、須恵器坏(Ia)(第65図8)・(Ⅱa)・甕・瓶(第65図9)、平瓦が出土した。 4層から土師器坏(BV)(第65図1)・甕(A)・(B)(第65図2)・壺(第65図3)、須恵器坏が出土した。 5層から土師器坏(B)・高台付坏・甕(B)が出土した。 6層から土師器坏(B)(第64図8・9)・(BV)(第64図6・7・10)・高台付坏(BV)(第64図11)・甕(B)、須恵器坏(V)(第64図1~5)・甕が出土した。 7層から土師器坏(B)・(BⅡc)(第63図3)・(BV)(第63図4)・甕(B)(第63図5・6)、須恵器甕・瓶(第63図7・8)、平瓦が出土した。その他、埋土から土師器坏(B)(第65図12・13)・(BV)(第66図1~3)・甕(B)、須恵器坏が出土した。

【SK3086土坑】(第12·61図)

2区中央部で検出した土坑である。

[重複]SD3102北側溝跡・3105区画溝跡、SK3087土坑より古い。

[規模・埋土]東西0.50m (検出長)、南北0.98m (検出長)で、深さは0.15mである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物]土師器坏(B)、支脚(第66図5)が出土した。

【SK3087土坑】(第12·61図)

2区中央部で検出した土坑である。

[重複]SD3102北側溝跡・3105区画溝跡より古い。SK3086土坑より新しい。

[規模・埋土]東西1.20m (検出長)、南北1.46m (検出長)で、深さは0.24mである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物]土師器坏(BⅡ)・甕(B)・甑(第66図6)、須恵器蓋・甕が出土した。

【SK3088土坑】(第13·61図、写真図版18)

2 区南部で検出した土坑である。

[重複]ない。

[規模・埋土]2.25×1.36mの不整方形で、深さは0.51mである。埋土は5層で、1層は自然堆積、下層は 人為堆積である。

[遺物] 1層から土師器坏(B)・甕(A)(第66図8)・(B)、須恵器坏(第66図7)・甕、須恵系土器坏が出土した。2層から土師器坏(B)・甕(B)、須恵器坏が出土した。

【SK3089土坑】(第16·61図)

3区東部で検出した土坑である。

[重複]隣接するピットより古い。

[規模・埋土]2.70×2.58 (検出長) mの楕円形で、深さは0.22mである。埋土は4層で、自然堆積である。 [遺物]埋土から土師器坏(A)(第66図9)(B)・蓋、須恵器坏(Ⅱ)・(Ⅲ)、須恵系土器坏(第66図12)・高台付坏(第66図11)・蓋(第66図10)、羽口(第66図13)、砥石(第66図14)が出土した。

【SK3090土坑】(第21·61図、写真図版18)

3区北部で検出した土坑である。

「重複] S X 3122 畑跡より新しい。

[規模・埋土]1.02×0.86mの不整方形で、深さは0.20mである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物] 土師器坏 (B) (第67図 $2 \sim 4$)・(BV) (第67図 $1 \cdot 5$)・高台付坏 (BV) (第67図 6)・甕 (A)・(B) (第67図 6)、須恵器坏が出土した。

【SK3091土坑】(第22·61図)

4区中央部で検出した土坑である。

[重複]SX3122畑跡、接する遺構より新しい。

[規模・埋土]東西1.00m (検出長)、南北1.93m (検出長) で、深さは0.63mである。埋土は4層で、自然堆積である。1層に灰白色火山灰が自然堆積している。

[遺物]埋土から土師器坏(BV)(第67図8・9)・甕(B)、須恵器坏(Ⅱa)・甕が出土した。

【SK3092土坑】(第22·61図、写真図版18)

4区中央部で検出した土坑である。

[重複]SX3122・3123畑跡より新しい。

[規模・埋土]1.46×1.25mの楕円形で、深さは0.20mである。埋土は2層で、自然堆積である。

[遺物]埋土から土師器坏 (BV) (第67図12)・高台付坏・甕 (B)、須恵器坏 (Ⅱ)・甕・瓶 (第67図11) が出土した。

【SK3093土坑】(第22·61図、写真図版18)

4区中央部で検出した土坑である。

[重複]SB3078掘立柱建物跡より古い。SX3122畑跡より新しい。

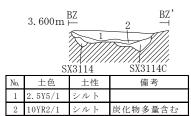
[規模・埋土]1.34×1.10mの隅丸方形で、深さは0.28mである。埋土は2層で、自然堆積である。

[遺物]埋土から土師器坏(BV)・甕(B)、須恵器甕が出土した。

【SK3094土坑】(第22·61図、写真図版18)

4区中央部で検出した土坑である。

[重複]SX3122・3123畑跡、接する土坑より新しい。



S K 3084

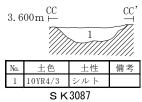


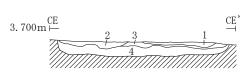
3. 700 m ←

S K 3086



S K 3085





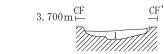
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	粘土	炭化物多量含む。明黄褐色シルト含む。
2	2.5Y3/3	シルト	炭化物多量含む。明黄褐色シルト含む。
3	10YR3/1	シルト	酸化鉄含む。
4	10YR3/1	シルト	黄褐色シルト多量含む。

S K 3089

3.500 m ^{CD} ⊢

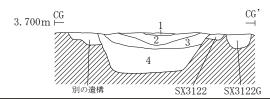
No.	土色	土性	備考
1	10YR2/2	シルト	炭化物含む。
2	10YR4/2	シルト	地山ブロック多量含む。炭化物含む。人為堆積
3	2.5 Y 3/2	シルト	地山ブロック含む。炭化物含む。人為堆積
4	2.5 43/2	シルト	地山ブロック多量含む。炭化物含む。人為堆積
5	2.5 4/3	シルト	地山ブロック多量含む。人為堆積

S K 3088



No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1	シルト	地山小ブロック・炭化物・焼土粒・土器片多量含む。

S K 3090



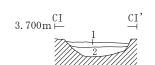
No.	土色	土性	備考
1	10YR7/1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)
2	10YR2/1	シルト	炭化物少量含む。
3	10YR2/1	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。
4	10YR1.7/1	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。

S K 3091

 $3.\,700\,\mathrm{m} \, \overset{\mathrm{CH}}{\vdash}$

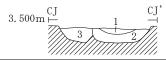
No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1	シルト	炭化物多量含む。
2	2.5Y2/1	粘土	地山小ブロック少量含む。

S K 3092



No.	土色	土性	備考
1	10YR1.7/1	シルト	炭化物多量含む。
2	2.5Y2/1	粘土	地山小ブロック少量含む。

s K3093



No.	遺構	遺構 土色		備考
1	SK3094	10YR2/1	粘土	炭化物多量含む。地山小ブロック少量含む。
2	5K5U94	10YR2/1	粘土	地山小ブロック・炭化物少量含む。
2	土坑	10YR3/1	粘土	地山小ブロック多量含む。

S K 3094



CA'

[規模・埋土]直径0.98mの円形で、深さは0.26mである。埋土は2層で、自然堆積である。

[遺物] 1層から土師器坏 (BV) (第68図1)・甕 (B)、須恵器甕・瓶が出土した。 2層から土師器甕 (B) が出土した。

【SK3095土坑】(第22·62図)

4区中央部で検出した土坑である。

[重複] S X 3122畑跡より新しい。

[規模・埋土]東西2.25m (検出長)、南北0.97m (検出長) で、深さは0.43mである。埋土は2層で、自然堆積である。

[遺物]埋土から土師器坏(B)・甕(B)、須恵器坏(I)(第68図2)・蓋、平瓦が出土した。

【SK3096土坑】(第22·62図)

4区中央部で検出した土坑である。

「重複] S X 3122・3123畑跡より新しい。

[規模・埋土]1.32m (検出長) ×1.08mの楕円形で、深さは0.20mである。埋土は3層で、自然堆積である。 1層に灰白色火山灰が自然堆積している。

[遺物]埋土から土師器坏(B)・甕(B)、須恵器坏・甕・瓶が出土した。

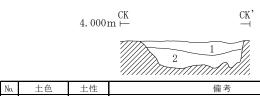
【SK3097土坑】(第23·49図)

4 区東部で検出した土坑である。

[重複] S A 3098掘立柱塀跡、接するピットより古い。 S X 3122・3123畑跡より新しい。

[規模・埋土]直径1.75mの円形で、深さは0.23mである。埋土は1層で、自然堆積である。

[遺物]土師器坏(B)・甕(A・B)、須恵器瓶、羽口(第67図10)が出土した。



No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/1	シルト	灰白色火山灰ブロック少量含む(二次堆積)。
2	7.5YR3/1	シルト	地山小ブロック・炭化物・焼土粒多量含む。

S K 3095

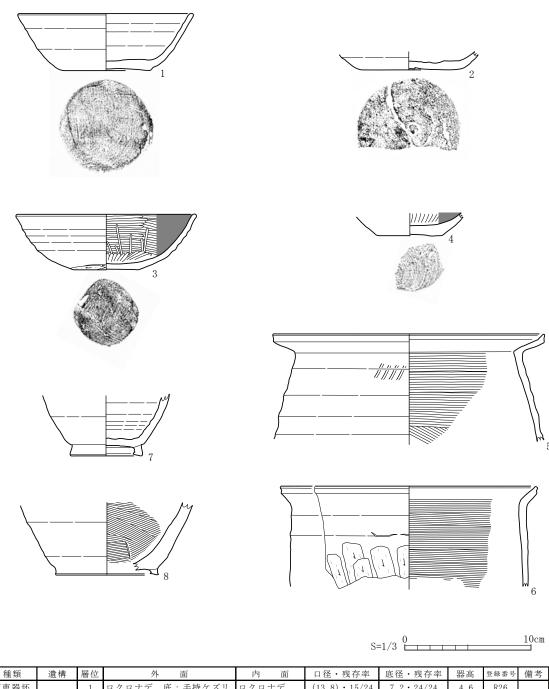


No.	土色	土性	備考
1	10YR7/1	シルト	灰白色火山灰(自然堆積)
2	10YR2/1	粘土	層上部に炭化物層あり。地山小ブロック多量含む。
3	10VR2/1	粘土	地山ブロック多量会te 灰白色火山灰小ブロック小量会te

S K 3096

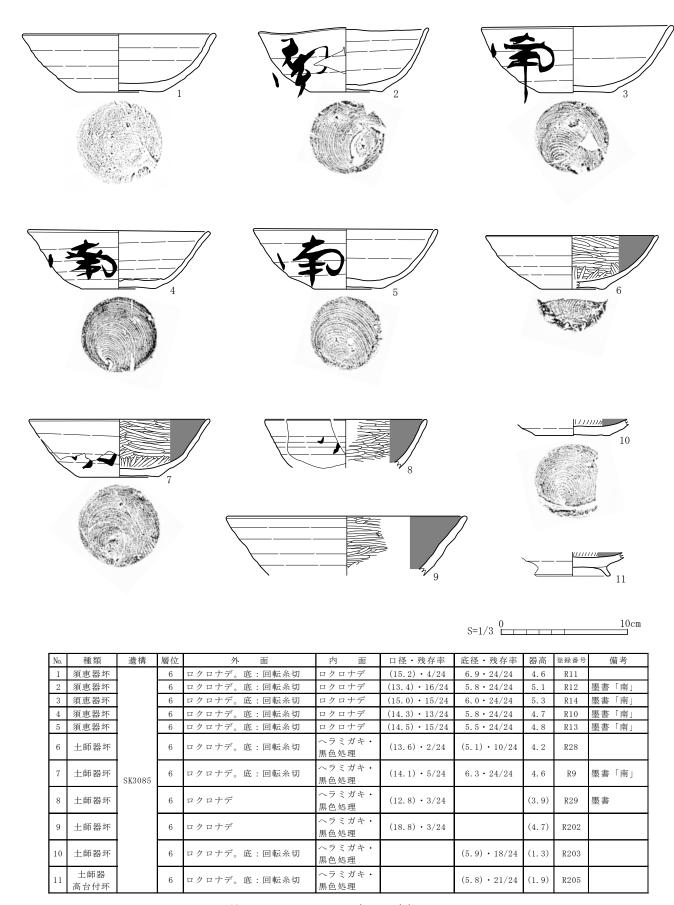
第62図 土坑断面図(2)



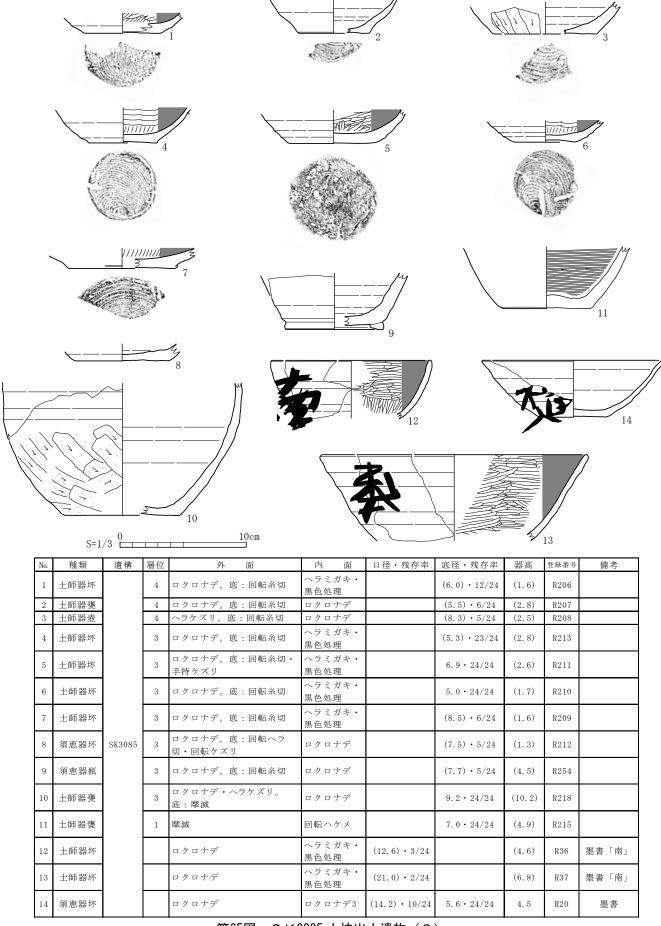


No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	須恵器坏		1	ロクロナデ。底:手持ケズリ	ロクロナデ	(13.8) • 15/24	7.2 • 24/24	4.6	R26	
2	須恵器坏	SK3084	1	ロクロナデ。底:回転ヘラ 切・手持ケズリ	ロクロナデ		(8.0) · 14/24	(1.4)	R255	
3	土師器坏		7	ロクロナデ・手持ケズリ。 底:回転糸切・手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.0) • 7/24	5.0 · 24/24	4.4	R15	
4	土師器坏		7	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(5.3) · 10/24	(1.8)	R197	
5	土師器甕	SK3085	7	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ・ 回転ヘラナデ	(21.4) · 3/24		(8.6)	R198	
6	土師器甕		7	ロクロナデ・ヘラケズリ	ロクロナデ・ 回転ヘラナデ	(20.2) • 4/24		(8. 2)	R199	
7	須恵器瓶		7	ロクロナデ。底:不明	ロクロナデ		5.6 • 24/24	(4.8)	R200	
8	須恵器瓶		7	ロクロナデ。底:不明	ヘラナデ		(8.0) • 7/24	(5.7)	R201	

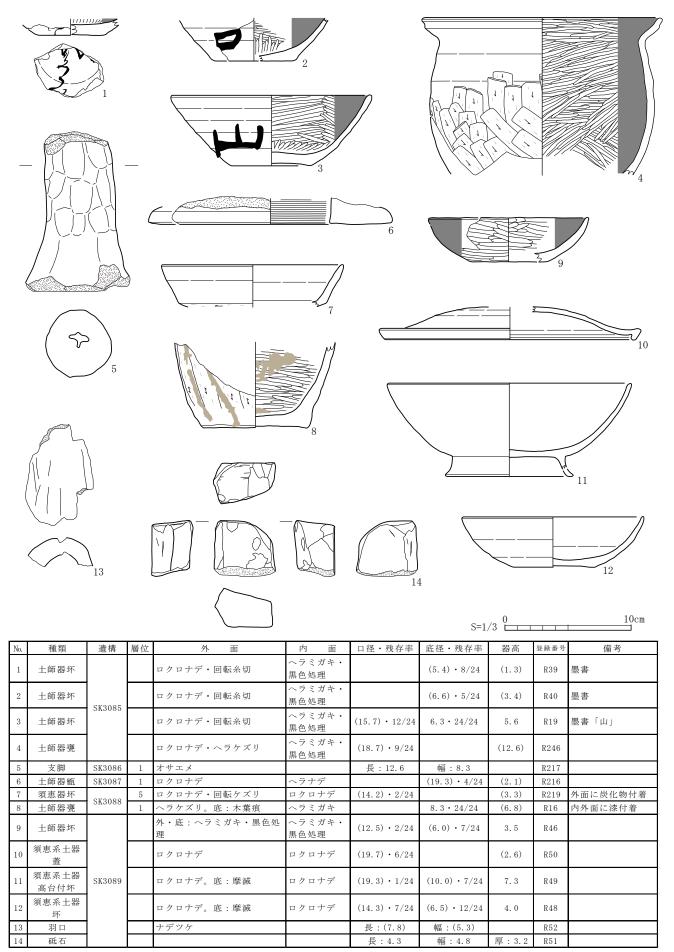
第63図 SK3084·SK3085(1) 土坑出土遺物



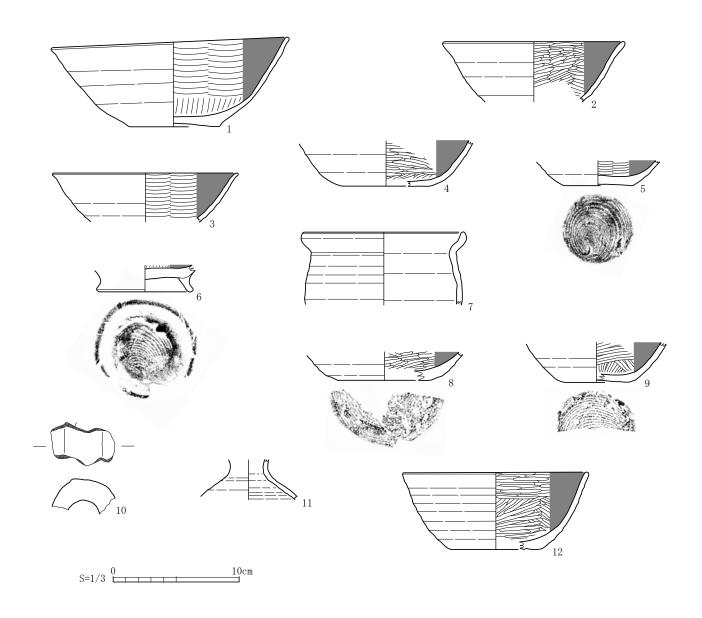
第64図 SK3085 土坑出土遺物 (2)



第65図 SK3085 土坑出土遺物 (3)

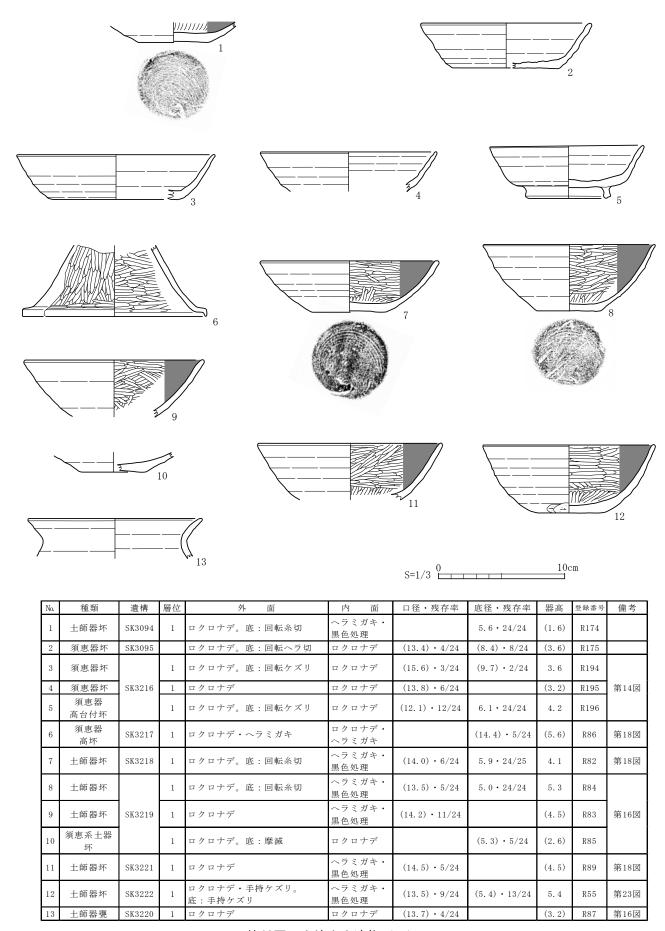


第66図 土坑出土遺物(1)



No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	SK3090	1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(18.6) • 13/24	7.2 • 24/24	7. 1	R23	
2	土師器坏		1	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14. 2) · 6/24		(4.8)	R93	
3	土師器坏		1	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.6) · 4/24		(3.9)	R92	
4	土師器坏		1	ロクロナデ。底:摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.0) • 9/24	(3.6)	R91	
5	土師器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.5 · 24/24	(2.0)	R94	
6	土師器 高台付坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.4) · 17/24	(2.1)	R78	
7	土師器甕		1	ロクロナデ	ロクロナデ	(12.7) · 6/24		(5.8)	R96	
8	土師器坏	• SK3091		ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(7.5) · 7/24	(2.4)	R259	
9	土師器坏			ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(5.5) · 13/24	(3.2)	R260	
10	羽口	SK3097	1	ナデツケ		長: (2.9)	幅:4.8	厚: (5.0)	R176	
11	須恵器瓶	SK3092	1	ロクロナデ	ロクロナデ			(3.2)	R54	
12	土師器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.6) · 3/24	(7.4) · 7/24	6. 1	R173	

第67図 土坑出土遺物(2)



第68図 土坑出土遺物(3)









写真図版 17



2区SK3085土坑検出(西から)



2区SK3085土坑断面(南東から)



2区SK3085土坑完掘(東から)



2区SK3088土坑断面(北東から)



3区SK3090土坑断面(西から)



3区S3089・3219・3220土坑完掘(南から)



3区SK3217・3218・3221 土坑完掘(西から)



4区SK3092~3094土坑完掘(北から)

写真図版 18

(8) 畑跡

【S X 3114畑跡】(第7~9・69・78図、写真図版20)

1区で検出された南北方向の畑跡である。小溝跡は41条で、 溝の間隔や方向、切り合い関係から4群に分類された。

(古) A群→B群→C群→D群(新)

[重複] S B 2760 \sim 2764掘立柱建物跡、S A 2765掘立柱塀跡、S K 3084土坑、その他接する土坑、ピットより古い。S X 3099整地層、S D 3108・3109・3111溝跡、その他接する溝より新しい。

[規模・埋土] A群は 6条で、長さ1.36~4.72(検出長) m、幅0.22~0.35m、深さ0.05~0.20mである。 方向はN-8~12°-Eである。B群は10条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ0.88~5.83(検出長) m、幅0.22~0.55m、深さ0.04~0.20mである。方向はN-6~13°-Eである。C群は13条で、溝の間隔は1.50~2.00mである。長さ0.73~6.85(検出長) m、幅0.19~0.96m、深さ0.04~0.15m である。方向はN-5°-Eである。D群は12条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ0.87~10.70(検出長) m、幅0.15~0.26m、深さ0.07~0.19mである。方向はN-4~13°-Eである。

【S X 3115畑跡】(第11・70・76図、写真図版20)

2 区北部で検出された東西方向の畑跡である。小溝跡は5条で、溝の間隔から2群に分類された。先後 関係は不明である。

[重複]SD3113区画溝跡、SX3116畑跡より古い。

[規模・埋土] **A 群**は 4 条で、溝の間隔は1.50 ~ 2.00mである。長さ1.00 ~ 5.50(検出長)m、幅0.17 ~ 0.43m、深さ0.05 ~ 0.18mである。方向は $E-7\sim11^\circ-S$ である。**B 群**は 1 条で、長さ1.94m、幅0.20m、深さ0.03 ~ 0.05mである。方向は $E-6^\circ-S$ である。

[遺物] A群埋土から土師器坏 (BV) (第79図1)・甕 (A・B)、須恵器坏 (V) (第79図2)・瓶が出土した。 【S X 3116畑跡】 (第11・71・76図、写真図版20)

2区北部で検出された南北方向の畑跡である。小溝跡は8条で、 溝の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。 (古) A群→C群(新) B群

[重複] SD3102北側溝跡、SK3085土坑、その他接する土坑、ピットより古い。SX3115畑跡より新しい。 [規模・埋土] A 群は 3 条で、溝の間隔は約1.70mである。長さ1.26~8.60(検出長) m、幅0.13~0.36m、深さ0.06mである。方向はN-4°-Eである。B 群は 2 条で、溝の間隔は約1.50mである。長さ0.78~2.44(検出長) m、幅0.15~0.27m、深さ0.04~0.09mである。方向はN-11°-W~N-5°-Eである。C 群は 3 条で、溝の間隔は約1.50mである。長さ2.45~7.41(検出長) m、幅0.16~0.51m、深さ0.04~0.12mである。方向はN-1~7°-Eである。

[遺物] A群埋土から土師器坏(BV)(第79図3)・甕(B)、須恵器甕が出土した。C群埋土から土師器坏(B)・甕(A)、須恵器甕、平瓦が出土した。

【S X 3117畑跡】 (第12・13・72・76図、写真図版21)

2区中央部で検出された東西方向の畑跡である。小溝跡は10条で、溝の間隔から2群に分類された。先 後関係は不明である。

[重複] S X 3118 畑跡より古い。

[規模・埋土] A 群は 7 条で、溝の間隔は1.50 ~ 2.00mである。長さ0.98 ~ 4.20(検出長)m、幅0.15

 ~ 0.52 m、深さ $0.04 \sim 0.16$ mである。方向は $E-7^{\circ}-N \sim E-7^{\circ}-S$ である。**B群**は3条で、溝の間隔は $1.30 \sim 2.00$ mである。長さ $1.45 \sim 2.72$ (検出長)m、幅 $0.30 \sim 0.62$ m、深さ0.05mである。方向は $E-16 \sim 21^{\circ}-S$ である。

[遺物]出土していない。

【S X 3118畑跡】(第12~15・73・76・77図、写真図版21)

2 区南半部で検出された南北方向の畑跡である。小溝跡は18条で、 溝の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。 (古) A群→B群→C群(新)

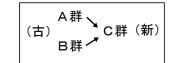
[重複] S D 3105 区画溝跡、 S D 3112 溝跡、 S K 3216 土坑、 S X 3119 畑跡、 その他接する土坑より古い。 S X 3117 畑跡より新しい。

[規模・埋土] A 群は13条で、長さ0.75 \sim 12.28m、幅0.25 \sim 0.67m、深さ0.03 \sim 0.11mである。方向はN-34° -W \sim N-30° -Eである。B群は2条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ12.82 \sim 17.20 m、幅0.18 \sim 0.46m、深さ0.03 \sim 0.14mである。方向はN-9 \sim 13° -Eである。C群は3条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ3.50 \sim 17.42(検出長)m、幅0.17 \sim 0.52m、深さ0.03 \sim 0.08mである。方向はN-1 \sim 4° -Eである。

[遺物] A群埋土から土師器坏 (B)・甕 (A・B)、須恵器坏 (I) (第79図4)・(Ia)・蓋・甕が出土した。 C群埋土から土師器坏 (B)・高台付坏、須恵器坏 (Ⅱ)・甕が出土した。

【SX3119畑跡】(第13・14・72・77図、写真図版21)

2 区南半部で検出された東西方向の畑跡である。小溝跡は15条で、 溝の間隔や方向、切り合い関係から3群に分類された。



[重複]SD3112溝跡、その他接する土坑より古い。SX3118畑跡より新しい。

[規模・埋土] A群は4条で、溝の間隔は約2.50mである。長さ1.56~1.98(検出長) m、幅0.24~0.33m、深さ0.04~0.11mである。方向はE-1°-N~E-5°-Sである。B群は5条で、長さ1.31~4.23(検出長) m、幅0.20~0.32m、深さ0.04~0.07mである。方向はE-20°-N~E-6°-Sである。C群は6条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ2.50~4.00(検出長) m、幅0.22~0.60m、深さ0.04~0.12mである。方向はE-12°-N~E-7°-Sである。

[遺物] B 群埋土から須恵器甕が出土した。 C 群埋土から土師器坏 (B)・甕 (A・B)、須恵器坏・蓋・甕・瓶が出土した。

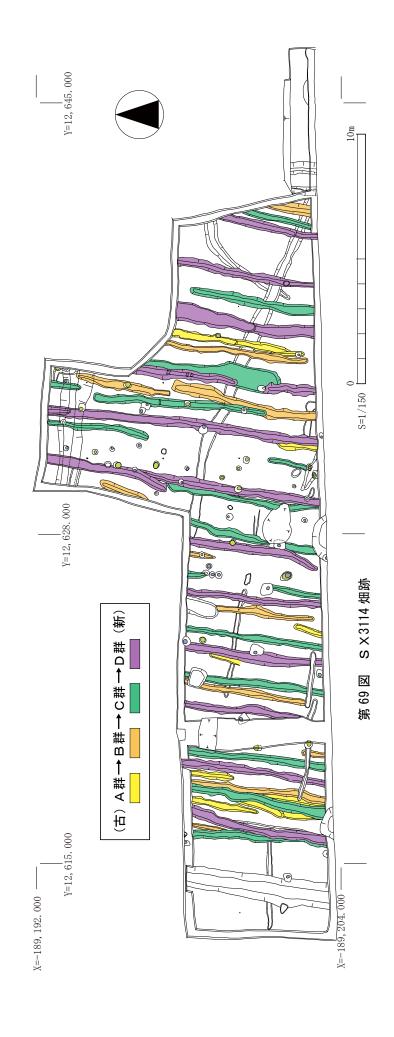
【S \times 3120畑跡】 (第16 \sim 19・75・77図、写真図版21)

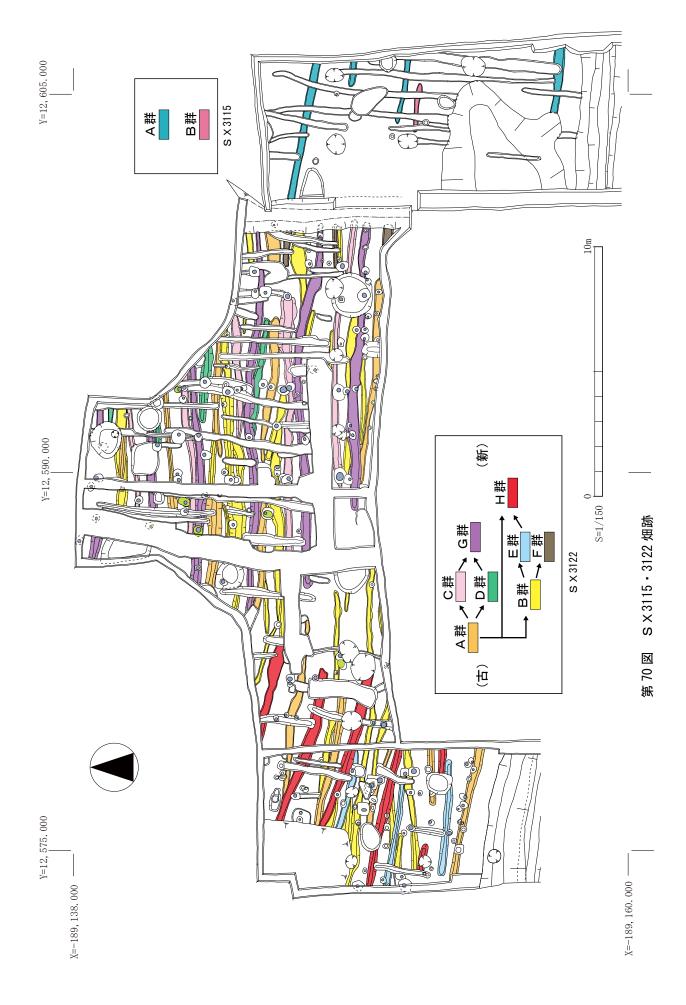
3区東部~中央部で検出された東西方向の畑跡である。小溝跡は10条で、溝の間隔から2群に分類された。先後関係は不明である。

[重複] S B 3064・3065・3068・3071・3072掘立柱建物跡、S K 3218土坑、その他接する土坑、ピットより古い。 S K 3221土坑、S X 3121畑跡より新しい。

[規模・埋土] A群は3条で、溝の間隔は2.00~3.00mである。長さ0.80~7.64(検出長)m、幅0.20~0.64m、深さ0.05~0.21mである。方向は $E-7^\circ-N$ ~ $E-8^\circ-S$ である。B群は7条で、長さ0.58~4.08(検出長)m、幅0.25~0.51m、深さ0.05~0.16mである。方向は $E-5^\circ-N$ ~ $E-10^\circ-S$ である。

[遺物]A群から土師器坏(BV)(第79図5)が出土した。B群埋土から土師器坏(B)・甕(A・B)、須







【S X 3121畑跡】 (第 $16 \sim 19 \cdot 74 \cdot 77$ 図)

3区東部~中央部で検出された南北方向の畑跡であ る。小溝跡は11条で、溝の間隔や方向、切り合い関係か ら3群に分類された。

[重 複]S B 3064·3065· 3071掘立柱建物跡、SK (古) A群→C群(新) B群

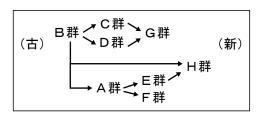
3217土坑、S X 3120畑跡、その他接する土坑、ピットよ り古い。

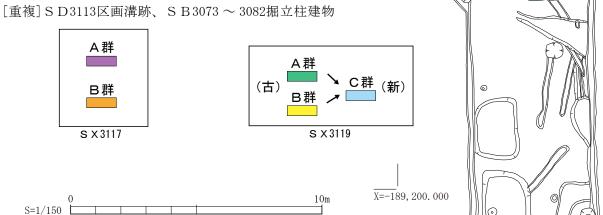
[規模・埋土] A群は5条で、長さ0.53~5.40(検出長)m、 幅0.31~0.61m、深さ0.04~0.11mである。方向はN -5° -Eである。**B群**は3条で、溝の間隔は約2.50m である。長さ1.00~4.04 (検出長) m、幅0.27~0.51m、 深さ $0.04 \sim 0.12$ mである。方向は $N-2 \sim 10^{\circ}$ - Eで ある。 C 群は3条で、溝の間隔は約3.00mである。 長 さ2.75~15.25 (検出長) m、幅0.27~0.56m、深さ $0.03 \sim 0.21$ mである。方向は $N-2 \sim 6$ ° - Eである。 [遺物]A群から土師器甕(B)、須恵器坏・甕が出土し た。B群から土師器坏(B)・甕(A・B)、須恵器坏・ 甕が出土した。C群から土師器坏(B)・甕(A)が出 土した。

【S \times 3122畑跡】 (第21 \sim 23 \cdot 70 \cdot 77図、写真図版21)

3区北部~4区で検出された東西方向の畑跡である。

小 溝 跡 は47 条で、溝の 間隔や方向、 切り合い関 係から8群 に分類された。



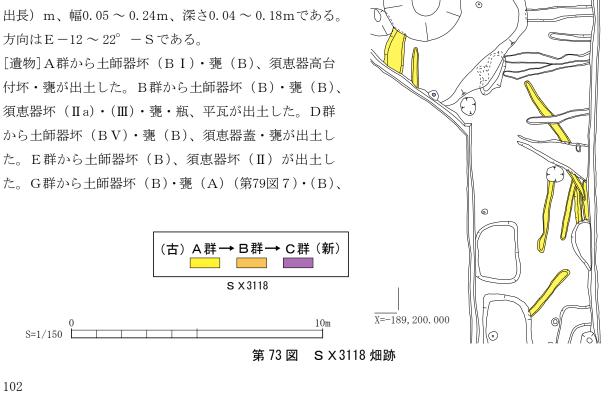


第72図 S X 3117 · 3119 畑跡

跡、SA3098掘立柱塀跡、SK3090~3097·3222土坑、 S X3123畑跡、ピット3・4、その他接する土坑、ピッ トより古い。

[規模・埋土] A群は9条で、溝の間隔は約2.00mである。 長さ1.10~8.20 (検出長) m、幅0.15~0.65m、深 $20.04 \sim 0.14$ mである。方向は $E - 1 \sim 5$ ° - Sであ る。**B群**は12条で、長さ0.64~12.59(検出長)m、幅 0.16~0.70m、深さ0.05~0.21mである。方向はE- $4^{\circ} - N \sim E - 10^{\circ} - S$ である。**C**群は5条で、溝の 間隔は約2.00mである。長さ3.90~10.35(検出長)m、 幅 $0.21 \sim 0.62$ m、深さ $0.07 \sim 0.11$ mである。方向はE -3° -Nである。**D群**は4条で、溝の間隔は1.70 \sim 2.00mである。長さ0.53~4.71(検出長)m、幅0.9 ~ 0.23m、深さ0.05~0.18mである。方向はE-4~ 7°-Sである。**E群**は3条で、溝の間隔は約2.00m である。長さ3.20~4.39 (検出長) m、幅0.13m、深 さ $0.08 \sim 0.26$ mである。方向は $E-5 \sim 10^{\circ}-S$ であ る。F群は3条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ 0.70~1.51 (検出長) m、幅0.03~0.11m、深さ0.04 mである。方向はE-1°-N~E-2°-Sである。 **G群**は6条で、溝の間隔は約2.00mである。長さ0.65 ~ 15.00 (検出長) m、幅0.16 ~ 0.55m、深さ0.07 ~ 0.20mである。方向はE-2°-Sである。**H群**は5条 で、溝の間隔は約2.00mである。長さ1.20~6.35(検 出長) m、幅 $0.05 \sim 0.24 m$ 、深さ $0.04 \sim 0.18 m$ である。

[遺物] A 群から土師器坏(BI)・甕(B)、須恵器高台 付坏・甕が出土した。B群から土師器坏(B)・甕(B)、 須恵器坏 (IIa)・(III)・甕・瓶、平瓦が出土した。D群 から土師器坏 (BV)・甕 (B)、須恵器蓋・甕が出土し た。 E 群から土師器坏 (B)、須恵器坏 (Ⅱ) が出土し



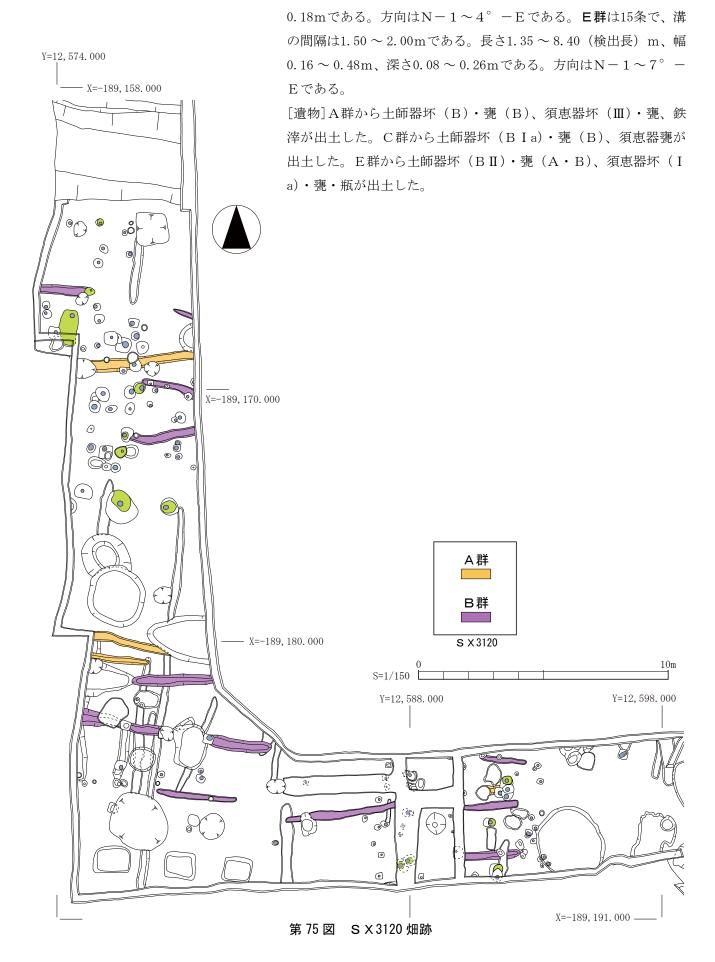
000 .009

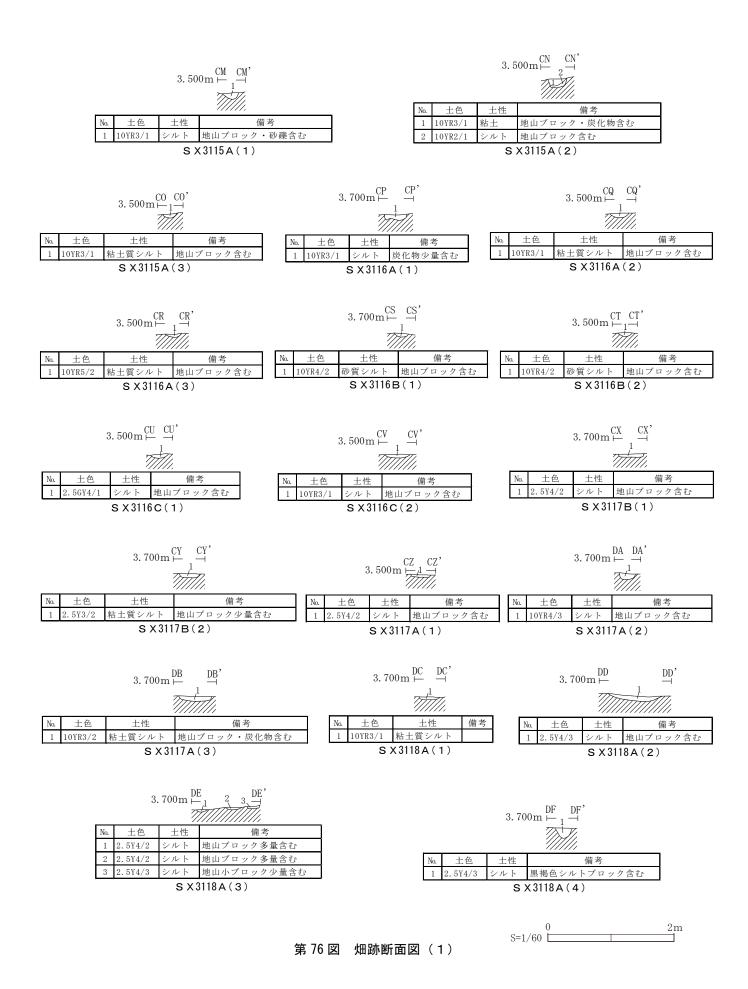
Y=12,

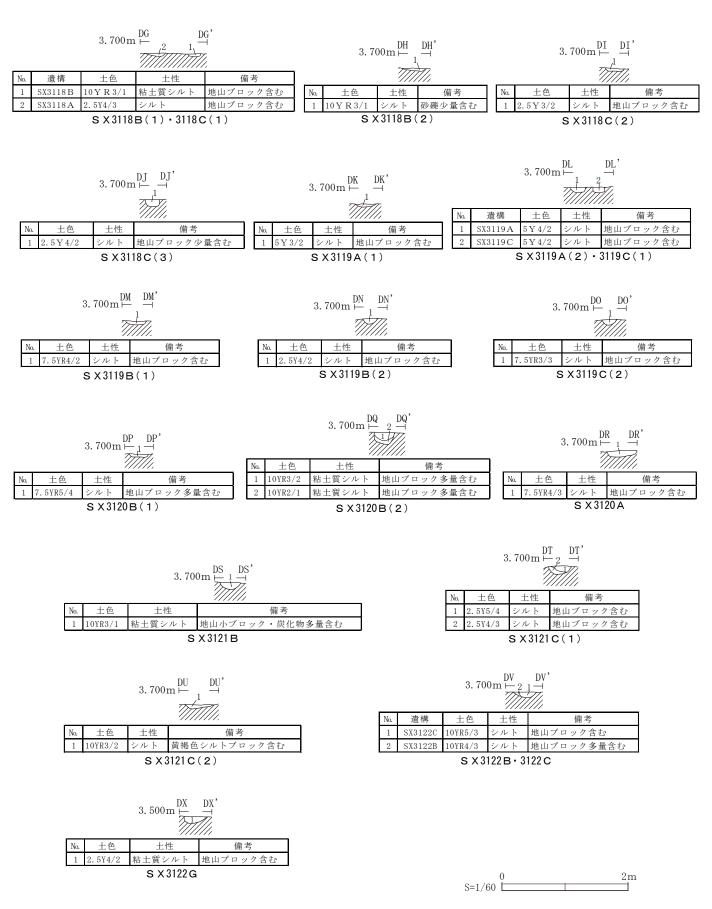
 $X=-\overline{189}, 170.000$

X=-189, 180. 000

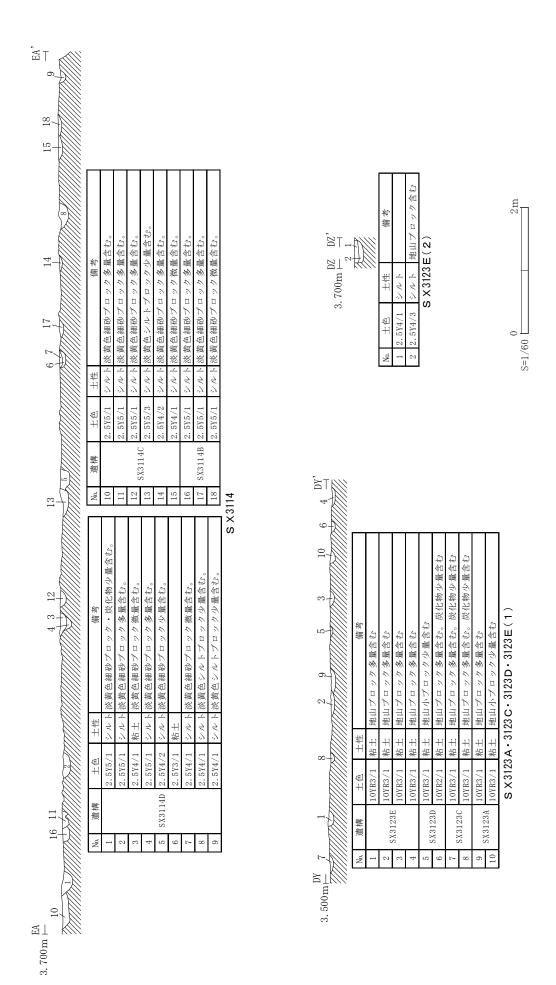




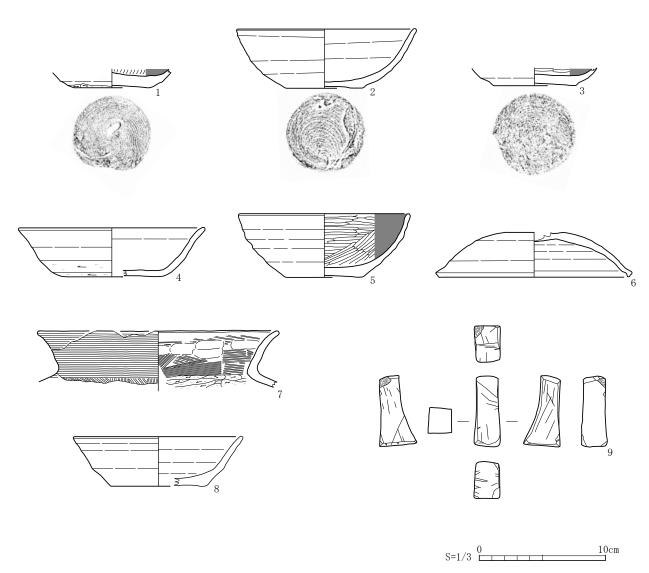




第77図 畑跡断面図(2)



第78図 知跡新面図(3)



No.	種類	遺構	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	SX3115A	1	ロクロナデ・手持ケズリ。 底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		6.2 · 24/24	(1.5)	R239	
2	須恵器坏		1	ロクロナデ。底:回転糸切	ロクロナデ	(14.1) • 10/24	6.2 • 24/24	4.7	R6	
3	土師器 坏	SX3116A	1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		6.5 · 24/24	(1.4)	R238	
4	須恵器坏	SX3118A	1	ロクロナデ・回転ケズリ。 底:回転ケズリ	ロクロナデ	(14.6) • 4/24	(8.2) · 10/24	3. 9	R5	
5	土師器坏	SX3120A	1	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13. 4) · 11/24	6.2 · 24/24	5. 0	R21	
6	須恵器蓋		1	ロクロナデ	ロクロナデ	(15. 2) · 1/24		(3.5)	R171	
7	土師器甕	SX3122G	1	ハケメ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ ハケメ	(18.8) • 4/24		(4.7)	R170	
8	須恵器坏		1	ロクロナデ。底:回転ヘラ切	ロクロナデ	(13.3) · 2/24	(7.8) · 7/24	3. 9	R108	
9	砥石		1			長:5.6	幅:2.1	厚:2.9	R168	

第79図 畑跡出土遺物



第79図5

第79図4



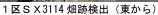






写真図版 19







1区SX3114畑跡完掘(北から)



2区SX3115・3116畑跡完掘(北から)



1区SX3115A群畑跡断面(西から)

写真図版 20



2区SX3117~3119畑跡検出(北から)



2区SX3117 ~ 3119 畑跡完掘(東から)



2区SX3118A群畑跡断面(南から)



3区SX3120B群畑跡断面(西から)



4区SX3122・3123畑跡検出(北から)



3区SX3122・3123畑跡完掘(東から)



4区SX3122・3123畑跡完掘(東から)

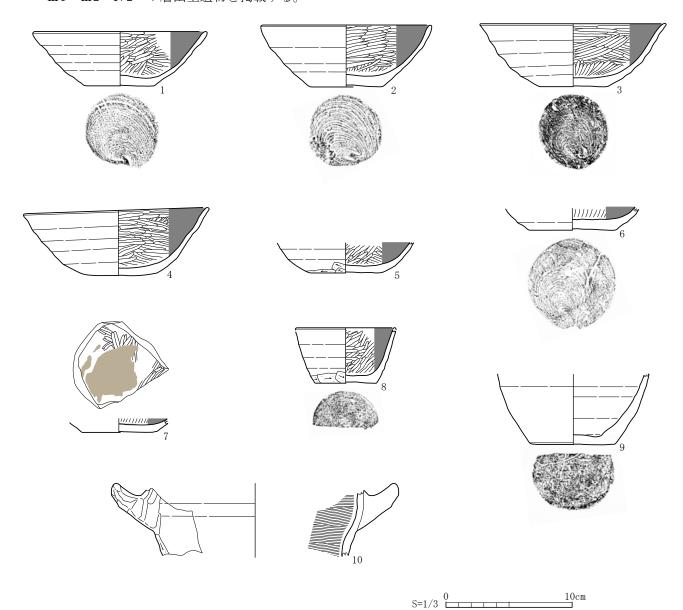


4区SX3123E群畑跡断面(南から)

写真図版 21

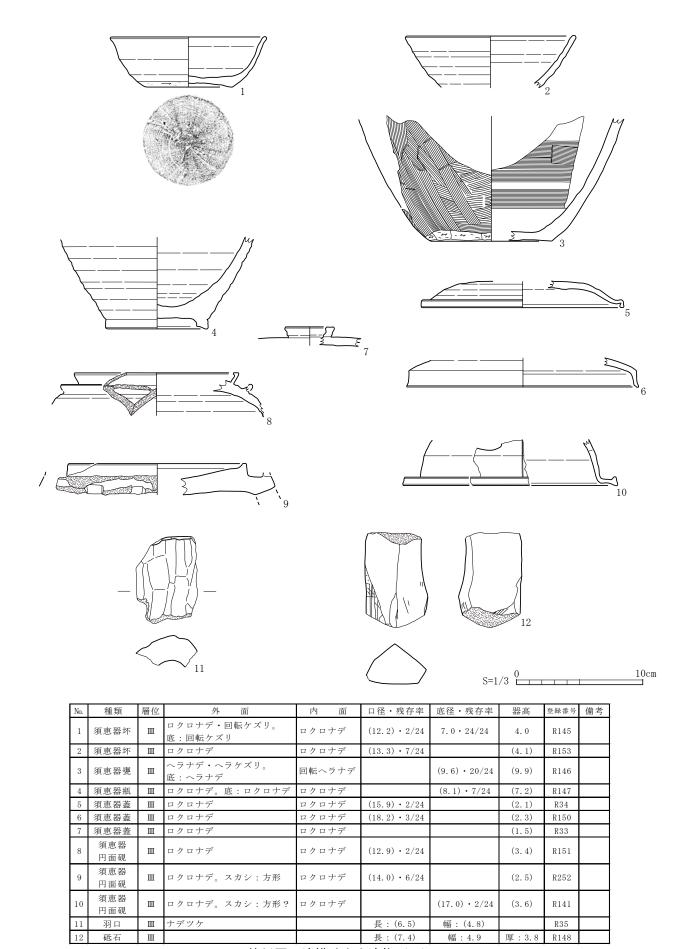
(9) 遺構外出土遺物

Ⅲ1・Ⅲ2・Ⅳ2・V層出土遺物を掲載する。

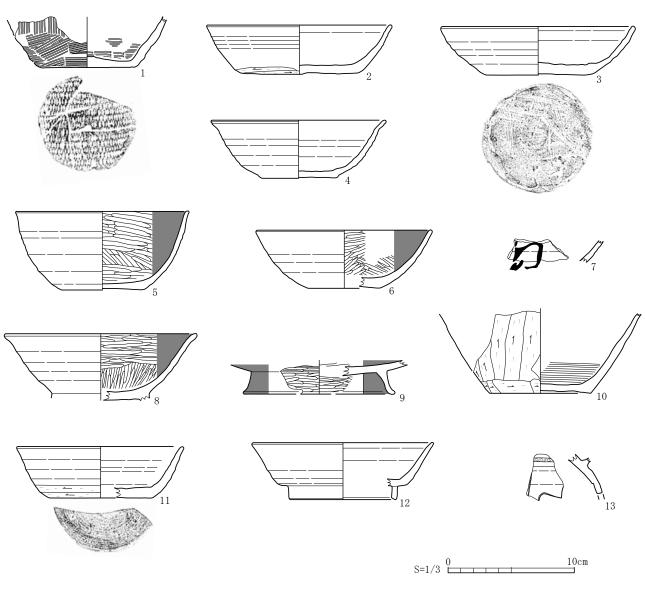


_									
No.	種類	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器坏	Ш	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13. 6) · 2/24	5. 4 · 24/24	4. 3	R142	
2	土師器坏	Ш	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13. 4) · 4/24	5.6 · 24/24	4. 9	R253	
3	土師器坏	Ш	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.6) · 6/24	5. 2 · 24/24	5.0	R18	
4	土師器坏	Ш	ロクロナデ。底:摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(14.5) · 16/24	6.1 · 24/24	5.4	R152	
5	土師器坏	Ш	ロクロナデ・ヘラケズリ。 底:手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		5.8 · 24/24	(2.4)	R143	
6	土師器坏	Ш	ロクロナデ。底:回転糸切・ 手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(6.8) · 23/24	(1.7)	R140	
7	土師器坏	Ш	ロクロナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理		(5.9) · 15/24	(1.1)	R32	内面に漆付着
8	土師器 坏	Ш	ロクロナデ・ヘラケズリ。 底:回転糸切・手持ケズリ	ヘラミガキ・ 黒色処理		(4.9) · 13/24	(4.4)	R149	
9	土師器甕	Ш	ロクロナデ。底:不明	ロクロナデ		(6.8) • 16/24	(5.6)	R17	底面にヘラ描き
10	土師器甑	III	ロクロナデ・ヘラケズリ	ヘラナデ			(5.8)	R144	

第80図 遺構外出土遺物 (1)

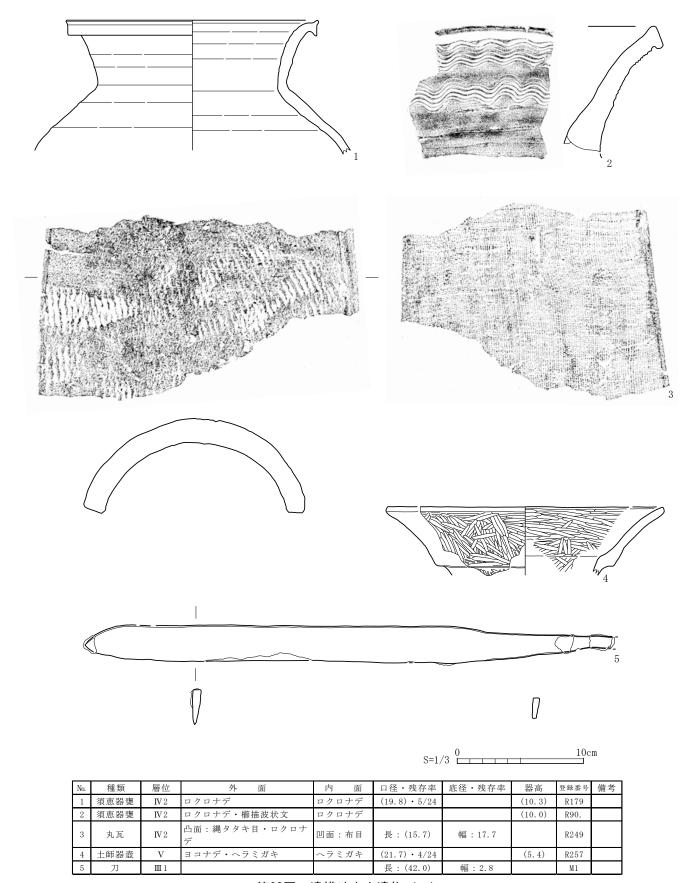


第81図 遺構外出土遺物(2)



No.	種類	層位	外 面	内 面	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1	土師器甕	III \sim IV 2	ハケメ。底:筵状圧痕	ハケメ		(7.6) • 19/24	(4.0)	R155	
2	須恵器坏	III \sim IV 2	ロクロナデ・手持ケズリ。 底:回転ヘラ切・手持ケズリ	ロクロナデ	(14.6) • 10/24	(9.2) · 14/24	3. 9	R25	
3	須恵器坏	$III \sim IV 2$	ヘラナデ。底:手持ケズリ	ロクロナデ	(15.2) • 10/24	8.6 • 24/24	3.9	R156	
4	須恵器坏	III \sim IV 2	ヘラナデ。底:回転糸切	ロクロナデ	(13.7) · 5/24	(5.9) · 7/24	4.6	R154	
5	土師器坏	IV 2	ロクロナデ。底:摩滅	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.6) · 6/24	(6.5) · 15/24	6.2	R97	
6	土師器坏	IV 2	ヘラナデ。底:回転糸切	ヘラミガキ・ 黒色処理	(13.8) · 2/24	(5.6) • 9/24	4.6	R180	
7	土師器坏	IV 2	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理			(1.6)	R250	墨書「南」
8	土師器 高台付坏	IV 2	ロクロナデ	ヘラミガキ・ 黒色処理	(15. 1) • 2/24		(5.3)	R251	
9	土師器 高台付坏	IV 2	ヘラミガキ・黒色処理	ヘラミガキ・ 黒色処理		(12.0) • 1/24	(2.7)	R38	
10	土師器甕	IV 2	ロクロナデ・ヘラケズリ。 底:不明	回転ヘラナデ		(8.0) • 17/24	(6.2)	R178	
11	須恵器坏	IV 2	ロクロナデ・回転ケズリ。 底:回転ケズリ	ロクロナデ	(13. 1) · 4/24	(8.2) · 12/24	4. 1	R247	
12	須恵器 高台付坏	IV 2	ヘラナデ。底:不明	ロクロナデ	(14.3) · 2/24	(8.4) • 5/24	4.5	R248	
13	須恵器 円面硯	IV 2	ロクロナデ・沈線。 スカシ:十字形	ロクロナデ			(3.6)	R79	

第82図 遺構外出土遺物(3)



第83図 遺構外出土遺物(4)



写真図版 22



写真図版 23







第82図10

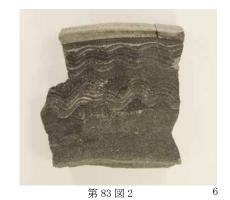
第 82 図 11





第82図13 4









第83図3



写真図版 24

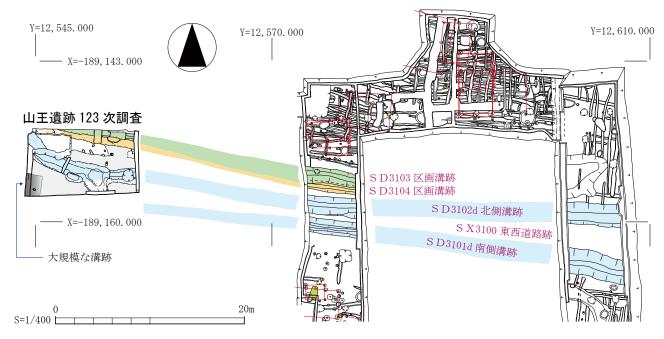
3 まとめ

(1) 山王遺跡第123次調査の検討

平成24年度に震災復興関連で行われた山王遺跡第123次調査(以下、山王123次と記す。多賀城市教育委員会 2021)は、本調査地の西隣に位置し、西8道路跡と東西道路跡の交差点を発見したとの調査結果を報告している。そこで、本調査成果と関わるためあらためて検討したい。

本調査と山王123次の位置関係は、第84図に示した。両調査区の距離は約17mとなる。本調査で得られた東西道路跡とSD3103・3104区画溝を西へ推定延長させてみると、山王123次調査報告と異なる解釈となる。それは山王123次で東西道路跡南側溝跡(SD2810南側溝)としたものが本調査の東西道路跡北側溝跡に、北側溝跡(SD2809北側溝)としたものが本調査のSD3103・3104区画溝跡にそれぞれ対応することである。根拠は山王123次の北側溝跡に方格地割廃絶以降の黒色粘土層が堆積していないことや、3時期あるものの、2時期目と3時期目の切り合い関係や規模がSD3103・3104区画溝に類似するためである。山王123次の南側溝跡も、本調査の北側溝跡とつなげた方が、平面図上スムーズに連結できると推定される。さらに、山王123次の調査区南西部で東西方向の大規模な溝跡が報告されており、これについても本調査のSD3105区画溝を思わせるものである。このように考えるならば、山王123次の発見遺構は本調査と共通する様相となり、東西道路跡及び区画溝が西側に延長していく成果が追加されたこととなる。

このほか検討すべき事として、西8道路跡の西側溝跡(SD2812西側溝)がある。南東方向の2度の掘り直しがある溝跡で、対応する東側溝跡は調査区外の東側にあるものと推定している。西8道路については、令和3年度の山王遺跡第233次調査で東側溝が検出された(令和4年度報告予定)。その成果を踏まえると、山王123次調査区よりさらに西側に西8道路跡が通過することが推定され、西8道路と記載された南西方向に突き出た遺構は、西側溝ではないと考えたい。なお、現時点ではその遺構がどんな形状になるか読み取れないため、性格等は不明である。



第84図 山王遺跡第123次調査の検討

(2) 東西道路跡と区画溝跡の変遷

2・3区でSX3100東西道路跡が発見され、さらに道路直下から先行する区画溝跡2条を確認した。これらと道路跡北脇で検出した区画溝跡2条の変遷と年代について古い時期から検討したい(第85・86図)。 【SD3106区画溝跡】最も古い遺構はSD3106区画溝跡である。2区だけで検出されたが、SD3105区画溝跡により大きく壊されているため、3区でも存在した可能性がある。位置はSD3101南側溝跡よりわずかに北寄りになる。出土遺物は土師器・須恵器の破片数点で、ロクロ調整の土師器甕がある。遺構の年代は8世紀末以降と考えられる

【SD3105区画溝跡、SD3103・3104区画溝跡】次がSD3105区画溝跡である。上幅が広い形状で、SD3101南側溝跡により一部壊されている。出土遺物(下層)は土師器はロクロ調整である。須恵器は逆台形状で、回転へラ切り無調整、回転へラ切り後に回転へラケズリ、静止糸切り後に手持ちヘラケズリ、切り離し不明で回転へラケズリなどがある。このような特徴は、多賀城跡大畑地区SI2153住居跡出土遺物(多賀城跡調査研究所 1993)、山王遺跡八幡地区SK7093土坑(宮城県教育委員会 2018)などがあり、8世紀末~9世紀前葉に位置付けられている(宮城県教育委員会 2018)。遺構の年代としては、SD3106区画溝跡との重複や上層に時期が新しい遺物も散見できることから、9世紀前半頃と考えておきたい。

SD3103・3104区画溝跡は、3区東西道路跡の北脇で検出された。SD3104区画溝跡はSD3103区画溝跡に一部壊されており、方向も近似することから掘り直しの可能性もある。遺物は少なく、流れ込み等も考えられる出土状況である。これらの溝跡はSD3102北側溝跡とごく近い距離にあり、区画施設としての機能を考えた場合、SX3100東西道路跡と同時期に作られたとは考えにくい。このことから、SD3103・3104区画溝跡はSD3105区画溝跡と併存していたものと推定したい。

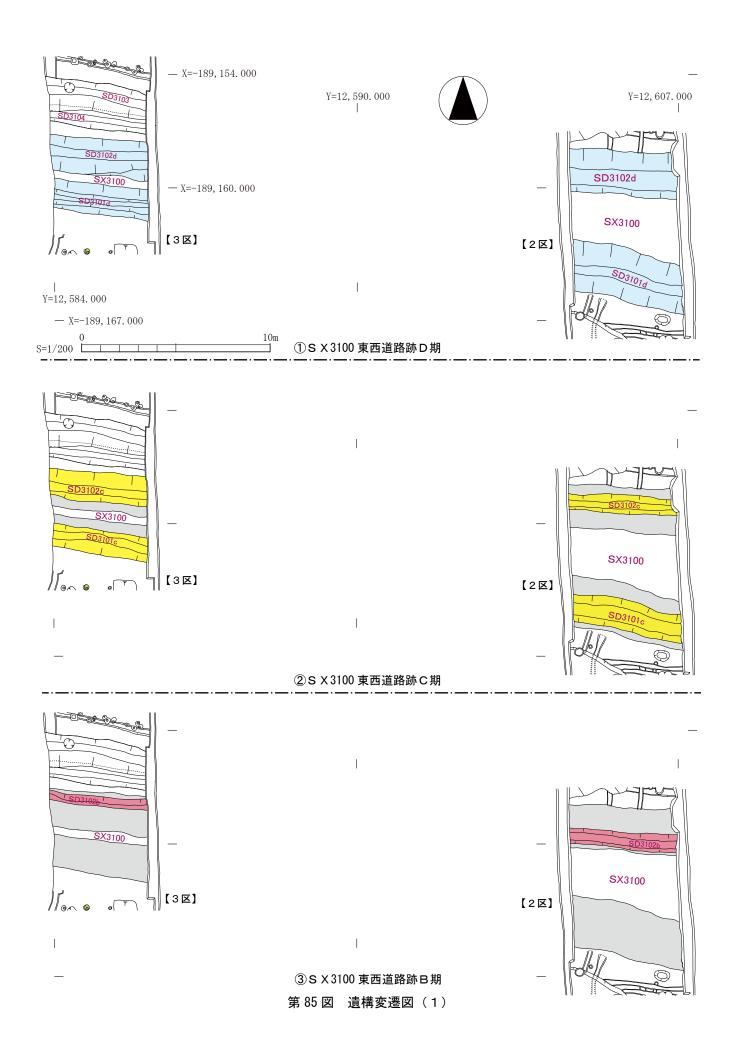
【SX3100東西道路跡A期】次いでSX3100東西道路跡の最古段階であるA期となる。B期以降の掘り直 しの影響を受けて3区SD3102北側溝跡だけ検出された。遺物は出土していない。遺構の年代は後述する B期の年代を踏まえて、9世紀後半~10世紀前葉以前頃と考えられる。

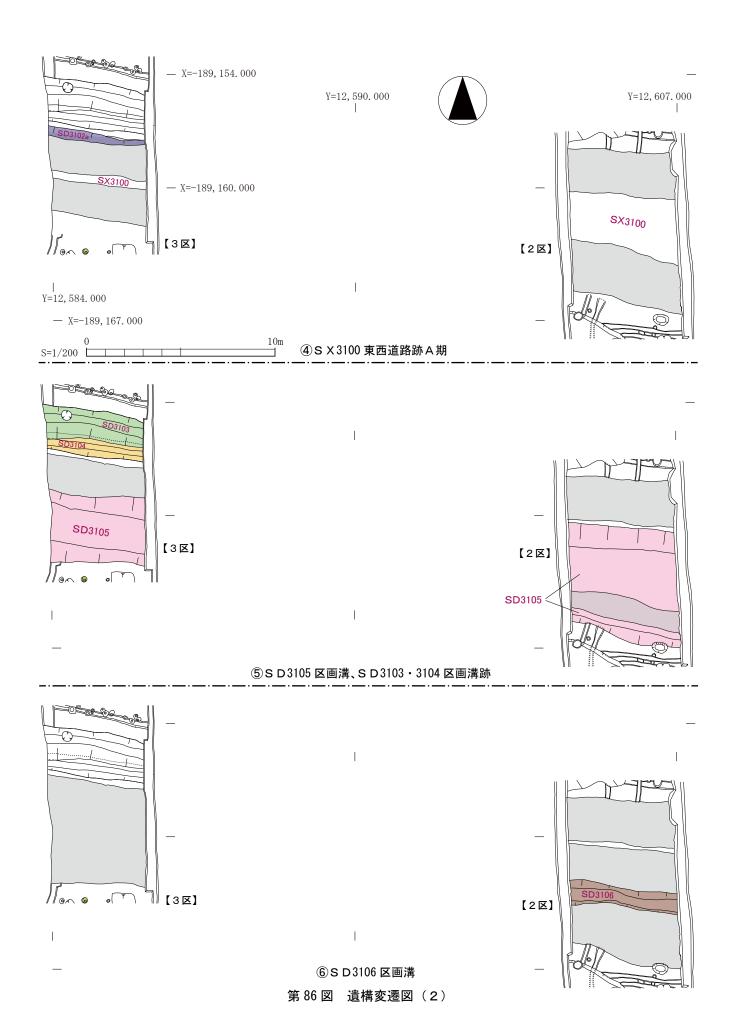
【SX3100東西道路跡B期】SX3100東西道路跡の2期目であるB期は、C期以降の掘り直しの影響を受けて2・3区SD3102北側溝跡だけ検出された。3区北側溝跡埋土で灰白色火山灰の自然堆積を確認した。このことから、遺構の年代は10世紀前葉頃と捉えられる。

【S X 3100東西道路跡 C 期】 S X 3100東西道路跡の 3 期目である C 期は、D 期の掘り直しで一部壊されているが、S D 3101南側溝跡・S D 3102北側溝跡とも検出された。この時期でようやく東西道路跡の規模が明らかとなる。路幅(側溝心々計測)は 2 区で5.58 \sim 6.28 m、 3 区で2.53 \sim 2.80 mになり、調査区西側で路幅が狭くなる傾向にある。出土遺物は少なくまとまりがないことから、遺構の年代はB 期を踏まえて10世紀前葉以降としておきたい。

【S X 3100東西道路跡 D 期】 S X 3100東西道路跡の最終段階である D 期は、S D 3101南側溝跡・S D 3102 北側溝跡が検出された。路幅 (側溝心々計測) は 2 区で5.00 ~ 5.68 m、3 区で2.42 ~ 2.59 m になり、路幅・方向とも C 期と大差はない。遺構の年代について、側溝跡埋土の上層に方格地割廃絶以降の黒色粘土層が堆積していることから、下限を10世紀後半頃と考えられる。

調査記録から以上のような変遷と年代が想定される。特に、S X 3100東西道路跡の直下から、道路跡と 方向を同じくした区画溝跡の検出は、方格地割を検討する上で重要な発見と考えられる。





(3) 方格地割

方格地割について検討したい。8世紀後半以降、南北・東西大路を中心に東西約1.5km、南北約0.8kmの 範囲に方格地割が形成された。基幹道路である大路を基準として施行された方格地割は、幾度かの改修を 経ながら段階的に拡大したと考えられている。

第87図はこれまでの調査成果に、平成27年度~令和2年度にかけて実施した多賀城地区ほ場整備事業に伴う発掘調査(報告書作成中)で新たに得られた成果を加えて作成された方格地割図である。この中で、東西大路より南に施工された道路について見ていきたい。東西大路から南へ約140m離れた地点から南1道路が検出されている。南2道路は東西大路から南へ260~280m離れた地点から検出されているが、これまでは西側にどのように延びているのか不明な点が多かった。ほ場整備事業による調査により7地点で確認することができ、図で示したように東西大路と平行することが有力となった。そしてさらに東西大路から南へ390~400m離れた3地点で東西方向の道路跡が検出された。この道路跡について、今のところ道路名はない。本調査および山王遺跡第123次調査で検出した東西道路跡は、位置関係からこの3本目の東西道路跡の延長線上に当たる。今回の発見によりこの東西道路跡は、延長約800m以上の直線状の道路で、東西大路に平行することが推定される。ほ場整備事業の報告書でさらに詳細な検討が加えられるであろうが、現時点での状況を考慮し、東西大路にほぼ平行する広域的な区画道路として「南3道路」と呼びたい。南3道路の設定により、まち並みの広がりや形成について今後検討していく必要がある。

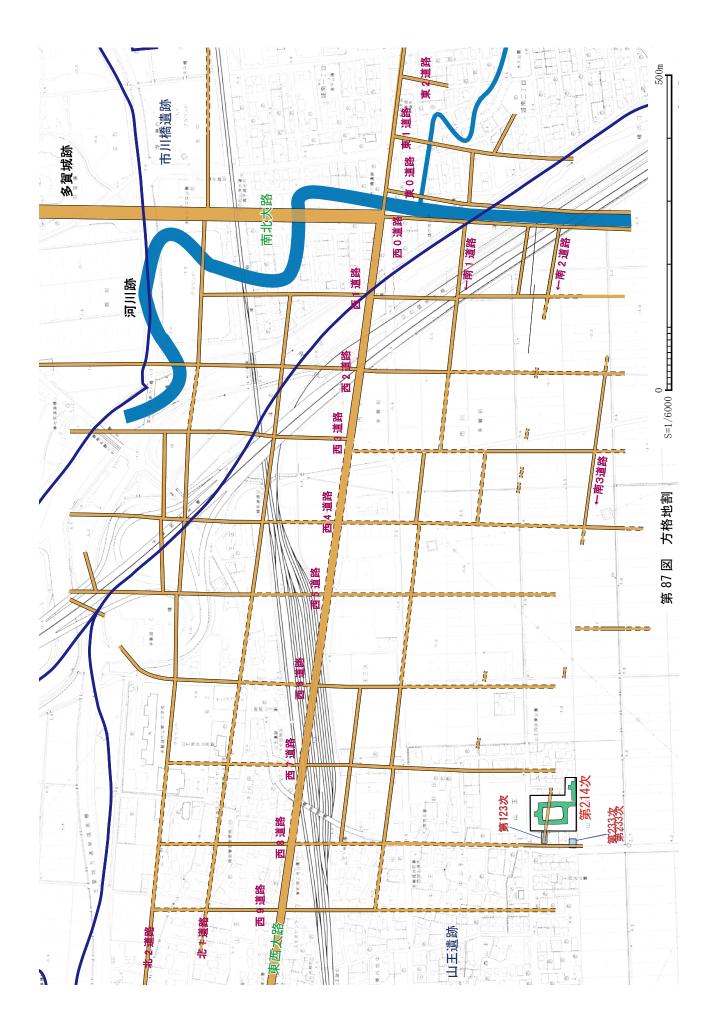
(4) 畑跡

10面の畑跡が検出された。畑の方向は東西方向と南北方向があり、南北方向が新しい傾向にある。畑跡の小溝は間隔や切り合い関係から複数の群に分けられ、繰り返し改変されたことが読み取れる。溝の間隔は1.50~2.00mのものが多い。平面図に記載できなかったが、小溝底面に凹凸があり作業中の工具痕と推定される。出土遺物は小片が多いものの、土師器坏は非ロクロ調整とロクロ調整があり、ロクロ調整には回転へラ切り後に回転へラケズリ、切り離し不明で手持ちヘラケズリ、回転へラ切り無調整、静止糸切り無調整、回転糸切り無調整がある。須恵器坏は回転へラ切り後に回転へラケズリ、回転へラ切り後に手持ちヘラケズリ、回転へラ切り無調整、回転糸切り無調整がある。これらの特徴から、土器の年代は8世紀末から9世紀前半頃と考えられ、畑跡の年代も同様に捉えられる。なお、本調査区から程近い山王遺跡第187~191調査(多賀城市教育委員会 2018)でも畑跡が検出され、年代を8世紀末以降としており、共通する。

(5) 掘立柱建物跡、掘立柱塀跡

掘立柱建物跡24棟、掘立柱塀跡2条が検出された。全ての建物跡・塀跡は切り合い関係が畑跡より新しい。また、1区でこれらの遺構がⅡ層(方格地割廃絶以降の黒色粘土層)・Ⅲ1層(灰白火山灰の二次堆積ブロックを含む)に覆われている。このことから、建物・塀の機能時期は9世紀後半から10世紀後半頃の期間と推定される。

灰白色火山灰や切り合い関係から次のような変遷と年代が考えられる。1区では重複して掘立柱建物跡5棟、掘立柱塀跡1条を検出し(第7~9図)、SB2760・2763・2764掘立柱建物跡で柱穴掘方に灰白色火山灰ブロックを確認した。SB2761掘立柱建物跡で柱抜取穴に灰白色火山灰ブロックを確認した。残り



のSB2762掘立柱建物跡、SA2765掘立柱塀跡に灰白色火山灰は含まれていない。これらの観察結果を整理すると、(古) SB2762、SA2765 \rightarrow SB2761 \rightarrow SB2760・2763・2764 (新) という変遷となる。 4区で検出したSB3078掘立柱建物跡(第22図)は、灰白色火山灰(自然堆積)を含むSK3093土坑と重複しこれより古いため、年代は9世紀後半となる。また、SB3077掘立柱建物跡(第22図)は、灰白色火山灰ブロックを含むSK3096土坑と重複しこれより新しいため、年代は10世紀初頭以降となる。

(6) SD3110区画溝跡

1区で検出した、埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積する、南北方向の溝跡である(第10図)。1度の掘り直しが認められ、2時期の変遷が考えられる。8世紀末~9世紀前半と推定する畑跡が、この溝跡を境に西側だけで確認されており、土地利用に関わる機能が想定される。年代は畑跡への影響も踏まえ、8世紀末~9世紀後半の時期と考えられる。山王遺跡第187~191調査(多賀城市教育委員会 2018)で南北方向に延びる溝跡(SD2310溝跡)が確認されているが、推定延長させるとほぼこの溝跡につながる位置関係にある。その間に南3道路を跨ぐこととなるが、長い距離を区画した施設の可能性を指摘しておきたい。

(7) SD3113区画溝跡

2区・4区で検出した南北方向の溝跡である(第23図)。1度の掘り直しが認められる。新しい時期の 溝跡と畑跡は重複し、溝跡が新しい。溝跡の東側で畑跡、西側で掘立柱建物跡、掘立柱塀跡、畑跡などが 発見されているが、溝跡を境に掘立柱建物跡、掘立柱塀跡の有無、畑跡の小溝の密度が異なるなどが確認 できた。畑跡への影響も踏まえると、溝跡の年代の上限は8世紀末が妥当と思われる。しかし、古い時期 の溝跡埋土に灰白色火山灰ブロックが含まれているなど、断面観察ではこのことを裏付ける資料が得られ なかった。なお、重複によりさらに古段階の溝跡が消滅したとも考えられることを付け加えておきたい。

(8) SK3085土坑

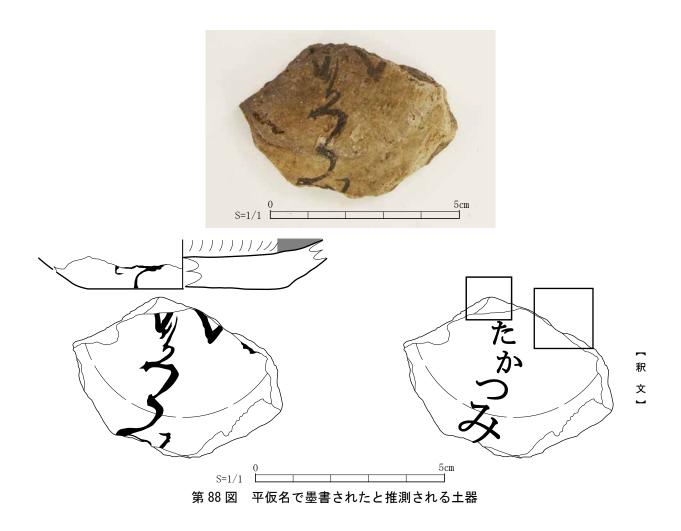
埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積しているSK3085土坑の出土土器(第63~66図)について検討する。土師器坏は椀形のロクロ調整で、回転糸切り無調整が主で、他に回転へラ切り後に回転へラケズリ、回転糸切り後に手持ちヘラケズリがある。須恵器坏は椀形の回転糸切り無調整が主で、他に回転へラ切り後に回転へラケズリがある。須恵系土器は出土していない。このような特徴は多賀城跡第66次調査SK2321土坑出土第2群土器(宮城県多賀城跡調査研究所 1996)、多賀城跡第61次調査鴻の池第10層出土土器(宮城県多賀城跡調査研究所 1992a)に類似し、出土土器の年代は9世紀後半頃と考えられる。また、土師器坏の底径は5.1~6.3cmで鴻の池第10層出土土器と比較し小さい傾向にあり、9世紀後半代でも新しい時期の様相が認められる。なお、須恵器坏でみると底径/口径比は0.38~0.43、器高/口径比は0.30~0.38となり、年代について石巻市関ノ入遺跡の1号窯跡・2号窯跡・3号窯跡出土土器(河南町教育委員会 1993)の中に類似点を見出すことができる。

(9) 平仮名と推測される墨書土器

SK3085土坑の出土した墨書土器(土師器坏・須恵器坏)12点の中で、「平仮名」で墨書されたと推測

される土器がある(第88図)。ロクロ調整、放射状へラミガキが施された回転糸切り無調整の土師器坏で、底部から体部にかけての一部が残存している。土器の年代は他の出土遺物同様に9世紀後半に属する。文字は外面に墨書されており、写真中央に縦書きの文字とその右上にも文字が認められる。字形や筆のはこびから、文字が続け書き(連綿)されているように観察される。東京大学名誉教授 佐藤信氏のご教示により、第88図に示したような釈文を頂くことができた。内容は和歌などが想像されるが、現時点では不明である。

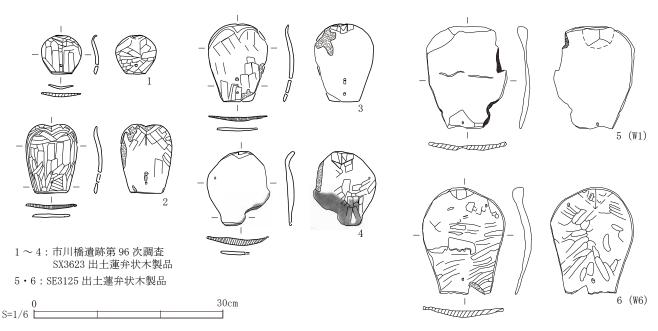
連綿体の出現が現在へつながる平仮名の成立とされ、その成立は9世紀末~10世紀初頭頃と考えられている(川尻秋生 2020、名児耶明 2013、平川南 2019)。成立期頃の資料としては、10世紀中葉段階とされる山梨県甲州市ケカチ遺跡出土の「和歌刻書土器」があり(甲州市教育委員会 2013)、地方での書写活動の様相が推定される貴重な資料とされている(長谷川千秋 2019)。また、多賀城跡での仮名資料の類例として、平川南氏は多賀城跡第60次調査(多賀城跡調査研究所 1992b)の井戸跡出土で、9世紀中頃に廃棄されたと推定される「多賀城跡出土仮名漆紙文書」を取り上げ、「書かれている文字のほとんどが仮名であるが、万葉仮名・草仮名が目立ち、平仮名文書とはいいがたい」と記している(平川南2019)。今回の土器について、釈文を基にそれぞれ漢字に直すと、「多可川美」となる。これらの字を元の漢字どおりに読もうとしても意味が通らないため、少なくともこれらの字は仮名と解釈した方が自然と思われる。そして先に述べたように連綿体に見えることからも、平仮名の可能性を指摘しておきたい。



(10) 蓮弁状木製品

SE3125井戸跡出土の蓮弁状木製品について検討したい (第58~60図)。形状は楕円形あるいは長方形 に類するもので、中央部あたりが匙を思わせるように浅く窪んでおり、実測図左面を凹面、右面を凸面と 呼ぶこととする。上部(実測図の上方を上部と呼び、下方を下部と呼ぶ)が下部より長くなる傾向にある。 9点の木製品を観察すると、未成品であることが次のことから推定される。凹面・凸面ともに鑿状工具に よる粗い加工痕が明瞭に残る。第62図1 (W7)・3 (W9) の凹面では、中央部に向かって上部側から と下部側から加工が加えられ、中央付近に割裂(工具により滑らかに削られるのと対照に、工具の圧に より面が剥がされささくれ状になる)ができている。割裂は第60図1 (W1)、第61図1 (W4)・3 (W 6) でも確認された。工具痕の幅は2.5~4.0cmで、3.0cm程度のものが多い。さらに特徴として、凸面上 部にいびつな三角錐状の突出した部位を持ち、9点すべてに共通する加工が施されている。 長さは11.9(欠 損あり) ~ 19.7cmで、平均16.1cmである。幅は8.9 (欠損あり) ~ 13.0cmで、平均11.2cmである。樹種 はいずれもカヤ材である。なお、9点の中で、製作工程上進んでいると推定されるものは、第60図1 (W 1)と第61図3(W6)で、他に比べ表面が滑らかで、全体的に薄く仕上げられている。そして、下部に 穿孔が施されている。出土状況は、井戸枠内の埋土から出土した。ある程度井戸が埋まりつつある時期に、 一括で持ち込まれたと思われる。欠損が認められるものもあるが、概して目立つほどではなく、廃棄とは 考えにくい。おそらく水漬けされた状態を意図しての行為で、加工と加工の間の所作として推定しておき たい。

上記した蓮弁状木製品の類例として、市川橋遺跡第96次調査S X 3623池状遺構出土蓮弁状木製品がある(多賀城市教育委員会 2022)。4点出土しており(第89図)、その特徴は極めて類似している。製作工程から考えると、S X 3623の方が成品に近いことが推定される。上部は薄く加工され、凸面側に外反している。さらに、第89図 2 は上部先端に抉りが作出され、花弁の先端を模したかのようでもある。市川橋遺跡第96次調査ではこの他にも仏教関連遺物が出土しており、蓮弁状木製品は蓮台の一部とも考えられる仏教系彫刻と推定している。したがって、本調査出土蓮弁状木製品についても仏像の台座の一つである蓮台の一部の可能性を指摘しておきたい。



第89図 蓮弁状木製品

(11) 総括

- ・山王遺跡第214次調査(宮城県多賀城市山王地区)は、宅地造成に伴う本発掘調査で、調査面積約1,400㎡を平成31・令和2年度で実施した。
- ・遺構確認面は、VI層(古墳時代以降)、Ⅲ2・IV1・IV2層(奈良時代以降)、Ⅲ1層(10世紀後半以降)である。 ・発見した遺構は、整地層1面、道路跡1条、溝跡14条、掘立柱建物跡24棟、掘立柱塀跡2条、井戸跡3基、
- ・古墳時代の遺構は、1区のSD3108・3109溝跡がある。

土坑63基、畑跡10面などである。

- ・調査区周辺は、8世紀末~9世紀前半頃に畑地として利用されていたことが分かった。小溝跡の密度から繰り返し改変しつつ耕作された様子が窺われる。この時期に伴う遺構は、 $SD3103 \sim 3106 \cdot 3110 \cdot 3113$ 区画溝跡があり、それぞれ畑地利用に影響を及ぼしていたと推察される。また、 $SD3105 \cdot 3106$ 区画溝跡は、南3道路跡に先行する区画施設としての性格が考えられ、さらなる検討が必要である。
- ・9世紀後半以降、畑地から掘立柱建物跡が立ち並ぶ景観へと変化した。この時期に伴うSX3100東西道路跡は、方格地割の基幹道路である東西大路から約390~400m南方の位置で、多賀城地区ほ場整備の発掘調査成果も踏まえ、3本目の広域的な区画道路として「南3道路」と名付けた。4時期の変遷があった。これらの遺構の下限は10世紀後半頃になる。この他、SD3110・3113区画溝跡や井戸跡、土器がまとまって出土したSK3085土坑などがある。
- ・9世紀後半頃のSE3125井戸跡から、未成品の蓮弁状木製品9点(カヤ材)が出土した。その形状が仏像の台座の一つである蓮台を飾る蓮弁に類似するものである。市川橋遺跡第96次調査出土木製品に類例がある。
- ・9世紀後半頃のSK3085土坑から、平仮名で墨書されたと推測される土師器坏が出土した。土器外面に連綿体の文字を2行読み取ることができるが、今後詳細に字形等を検討する必要がある。
- ・Ⅲ1層検出遺構は、1区のSD3107溝跡がある。

(引用・参考文献)

河南町教育委員会 1993:『須江窯跡群 関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書第7集

川尻秋生 2020:「新たな文字文化の始まり」『シリーズ古代史をひらく 文字とことば―文字文化の始まり』岩波書店

甲州市教育委員会 2013:『古代史しんぽじうむ「和歌刻書土器の発見」ケカチ遺跡と於曽郷』甲州市文化財調査報告書第25集

多賀城市教育委員会 2018:「山王遺跡第187~191次調査」『多賀城市内の遺跡2』多賀城市文化財調査報告書第138集

多賀城市教育委員会 2021:「山王遺跡第123次調査」『新田・山王・高崎・西沢遺跡ほかー震災復興関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ-』 多賀城市文化財調査報告書第146集

多賀城市教育委員会 2022:『市川橋遺跡第96次調査発掘調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第151集

名児耶明 2013:「仮名文字の歴史」『古代史しんぽじうむ「和歌刻書土器の発見」ケカチ遺跡と於曽郷』甲州市文化財調査報告書 第25集

長谷川千秋 2019:「山梨県甲州市ケカチ遺跡出土和歌刻書土器」『万葉仮名と平仮名 その連続・不連続』三省堂

平川南 2019:『新しい古代史へ2 文字文化のひろがり-東国・甲斐からよむ-』吉川弘文館

宮城県多賀城跡調査研究所 1992a:「第61次発掘調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991』

宫城県多賀城跡調査研究所 1992b:「第60次発掘調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991』

宫城県多賀城跡調査研究所 1996:「第66次発掘調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1995』

報告書抄録

我 口 音 抄 郵											
ふり	がな	さんのういせき									
書	書 名 山王遺跡										
副 書 名 第214次調査報告書											
シ リ -	- ズ 名 多賀城市文化財調査報告書										
シリー	ズ番号	第150集									
編著	編著者名赤澤靖章										
編集	編集機関多賀城市埋蔵文化財調査センター										
所 在 地 〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27-1 Tm: 022-368-0134											
発行生	F 月 日	西暦2022年:	3 月								
ふりがな		ふりがな 所 在 地] —		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
771-122291		771 11. 76.		市町村	遺跡番号				田傾		
さんのか せき 山王遺跡 だい じ (第214次)		うしさんのあぎさんのまんく ばんち 成市山王字山王四区169番地		042099	18013	38度 17分 45秒	140度 58分 38秒	20191101~ 20201110	1, 400 m²	宅地造成	
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項			
さんのか せき 山王遺跡 だい じ (第214次)	集落・都市	古墳・奈良・ 平安 整地層、道路跡、溝跡、掘 立柱建物跡、掘立柱塀跡、 井戸跡、土坑、畑跡 土師器、須恵器 南 3 道路を発見									
要約 古墳時代の溝跡、奈良・平安時代の整地層、道路跡、溝跡、掘立柱建物跡、掘立柱塀跡、井戸跡、 土坑、畑跡などを発見した。											

多賀城市文化財調査報告書第150集

山王遺跡

第214次調査報告書

令和4年3月28日発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

宮城県多賀城市中央二丁目27番1号

電話(022)368-0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話(022)368-1141

印刷 株式会社東誠社

仙台市宮城野区岡田西町1-55

電話(022)287-3351